

ならのがんに関する患者意識調査
報 告 書

令和4年3月

奈良県

目次

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的	3
1-2. 調査方法	3
1-3. 調査内容	3
1-4. 配布・回収結果	4
1-5. 調査結果の見方	4

第2章 アンケート調査結果

2-1. 医療機関で受けた診断や治療について	
問1 がんの診断時期と年代	7
問2 がんの部位	8
問3 治療等を受けている病院名	10
問3-1 かかりつけ医の有無	11
問4 現在の治療状況	12
問5 今まで受けた治療	13
問6 病院を選んだ理由	14
問7 病院を選択する際の情報源	15
問8 現在の病院に対する満足度	16
問9 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述）	19
問10 がん治療の納得感	21
問11 医師から受けた説明の理解度	23
問12 疑問や意見の医師への意思疎通	24
問13 不妊への影響について説明の有無	26
問14 不妊への影響について具体的な説明	28
問15 院内スタッフの連携について	31
問16 医師等からの情報提供	33
問17 セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無	35
問18 セカンドオピニオンの経験の有無	37
問19 現在の心身の状態	38
問20 緩和ケアの認知度	43
問21 緩和ケアを開始すべき時期の認識	45
問22 緩和ケア外来の認知度	47
問23-1 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無	48
問23-2 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善	49
問23-3 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無	52
問23-4 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善	53
問24 受けた治療の納得感	56
2-2. 地域連携について	
問25 在宅医療・移行時の情報伝達について	58
問26 がん地域連携クリティカルパス等の認知度	60
2-3. 今後の療養について	
問27 在宅緩和ケアの認知度	62
問28 在宅緩和ケアへの考え	63
問29 自宅で療養するために必要なこと	65
問30 希望する療養場所	66

2-4.	相談支援・情報提供について	
問 31	がん医療に関する相談支援及び情報提供	68
問 32	がんに関する情報の充実度	70
問 33	がんネットならの利用度	80
問 34	がん相談支援センターの利用の有無	81
問 35	患者サロンの認知度	83
問 36	がん治療による外見変化の悩みの相談先	84
問 37	支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感	85
2-5.	治療と就労について	
問 38	がん治療と継続就労についての認識	86
問 39	がん診断時の就労状況	89
問 40	仕事の継続に関する事業主の理解・支援	90
問 41	仕事を継続するために受けた事業主の支援内容	91
問 42	治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況	92
問 43	がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況	94
問 44	治療をはじめる前の就労継続についての病院からの説明	97
問 45	仕事を継続するために必要な対応・制度	98
問 46	就労等の情報提供・相談支援に望むこと	101
問 47	がん相談支援センターにおける就労相談の認知度	103
問 48	奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度	104
2-6.	がん登録について	
問 49	がん登録の認知度	105
問 50	がん登録による期待するメリット	106
2-7.	全体的なことについて	
問 51	がん対策で奈良県に望むこと	108
問 52	療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと (自由記述)	110
問 53	医療機関や行政に対するがん医療に関する意見 (自由記述)	112
2-8.	患者本人について	
問 54	記入者	115
問 55	年齢	116
問 56	性別	117
問 57	居住する医療圏	118
(参考)	アンケート調査票	121

第 1 章 調査の概要

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的

がん患者の受療の状況や受けた医療に対する満足度、がん医療に関する認知度等を調査することにより、がん患者の医療に対する認識や行動を明らかにし、今後のがん対策の基礎資料を得ることを目的とする。

1-2. 調査方法

調査の方法は、以下の通りである。

■調査の方法

調査対象	県内のがん診療連携拠点病院・支援病院、その他がん診療を行っている医療機関に受診されているがん患者（入院・外来）ご本人
実配布数	1,442人
調査方法	・協力医療機関から、がん患者に調査票と返信用封筒を手渡しし、がん患者本人が調査票に記入後、郵送で提出。 ・原則として患者本人の記入方式としたが、記入できない場合については、家族の方などが補助して記入することも可とした。 ・調査票は奈良県福祉医療部医療政策局疾病対策課あての返信用封筒により回収した。
調査期間	令和3年10月1日（金）～10月31日（日） （回答締め切り：令和3年11月12日（金）消印有効）

1-3. 調査内容

アンケート調査の内容は、以下の通りである。

1. 医療機関で受けた診断や治療について 問1 がんの診断時期と年代 問2 がんの部位 問3 治療等を受けている病院名 問3-1 かかりつけ医の有無 問4 現在の治療状況 問5 今まで受けた治療 問6 病院を選んだ理由 問7 病院を選択する際の情報源 問8 現在の病院に対する満足度 問9 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述） 問10 がん治療の納得感 問11 医師から受けた説明の理解度 問12 疑問や意見の医師への意思疎通 問13 不妊への影響について説明の有無 問14 不妊への影響について具体的な説明 問15 院内スタッフの連携について 問16 医師等からの情報提供 問17 セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無 問18 セカンドオピニオンの経験の有無	問19 現在の心身の状態 問20 緩和ケアの認知度 問21 緩和ケアを開始すべき時期の認識 問22 緩和ケア外来の認知度 問23-1 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 問23-2 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善 問23-3 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 問23-4 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善 問24 受けた治療の納得感 2. 地域連携について 問25 在宅医療・移行時の情報伝達について 問26 がん地域連携クリティカルパス等の認知度 3. 今後の療養について 問27 在宅緩和ケアの認知度 問28 在宅緩和ケアへの考え 問29 自宅で療養するために必要なこと 問30 希望する療養場所
--	--

<p>4. 相談支援・情報提供について</p> <p>問 31 がん医療に関する相談支援及び情報提供</p> <p>問 32 がんに関する情報の充実度</p> <p>問 33 がんネットならの利用度</p> <p>問 34 がん相談支援センターの利用の有無</p> <p>問 35 患者サロンの認知度</p> <p>問 36 がん治療による外見変化の悩みの相談先</p> <p>問 37 支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感</p> <p>5. 治療と就労について</p> <p>問 38 がん治療と継続就労についての認識</p> <p>問 39 がん診断時の就労状況</p> <p>問 40 仕事の継続に関する事業主の理解・支援</p> <p>問 41 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容</p> <p>問 42 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況</p> <p>問 43 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況</p> <p>問 44 治療をはじめ前の就労継続についての病院からの話</p> <p>問 45 仕事を継続するために必要な対応・制度</p>	<p>問 46 就労等の情報提供・相談支援に望むこと</p> <p>問 47 がん相談支援センターにおける就労相談の認知度</p> <p>問 48 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度</p> <p>6. がん登録について</p> <p>問 49 がん登録の認知度</p> <p>問 50 がん登録による期待するメリット</p> <p>7. 全体的なことについて</p> <p>問 51 がん対策で奈良県に望むこと</p> <p>問 52 療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと（自由記述）</p> <p>問 53 医療機関や行政に対するがん医療に関する意見（自由記述）</p> <p>8. 患者本人について</p> <p>問 54 記入者</p> <p>問 55 年齢</p> <p>問 56 性別</p> <p>問 57 居住する医療圏</p>
--	--

1-4. 配布・回収結果

調査票の配布・回収結果を示したものが次表である。

■配布・回収結果一覧

① 配布数※1	2,095人
② 実配布数※2	1,442人
④ 有効回収数	788人
⑤ 回収率 (④/②)	54.6%

※1 圏内のがん診療連携拠点病院・支援病院等に配布した数

※2 実際にがん患者本人に手渡された数

1-5. 調査結果の見方

- ・比率は全て百分率（%）で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。
このため、合計が100.0%とならない回答もある。
- ・図中「n数」とは、回答数の合計をいう。
- ・表中「n数」は上段、「百分率」は下段に表記している。
- ・「複数回答」とは、1人が2つ以上の回答をしてもよい設問をいう。
- ・比較分析を行う際、『患者体験調査 平成27年（厚生労働省）』、『患者体験調査 平成30年度（厚生労働省）』、『がん対策に関する世論調査 令和元年7月（内閣府）』、『がん対策に関する世論調査 平成28年11月（内閣府）』のデータを参照した。
- ・n数が小さく統計的な割合を出しても信頼度の低いものも図表化してある。
- ・国（総務省）の調査は%のみ集計のため、集計表は%のみ表記している。
- ・脚注（※）の番号はページごとに付すのではなくて、内容順に通し番号を付している。

第2章 アンケート調査結果

第2章 アンケート調査結果

2-1. 医療機関で受けた診断や治療について

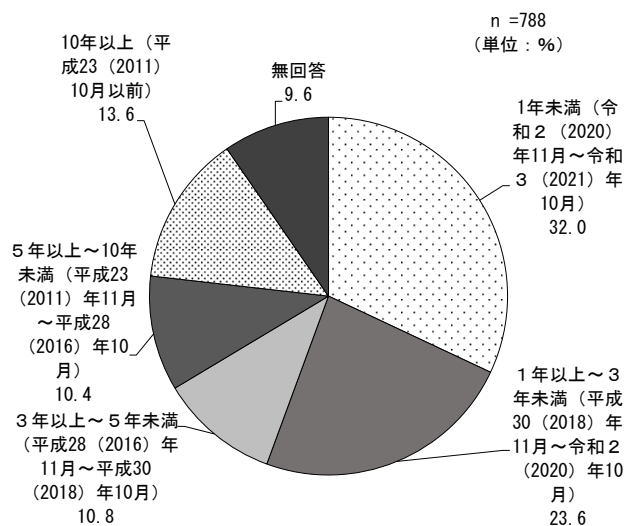
問1 がんの診断時期と年代

問1 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

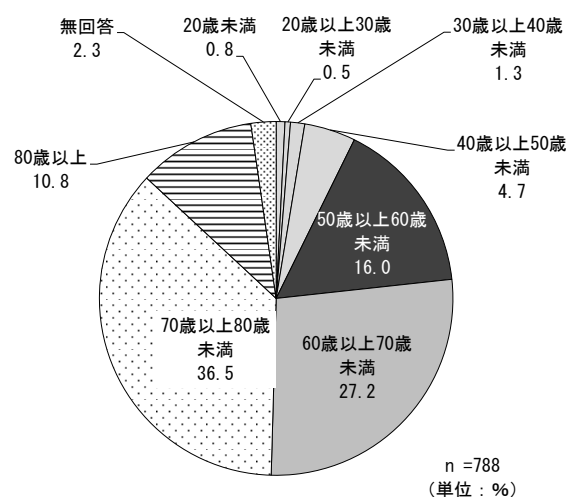
がんと最初に診断された時期については、「1年未満（令和2（2020）年11月～令和3（2021）年10月）」が32.0%と最も高く、次いで「1年以上～3年未満（平成30（2018）年11月～令和2（2020）年10月）」が23.6%、「3年以上～5年未満（平成28（2016）年11月～平成30（2018）年10月）」が10.8%となっている。

がんと最初に診断された年代については、「70歳以上80歳未満」が36.5%と最も高く、次いで「60歳以上70歳未満」が27.2%、「50歳以上60歳未満」が16.0%となっている。

■がんの診断時期（単数回答/全体）



■がんの診断された年代（単数回答/全体）



	n数	1年未満（令和3（2021）年10月～令和2（2020）年11月）	1年以上～3年未満（平成30（2018）年11月～令和2（2020）年10月）	3年以上～5年未満（平成28（2016）年11月～平成30（2018）年10月）	5年以上～10年未満（平成23（2011）年11月～平成28（2016）年10月）	10年以上（平成23（2011）年10月以前）	無回答
全体	788	252	186	85	82	107	76
	100.0	32.0	23.6	10.8	10.4	13.6	9.6

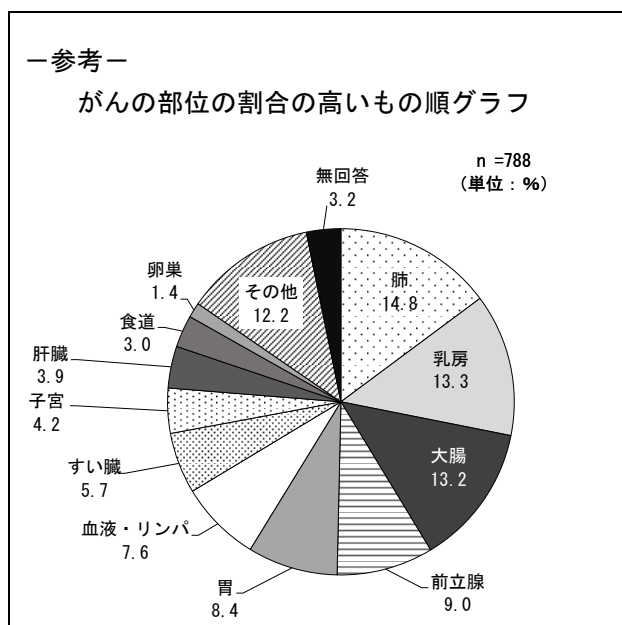
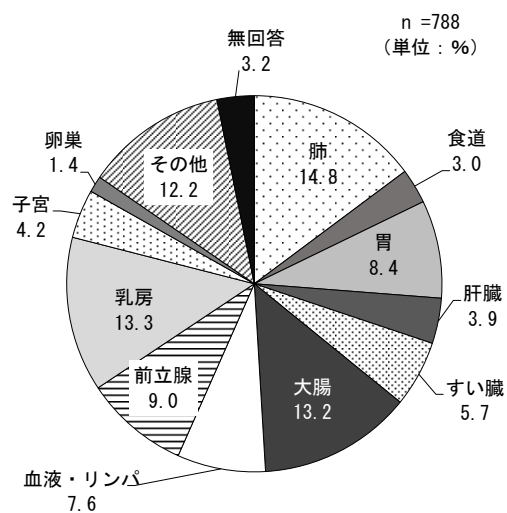
	n数	20歳未満	20歳以上30歳未満	30歳以上40歳未満	40歳以上50歳未満	50歳以上60歳未満	60歳以上70歳未満	70歳以上80歳未満	80歳以上	無回答
全体	788	6	4	10	37	126	214	288	85	18
	100.0	0.8	0.5	1.3	4.7	16.0	27.2	36.5	10.8	2.3

問2 がんの部位

問2 最初にがんと診断された部位はどこですか。【〇はひとつだけ】

最初にがんと診断された部位については、「肺」が14.8%と最も高く、次いで「乳房」が13.3%、「大腸」が13.2%の順となっている。

■がんの部位（単数回答/全体）



	n	肺	食道	胃	肝臓	すい臓	大腸	血液・リンパ	前立腺	乳房	子宮	卵巣	その他	無回答
全体	788	117	24	66	31	45	104	60	71	105	33	11	96	25
	100.0	14.8	3.0	8.4	3.9	5.7	13.2	7.6	9.0	13.3	4.2	1.4	12.2	3.2

【その他】（3件以上）

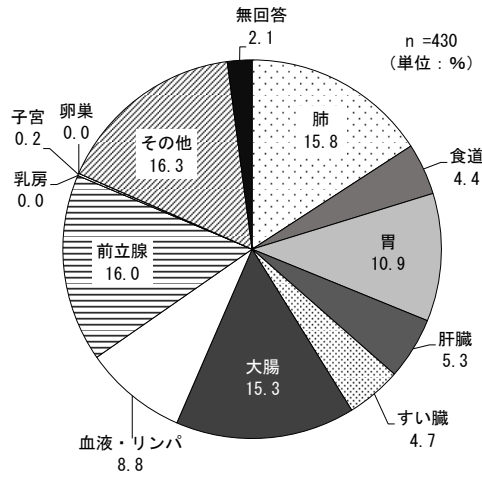
- ・膀胱（25件）
- ・腎臓（12件）
- ・咽頭（9件）
- ・胆のう（4件）
- ・直腸（4件）

男女別にみると、男性では「前立腺」が16.0%と最も高く、次いで「肺」が15.8%、「大腸」が15.3%の順となっている。

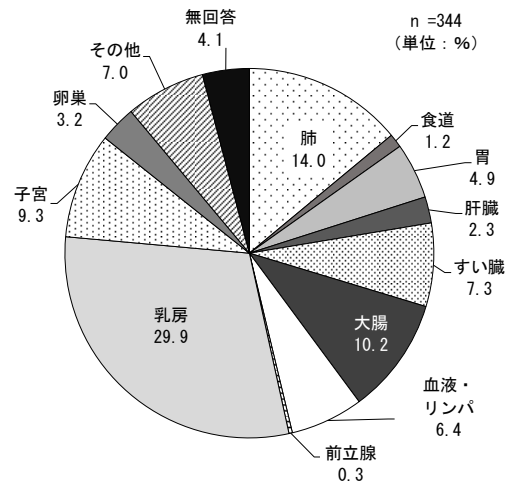
一方、女性では「乳房」が29.9%と最も高く、次いで「肺」が14.0%、「大腸」が10.2%の順となっている。

■がんの部位（単数回答/男女別）

【男】

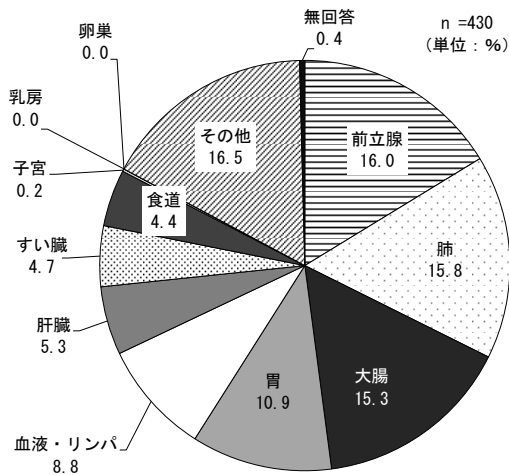


【女】

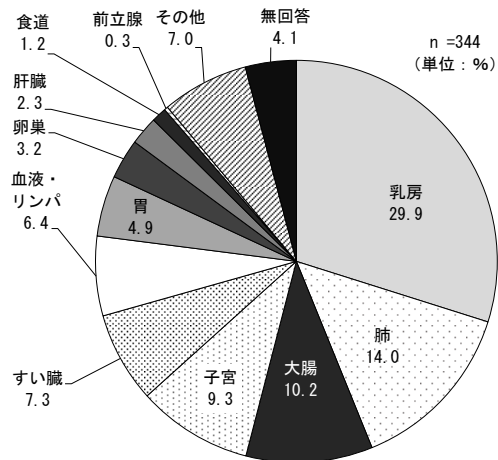


—参考— がんの部位の割合の高いもの順グラフ（男女別）

【男】



【女】

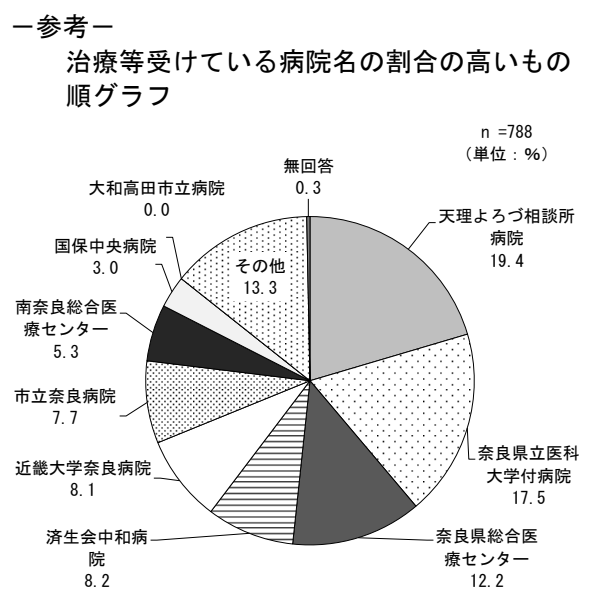
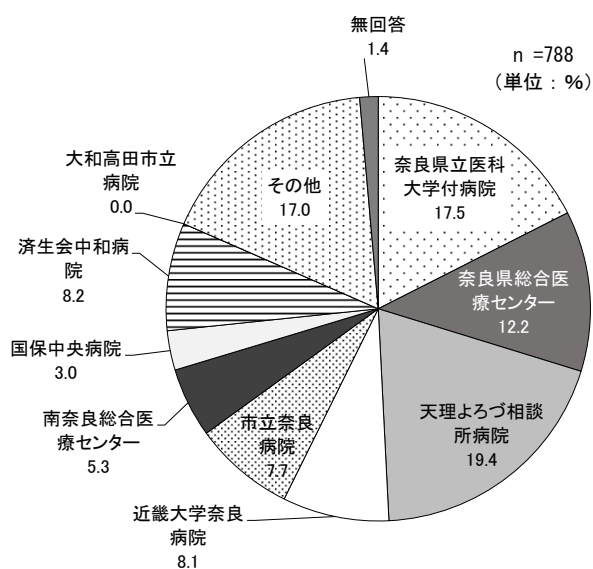


問3 治療等を受けている病院名

問3 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。
【〇はひとつだけ】

現在がんの治療を受けている病院については、「天理よろづ相談所病院」が19.4%と最も高く、次いで「奈良県立医科大学附属病院」が17.5%、「奈良県総合医療センター」が12.2%の順となっている。

■治療等を受けている病院名（単数回答/全体）



	n	院	奈良県立医科大学附属病院	奈良県総合医療センター	天理よろづ相談所病院	近畿大学医学部奈良病院	市立奈良病院	南奈良総合医療センター	国保中央病院	済生会中和病院	大和高田市立病院	その他	無回答
全体	788	138	96	153	64	61	42	24	65	0	134	11	
	100.0	17.5	12.2	19.4	8.1	7.7	5.3	3.0	8.2	0.0	17.0	1.4	

【その他】（3件以上）

- ・奈良県西和医療センター（28件）
- ・平尾病院（23件）
- ・平成記念病院（18件）
- ・大和郡山病院（15件）
- ・高井病院（14件）
- ・西の京病院（7件）
- ・宇陀市立病院（5件）
- ・済生会御所病院（5件）
- ・済生会奈良病院（5件）
- ・香芝生喜病院（3件）

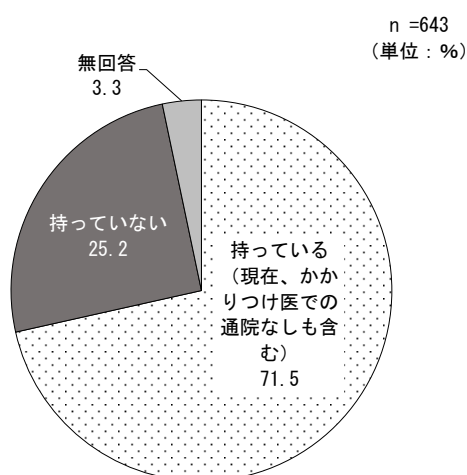
問3-1 かかりつけ医の有無

問3-1 問3で1.~9.の病院にかかっている方で、地域の病院や診療所のかかりつけ医（注参照）をお持ちですか。【〇はひとつだけ】

（注）かかりつけ医：地域の病院や診療所の医師。身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師のこと。

奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院にかかっている方のかかりつけ医の有無については、「持っている（現在、かかりつけ医での通院なしも含む）」が71.5%、「持っていない」が25.2%となっており、約7割がかかりつけ医を持っている。

■かかりつけ医の有無（単数回答/全体）



	n 数	持っている （現在、 かかり つけ医で の通院 なしも 含む）	持 っ て い な い	無 回 答
全体	643 100.0	460 71.5	162 25.2	21 3.3

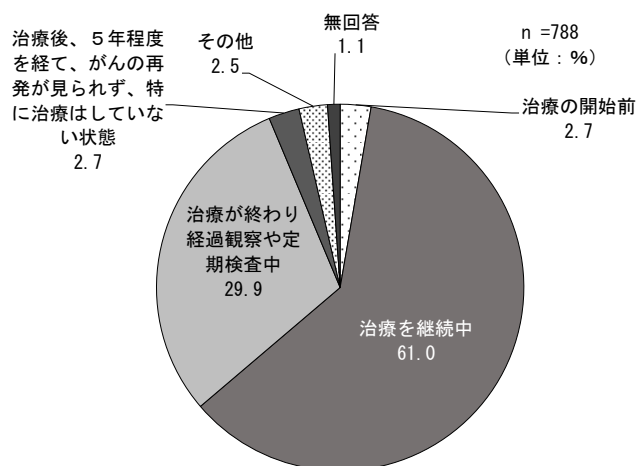
問4 現在の治療状況

問4 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）状況を教えてください。【○はひとつだけ】

現在の治療状況（緩和ケアも含む）については、「治療を継続中」が61.0%と約6割、「治療が終わり経過観察や定期検査中」が29.9%と約3割を占めている。

一方「治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態」は2.7%と1割以下となっている。

■現在の治療状況（単数回答/全体）



	n 数	治療の 開始前	治療を 継続中	検査中	治療が 終わり経過 観察や定期 検査中	治療後、 5年程度を 経て、がん の再発が 見られず、 特に治療 はしてい ない状態	その他	無回 答
全体	100.0 788	2.7 21	61.0 481	29.9 236	2.7 21	2.5 20	1.1 9	

【その他】

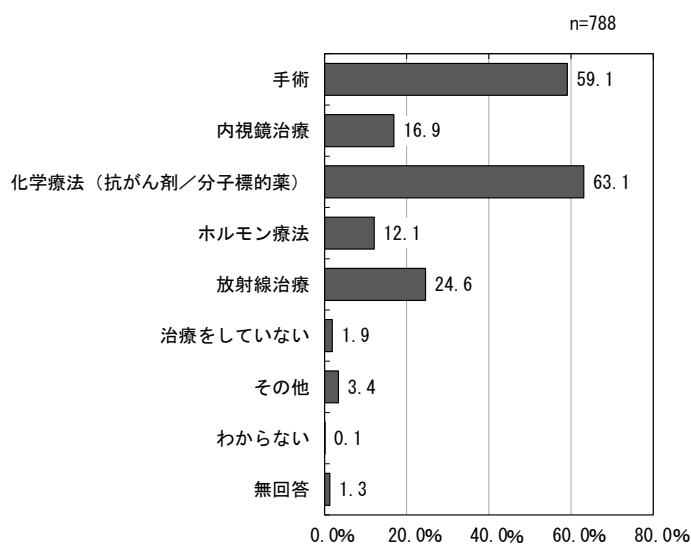
- ・緩和ケア（4件）
- ・現在治療中（4件）
- ・定期検査（3件）

問5 今まで受けた治療

問5 がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください。【〇はいくつでも】

今まで受けた治療については、「化学療法（抗がん剤／分子標的薬）」が 63.1%と最も高く、次いで「手術」が 59.1%、「放射線治療」が 24.6%の順となっている。

■今まで受けた治療（複数回答/全体）



	n 数	手術	内 視 鏡 治 療	標 的 薬 ） 化 学 療 法 （ 抗 が ん 剤 ／ 分 子	ホ ル モ ン 療 法	放 射 線 治 療	治 療 を し て い な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	788 100.0	466 59.1	133 16.9	497 63.1	95 12.1	194 24.6	15 1.9	27 3.4	1 0.1	10 1.3

【その他】

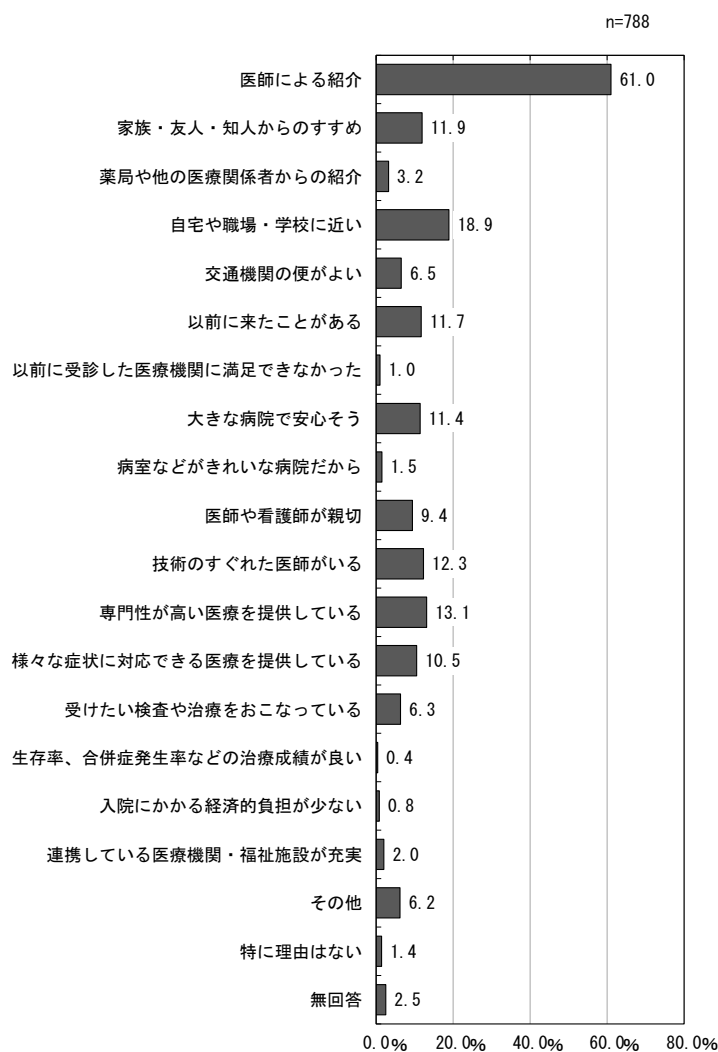
- ・投薬（5件）
- ・BCG膀胱内注入療法（3件）
- ・免疫療法（2件）
- ・温熱療法（2件）
- ・重粒子線治療
- ・陽子線治療

問6 病院を選んだ理由

問6 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【〇は3つまで】

病院を選んだ理由については、「医師による紹介」が61.0%と最も高く、次いで「自宅や職場・学校に近い」が18.9%、「専門性が高い医療を提供している」が13.1%の順となっており、「医師による紹介」が約6割を占めている。

■病院を選んだ理由（複数回答/全体）



【その他】

- ・以前勤めていた（4件）
- ・救急車で運ばれた（2件）
- ・病院の紹介（2件）
- ・家族が近くにすんでいるため
- ・担当医が転勤した為

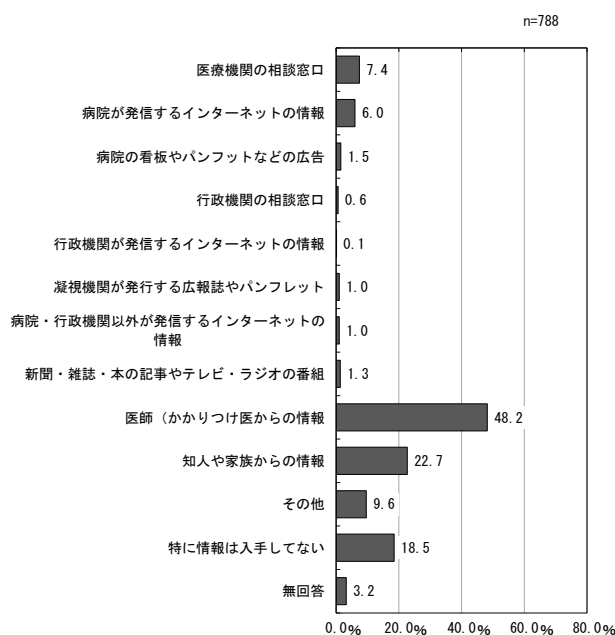
	n	医師による紹介	家族・友人・知人からのすすめ	薬局や他の医療関係者からの紹介	自宅や職場・学校に近い	交通機関の便がよい	以前に来たことがある	以前に受診した医療機関に満足できなかった	大きな病院で安心そう	病室などがきれいな病院だから	医師や看護師が親切	技術のすぐれた医師がいる	専門性が高い医療を提供している	様々な症状に対応できる医療を提供している	受けたい検査や治療をおこなっている	生存率、合併症発生率などの治療成績が良い	入院にかかる経済的負担が少ない	連携している医療機関・福祉施設が充実	その他	特に理由はない	無回答
全体	788	481	94	25	149	51	92	8	90	12	74	97	103	83	50	3	6	16	49	11	20
	100.0	61.0	11.9	3.2	18.9	6.5	11.7	1.0	11.4	1.5	9.4	12.3	13.1	10.5	6.3	0.4	0.8	2.0	6.2	1.4	2.5

問7 病院を選択する際の情報源

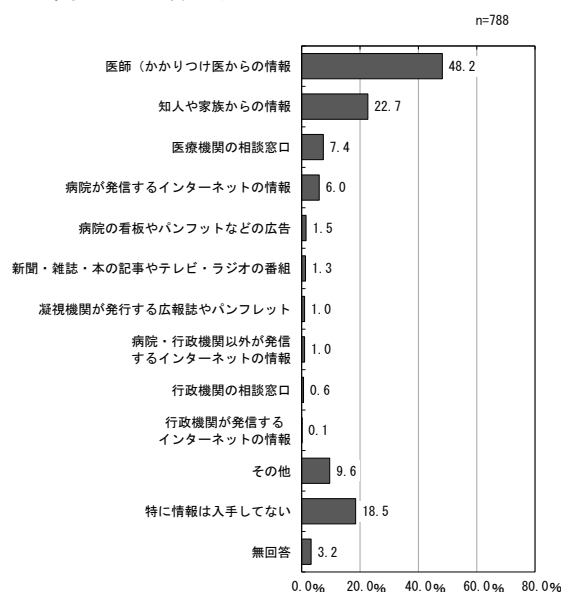
問7 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【〇はいくつでも】

病院を選択する際の情報源については、「医師（かかりつけ医）からの情報」が48.2%と最も高く、次いで「知人や家族からの情報」が22.7%、「特に情報は入手していない」が18.5%の順となっており、「医師（かかりつけ医）からの情報」が約5割を占めている。

■病院を選択する際の情報源（複数回答/全体）



—参考— 病院を選択する際の情報源の割合の 高いもの順グラフ



	n	医療機関の相談窓口	病院が発信するインターネットの情報	病院の看板やパンフレットなどの広告	行政機関の相談窓口	行政機関が発信するインターネットの情報	凝視機関が発行する広報誌やパンフレット	病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報	新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組	医師（かかりつけ医）からの情報	知人や家族からの情報	その他	特に情報は入手していない	無回答
全体	788	58	47	12	5	1	8	8	10	380	179	76	146	25
	100.0	7.4	6.0	1.5	0.6	0.1	1.0	1.0	1.3	48.2	22.7	9.6	18.5	3.2

【その他】

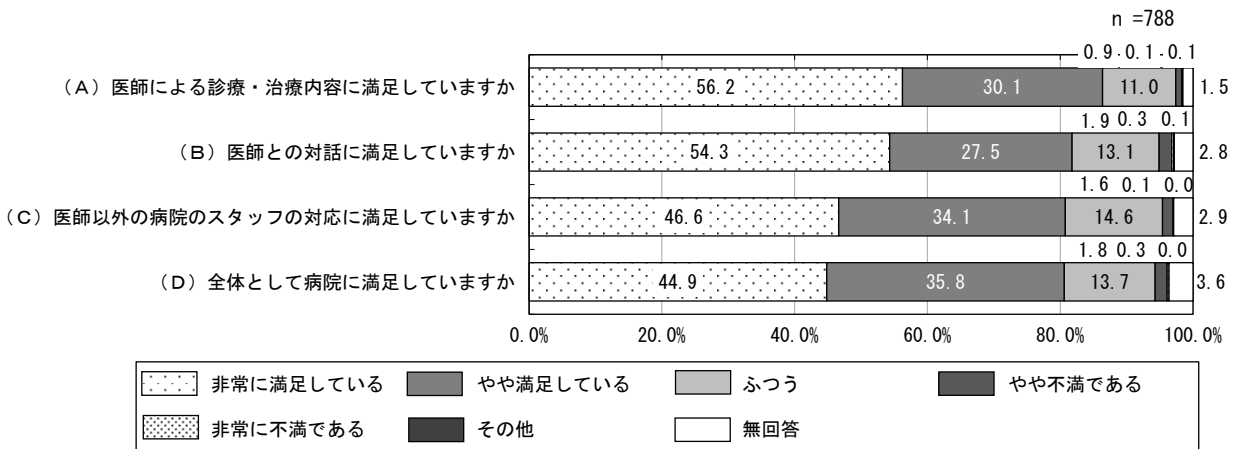
- ・医師からの紹介（8件）
- ・病院からの紹介（8件）
- ・以前から通院している。（3件）
- ・自分自身の判断（3件）
- ・医療関係者からすすめられて
- ・長くお世話になっていたから
- ・以前からなんとなく知っていた。

問8 現在の病院に対する満足度

問8 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ〇はひとつだけ】

- (A) 医師による診療・治療内容の満足度については、「非常に満足している」が56.2%と最も高く、次いで「やや満足している」が30.1%、「ふつう」が11.0%の順となっている。
 “満足している”（「非常に満足している」+「やや満足している」）が86.3%、一方“満足していない”（「やや不満である」+「非常に不満である」）は1.0%となっており、“満足している”が8割以上を占めている。
- (B) 医師との対話の満足度については、「非常に満足している」が54.3%と最も高く、次いで「やや満足している」が27.5%、「ふつう」が13.1%の順となっている。
 “満足している”が81.8%、一方“満足していない”は2.2%となっており、“満足している”が約8割を占めている。
- (C) 医師以外の病院のスタッフの対応の満足度については、「非常に満足している」が46.6%と最も高く、次いで「やや満足している」が34.1%、「ふつう」が14.6%の順となっている。
 “満足している”が80.7%、一方“満足していない”は1.7%となっており、“満足している”が約8割を占めている。
- (D) 全体として受診している病院の満足度については、「非常に満足している」が44.9%と最も高く、次いで「やや満足している」が35.8%、「ふつう」が13.7%の順となっている。
 “満足している”が80.7%、一方“満足していない”は2.1%となっており、“満足している”が約8割を占めている。

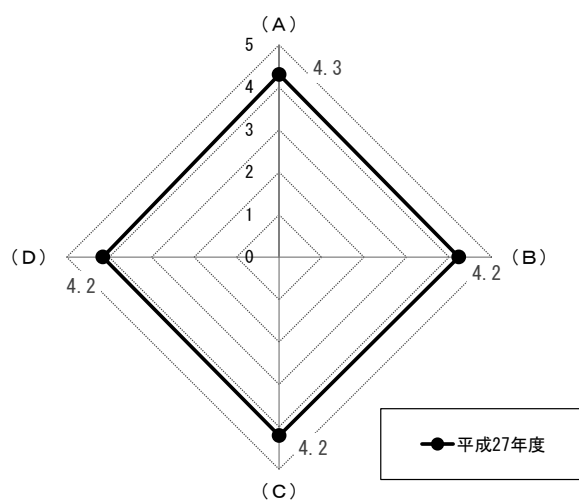
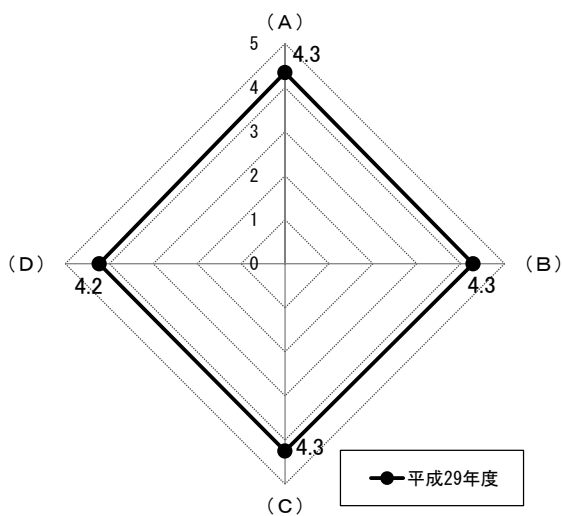
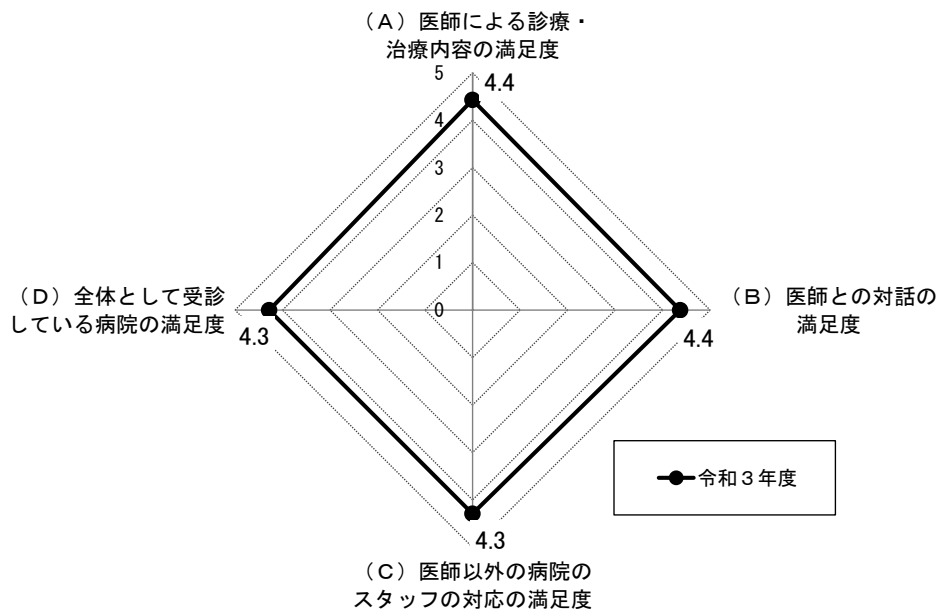
■現在の病院に対する満足度（単数回答/全体）

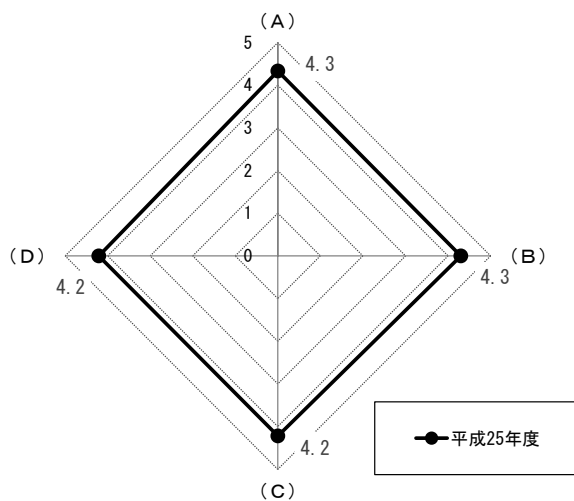


	n	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	その他	無回答
(A) 医師による診療・治療内容に満足していますか	788	443	237	87	7	1	1	12
	100.0	56.2	30.1	11.0	0.9	0.1	0.1	1.5
(B) 医師との対話に満足していますか	788	428	217	103	15	2	1	22
	100.0	54.3	27.5	13.1	1.9	0.3	0.1	2.8
(C) 医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか	788	367	269	115	13	1	0	23
	100.0	46.6	34.1	14.6	1.6	0.1	0.0	2.9
(D) 全体として病院に満足していますか	788	354	282	108	14	2	0	28
	100.0	44.9	35.8	13.7	1.8	0.3	0.0	3.6

満足度を訪ねた4つの項目についてみると、『A：医師による診療・治療内容の満足度』『B：医師との対話の満足度』が4.4と最も満足度が高くなっている。『C：医師以外の病院のスタッフの対応の満足度』『D：全体として受診している病院の満足度』がいずれも4.3となっている。
『平成29年度』『平成27年度』『平成25年度』と比較して、低い傾向となっている。

■現在の病院に対する満足度比較（項目別）





点数配点表

5 : 非常に満足している	4 : やや満足している	3 : ふつう
2 : やや不満である	1 : 非常に不満である	

$$\text{かかっている病院の満足度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「その他」} \cdot \text{「わからない」を除いた有効回答数}}$$

(注) 「その他」は『令和3年度』『平成29年度』『平成27年度』、「わからない」は『平成25年度』の選択肢となっている

問9 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述）

問9 問8のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。
不満な点は具体的にどのような点ですか。また、それに対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見を上位5件まで抽出している。

A. 不満な点は具体的にどのような点か

□医師の診療・治療内容（5件）

- ・検査等で結果説明が無い。
- ・途中で医師が変わり、治療法が少し変わり不安。
- ・治療状況の説明が不足（現在、今後の対応）。
- ・ストマケアに関して、在宅でもケアに対するアドバイスが的確ではない。
- ・現在前立腺がんを治療中で化学療法の点滴中だが、PSA値は急激に上昇している。

□医師との対話（10件）

- ・医師によっては対話内容に乏しさを感じる時がある。
- ・何度も同じ質問をされる。以前記入した書類などちゃんと見てもらっているのか不安になる。
- ・自分が不安に思っている症状を伝えても理解のいく説明がない。
- ・放射線治療に関しては、予約時間を守っているのに早く来いと言われる。
- ・医師が「病気治す気あるのか」「他の患者も、この後待っているのに…」という。又、元夫と一緒に話をきき、付き添っているのに籍も血のつながりもない他人が口をはさむなど云う、他人はどっちだ（怒）。

□医師以外の病院スタッフの対応（9件）

- ・看護師の対応や言葉使いが悪い。（3件）
- ・事務員の対応がだめ（2件）
- ・術後看護師の処理が不親切だった。
- ・院内の連絡が悪い（忙しいのだろうと思う）。
- ・抗がん剤のため毎回、採血、点滴を行うが、何年も注射の針入れの痛さに困った。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（18件）

- ・待ち時間が長い。（3件）
- ・駐車場が少ない。（2件）
- ・依頼ごとに対応してくれない。
- ・食事がまずい。
- ・病院の建物が古い。

B. 不満な点について、どのような対応を望むか

□医師の診療・治療内容（9件）

- ・話を聞き十分な説明がほしい。（2件）
- ・大変な時期であるが、自身の不手際も認め患者の気持を考えて対応してほしい。（2件）
- ・検査結果でどのタイプか判明するので、口頭ではなく図式などでわかりやすく説明してほしい（口頭ではなく）
- ・外来時間が忙しいとは思いますが、症状以外の事にも気をつけて欲しい。
- ・患者の希望にそってほしかった。

□医師との対話（6件）

- ・聞きたい事が聞きやすい雰囲気がほしい。
- ・この上記の治療が終われば医療処置は無いとのことで死を待つだけとのこと。何か最新医療はないのか教えてほしい。
- ・治療の効果は満足しているが説明は少ない。
- ・患者は不安を抱えているので説明等がほしい。
- ・コロナの時と重なって手術したのに熱が出て退院後はこちらでは診られないと言われた。とにかく医師の数を増やすなど、手術するなら夜中の対応できるようにしてほしい。

□医師以外の病院スタッフの対応（4件）

- ・専門スタッフが患者に寄り添う気持ちが希薄。
- ・もっと仕事での事務的な対応ではなく患者の立場に立って話を聞くこと。医師はとても良いのに、看護師がなってない。特に県、市立の病院。
- ・病院も美しくスタッフも親切である。
- ・スタッフさんの態度をもう少しやさしく。電話取り次ぎをスムーズにしてほしい。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（9件）

- ・看護師をもっと増やしてほしい。
- ・診察までの待ち時間が長すぎる。
- ・院外におけるストマケアの実態把握と専門員の教育化、放射線外来専用予約システムの導入や設備スタッフの強化
- ・大部屋の防音対策を考慮してほしい。
- ・他の科と連携をもっと密にしてほしい。

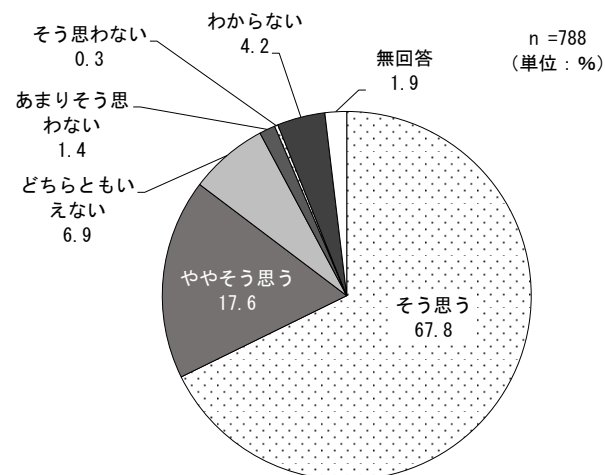
問 10 がん治療の納得感

問 10 がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、ご自身が納得いく治療を選択することができましたか。【〇はひとつだけ】

がん治療の納得感については、「そう思う」が 67.8%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 17.6%、「どちらともいえない」が 6.9%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 85.4%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 1.7%となっており、“思う”が 8割を超えている。

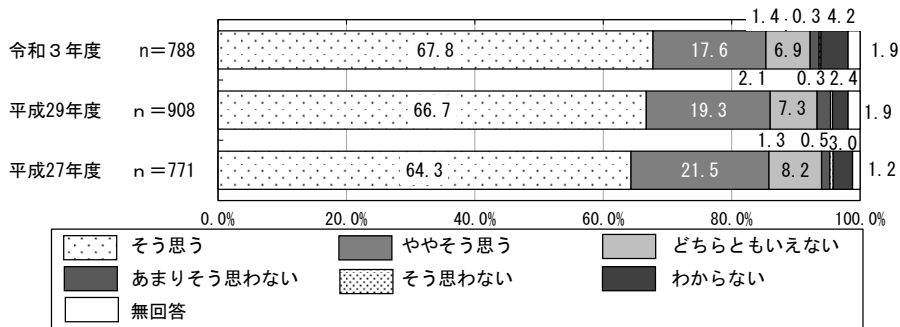
■がん治療の納得感（単数回答/全体）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	788	534	139	54	11	2	33	15
	100.0	67.8	17.6	6.9	1.4	0.3	4.2	1.9

年度間比較をすると、『平成 29 年度』では“思う”が 86.0%、『令和 3 年度』では 85.4%と 0.6 ポイント (86.0%－85.4%) 下回っている。

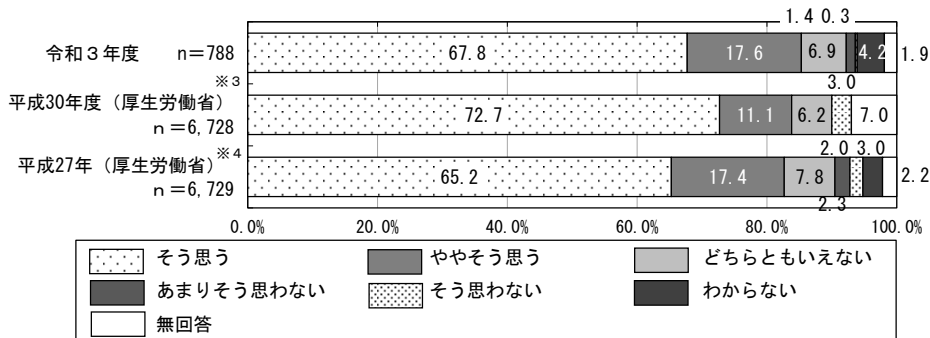
■がん治療の納得感 (単数回答/年度間比較)



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
令和3年度	788	534	139	54	11	2	33	15
平成29年度	908	606	175	66	19	3	22	17
平成27年度	771	496	166	63	10	4	23	9

国の調査 (厚生労働省※3・4) と比較すると、『平成 30 年度 (厚生労働省)』では“思う” (「思う」+「やや思う」) が 83.8%、『平成 27 年 (厚生労働省)』では“思う”が 82.6%であるのに対し、『令和 3 年度』では“思う”が 85.4%とそれぞれの結果と比べて上回っている。

■がん治療の納得感 (単数回答/国の調査との比較)



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
令和3年度	788	534	139	54	11	2	33	15
平成30年度※3 (厚生労働省)	6,728	4,890	747	418	-	202	-	471
平成27年※4 (厚生労働省)	6,729	4,390	1,171	528	156	135	202	147

- ※3 患者体験調査 (平成 30 年度) 厚生労働省
- ※3-2 患者体験調査 (平成 30 年度) の調査では、選択肢の「ある程度思う」「とても思う」を「思う」として計算
- ※3-3 平成 30 年度の調査では「あまりそう思わない」「わからない」の選択肢がなかった
- ※4 患者体験調査 (平成 27 年) 厚生労働省

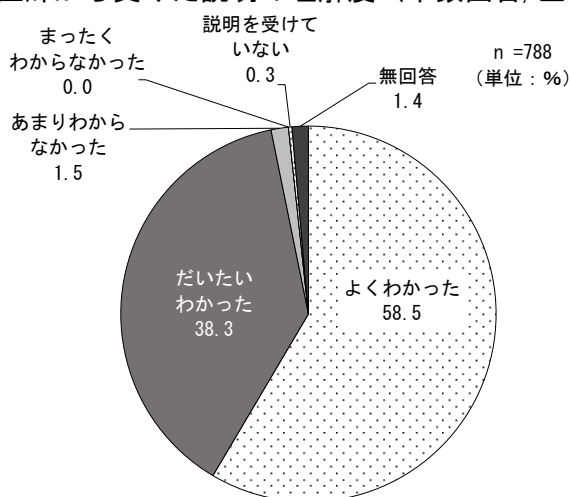
問 11 医師から受けた説明の理解度

問 11 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。【〇はひとつだけ】

医師から受けた説明の理解度については、「よくわかった」が 58.5%と最も高く、次いで「だいたいわかった」が 38.3%、「あまりわからなかった」が 1.5%の順となっている。

“わかった”（「よくわかった」＋「だいたいわかった」）と回答した人は 96.8%と 9 割を超えている。

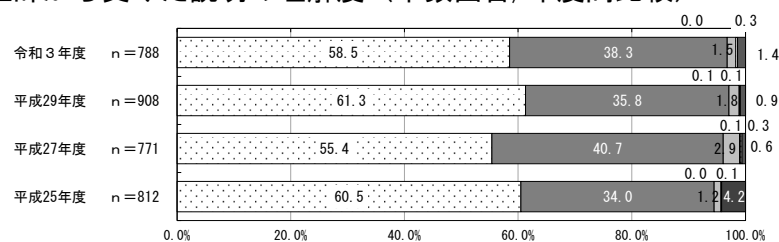
■医師から受けた説明の理解度（単数回答/全体）



	n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
全体	788	461	302	12	0	2	11
	100.0	58.5	38.3	1.5	0.0	0.3	1.4

年度間比較をすると、『平成 29 年度』では“わかった”と回答した人は 97.1%であったものが『令和 3 年度』では“わかった”と回答した人は 96.8%と減少している。

■医師から受けた説明の理解度（単数回答/年度間比較）



	よくわかった		だいたいわかった		あまりわからなかった
	まったくわからなかった		説明を受けていない		無回答

	n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
令和 3 年度	788	461	302	12	0	2	11
	100.0	58.5	38.3	1.5	0.0	0.3	1.4
平成 29 年度	908	557	325	16	1	1	8
	100.0	61.3	35.8	1.8	0.1	0.1	0.9
平成 27 年度	771	427	314	22	1	2	5
	100.0	55.4	40.7	2.9	0.1	0.3	0.6
平成 25 年度	812	491	276	10	0	1	34
	100.0	60.5	34.0	1.2	0.0	0.1	4.2

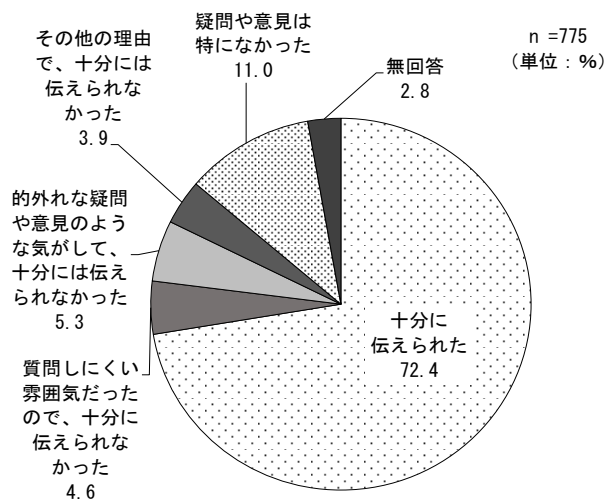
問 12 疑問や意見の医師への意思疎通

問 12 問 11 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【○はひとつだけ】

診療や治療方針について病院の医師から説明を受けた方の疑問や意見の医師への意思疎通については、「十分に伝えられた」が 72.4%と最も高く、次いで「疑問や意見は特になかった」が 11.0%、「的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった」が 5.3%の順となっている。

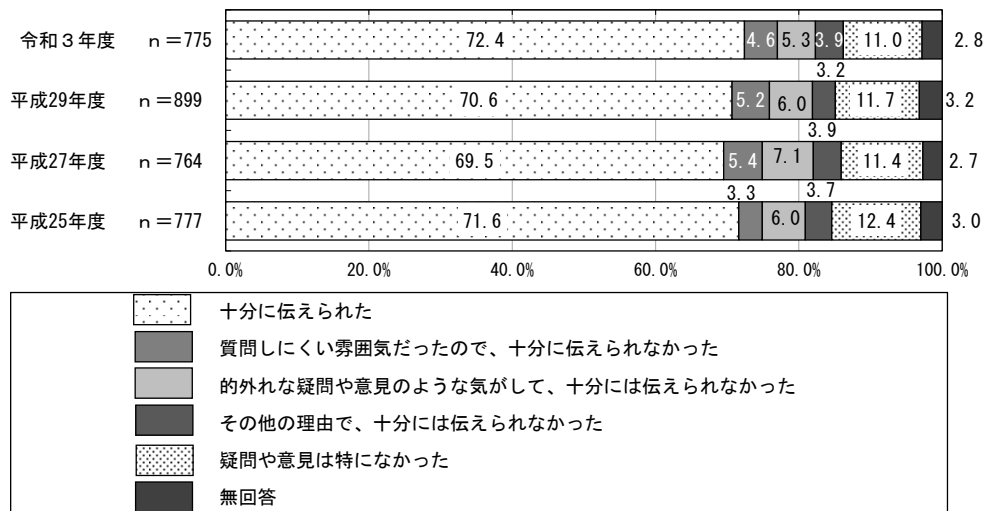
■ 疑問や意見の医師への意思疎通（単数回答/全体）



	n	十分に伝えられた	質問しにくい雰囲気だったので、十分には伝えられなかった	的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった	その他の理由で、十分には伝えられなかった	た疑問や意見は特になかった	無回答
全体	775	561	36	41	30	85	22
	100.0	72.4	4.6	5.3	3.9	11.0	2.8

年度間比較をすると、いずれの調査年度も「十分に伝えられた」が約7割を占めている。一方“十分に伝えられなかった”（「質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった」+「的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった」+「その他の理由で、十分には伝えられなかった」）は約1割となっている。

■ 疑問や意見の医師への意思疎通（単数回答/年度間比較）



	n	十分に伝えられた	質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった	的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった	その他の理由で、十分には伝えられなかった	疑問や意見は特になかった	無回答
令和3年度	775	561	36	41	30	85	22
平成29年度	899	635	47	54	29	105	29
平成27年度	764	531	41	54	30	87	21
平成25年度	777	556	26	47	29	96	23

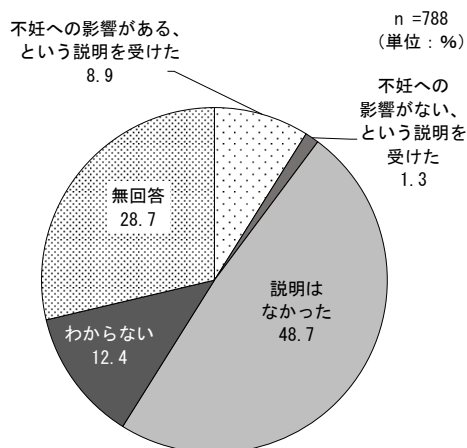
問 13 不妊への影響について説明の有無

問 13 最初のがん治療が開始される前に、その治療による不妊への影響について、医師から説明を受けましたか。【〇はひとつだけ】

不妊への影響について説明の有無については、「説明はなかった」が48.7%と最も高く、次いで「わからない」が12.4%、「不妊への影響がある、という説明を受けた」が8.9%、の順となっている。

“説明を受けた”（「不妊への影響がある、という説明を受けた」＋「不妊への影響がない、という説明を受けた」）は、10.2%と約1割を占めている。

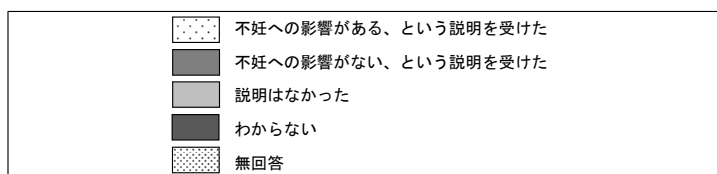
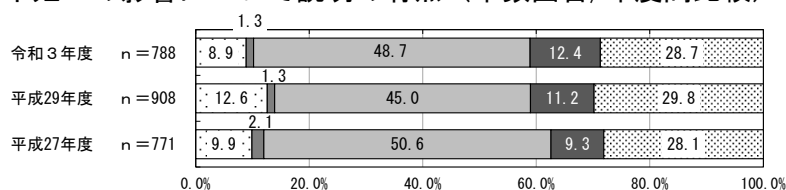
■不妊への影響について説明の有無（単数回答/全体）



	n	不妊への説明を受けた 説明がある、と	不妊への説明を受けた 説明がない、と	説明はなかった	わからない	無回答
全体	788	70 8.9	10 1.3	384 48.7	98 12.4	226 28.7

年度間比較をすると、『平成29年度』で「説明はなかった」は45.0%であったものが、『令和3年度』では48.7%となっており、3.7ポイント（48.7%－45.0%）上回っている。

■不妊への影響について説明の有無（単数回答/年度間比較）



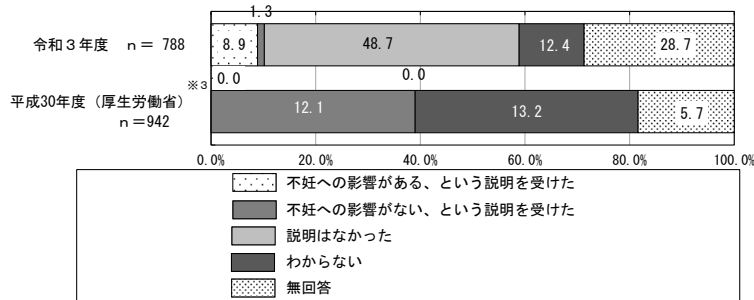
	n	不妊への説明を受けた 説明がある、と	不妊への説明を受けた 説明がない、と	説明はなかった	わからない	無回答
令和3年度	788	70 8.9	10 1.3	384 48.7	98 12.4	226 28.7
平成29年度	908	114 12.6	12 1.3	409 45.0	102 11.2	271 29.8
平成27年度	771	76 9.9	16 2.1	390 50.6	72 9.3	217 28.1

国の調査（厚生労働省※³）と比較すると、『平成 30 年度（厚生労働省）』では「わからない」が 13.2%であるのに対し、『令和 3 年度』では 12.4%と 0.9 ポイント（12.4%-13.2%）下回っている。

『平成 27 年（厚生労働省）』では「不妊への影響がある、という説明を受けた」が 30.1%であるのに対し、『令和 3 年度（40 歳未満）※⁴』では 81.8%と約 2.7 倍となっている。

『令和 3 年度（50 歳未満）※⁴』では「不妊への影響がある、という説明を受けた」が 82.4%と最も多くなっている。

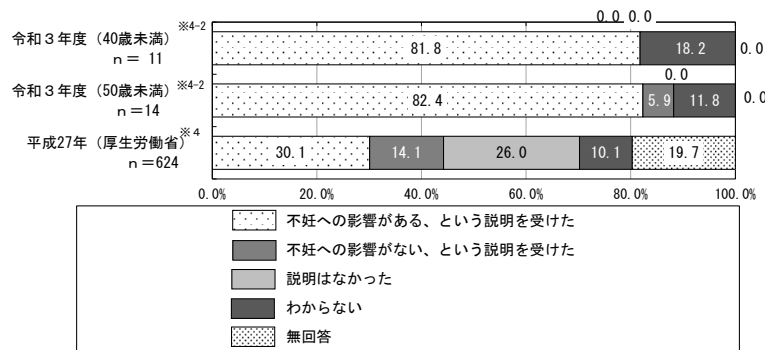
■不妊への影響について説明の有無（単数回答/国の調査との比較）



	n	明を 受けた ※ ³ 4	不妊への影 響がない、 という説	説明はな かった ※ ³ 4	わ か ら な い	無 回 答
令和 3 年度	788	70 8.9	10 1.3	384 48.7	98 12.4	226 28.7
平成 30 年度 ※ ³ (厚生労働省)	942	-	114 12.1	-	124 13.2	54 5.7

※³ 患者体験調査（平成 30 年度） 厚生労働省

※³⁻⁴ 患者体験調査（平成 30 年度）では「不妊への影響がある、という説明を受けた」と「説明はなかった」の回答欄がない為、参考として掲載する。



	n	う 不妊への影 響がある、 とい	う 不妊への影 響がない、 とい	説明はな かった	わ か ら な い	無 回 答
令和 3 年度 ※ ⁴⁻² (40 歳未満)	11	9 81.8	0 0.0	0 0.0	2 18.2	0 0.0
令和 3 年度 ※ ⁴⁻² (50 歳未満)	17	14 82.4	1 5.9	0 0.0	2 11.8	0 0.0
平成 27 年 ※ ⁴ (厚生労働省)	624	188 30.1	88 14.1	162 26.0	63 10.1	123 19.7

※⁴ 患者体験調査（平成 27 年） 厚生労働省

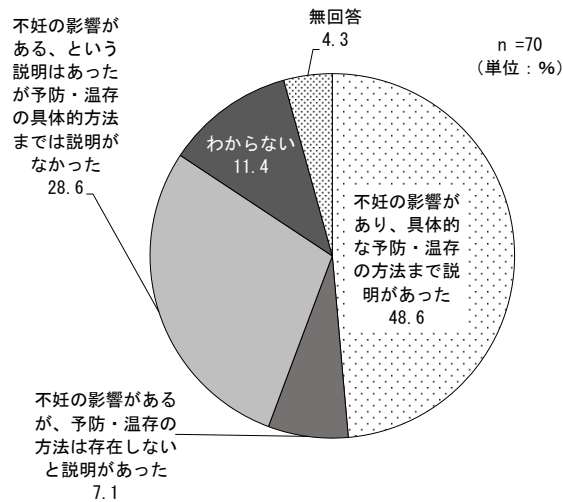
※⁴⁻² 『患者体験調査（平成 27 年）（厚生労働省）』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』で 40 歳未満のデータを抽出し再集計している また、50 歳未満のデータも再集計し掲載している

問 14 不妊への影響について具体的な説明

問 14 それは、どのような説明でしたか。【〇はひとつだけ】

不妊への影響がある、という説明を受けた方の不妊への影響について具体的な説明については、「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」が 48.6%と最も高く、次いで「不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった」が 28.6%、「わからない」が 11.4%の順となっている。

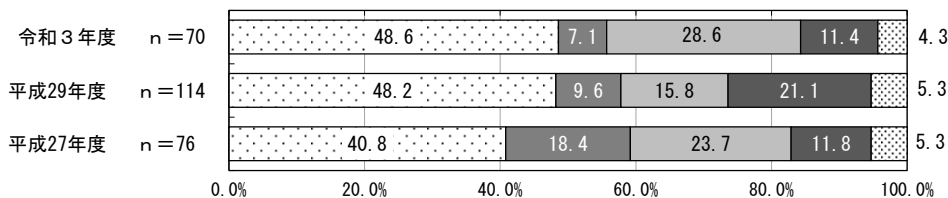
■不妊への影響について具体的な説明（単数回答/全体）



	n	明な予防・温存の方法まで説明があった	不妊の影響があり、具体的な説明はあったが予防・温存の方法までは説明がなかった	不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった	わからない	無回答
全体	70	34	5	20	8	3
	100.0	48.6	7.1	28.6	11.4	4.3

年度間比較をすると、『平成 29 年度』で「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」は 48.2%であったものが、『令和 3 年度』では 48.6%となっており、0.4 ポイント (48.6% - 48.2%) 上回っている。

■不妊への影響について具体的な説明（単数回答/年度間比較）

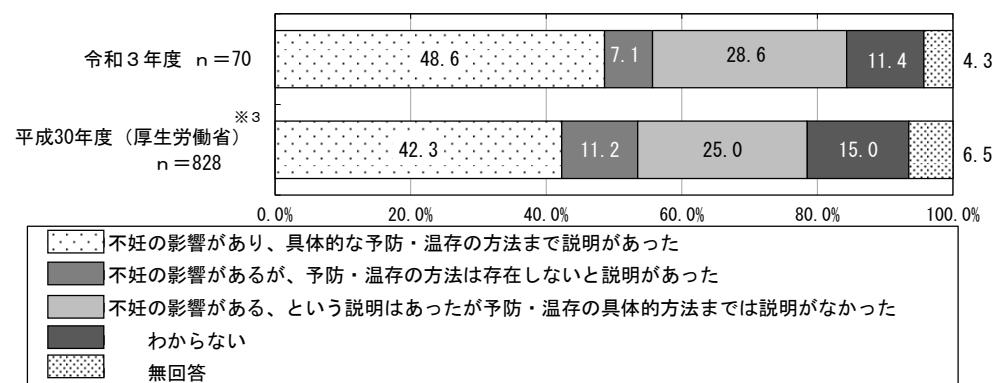


	不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった
	不妊の影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった
	不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった
	わからない
	無回答

	n	不妊の影響があり、具体的な説明はあったが予防・温存の方法までは説明がなかった	不妊の影響があり、具体的な説明はあったが予防・温存の方法までは説明がなかった	不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった	わからない	無回答
全体	70	34	5	20	8	3
	100.0	48.6	7.1	28.6	11.4	4.3
平成 29 年度	114	55	11	18	24	6
	100.0	48.2	9.6	15.8	21.1	5.3
平成 27 年度	76	31	14	18	9	4
	100.0	40.8	18.4	23.7	11.8	5.3

国の調査（厚生労働省※3）と比較すると、『平成30年度（厚生労働省）』では「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」が42.3%であるのに対し、『令和3年度』では48.6%と6.3ポイント（48.6%-42.3%）上回っている。

■不妊への影響について具体的な説明（単数回答/国の調査との比較）

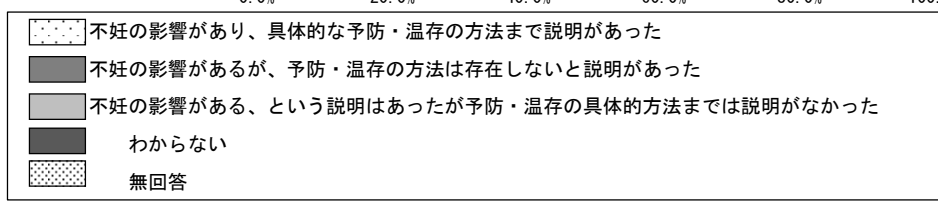
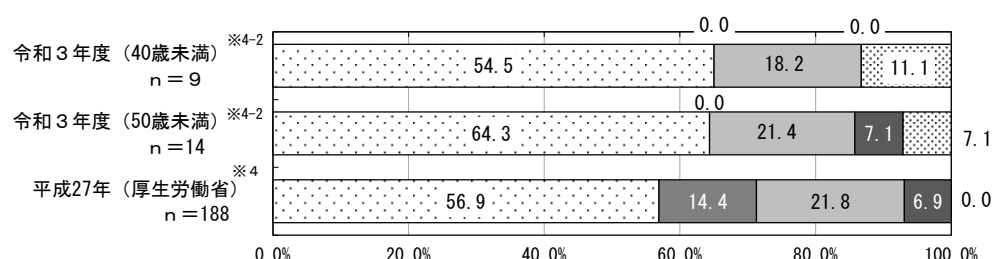


	n	た防・妊の温存の影響があり、説明が具体的かつ予防・温存の方法まで説明があった	あ存の妊の方法は存在しない、説明が温	方妊あ妊の温存の方法は説明がなかつた	わは不妊の影響がある、説明がなかつた	わからない	無回答
令和3年度	70	34	5	20	8	3	4.3
平成30年 ※3 (厚生労働省)	828	350	93	207	124	54	6.5

※3 患者体験調査（平成30年度） 厚生労働省

『平成 27 年（厚生労働省）』では「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」が 56.9%であるのに対し、『令和 3 年度（40 歳未満）^{※5}』では 54.5%と 2.4 ポイント（54.5%-56.9%）上回っている。

『令和 3 年度（50 歳未満）^{※5}』では「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」が 64.3%と最も多くなっている。



	n	明な不妊の影響があり、具体的な説明があった	不妊の影響があり、具体的な説明はあったが予防・温存の方法までは説明がなかった	不妊の影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった	不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった	わからない	無回答
令和3年度 ※4-2 (40歳未満)	9	6	0	2	0	0	1
令和3年度 ※4-2 (50歳未満)	14	9	0	3	1	1	1
平成27年 ※4 (厚生労働省)	188	107	27	41	13	0	0

※4 患者体験調査（平成 27 年） 厚生労働省
 ※4-2 『患者体験調査（平成 27 年）（厚生労働省）』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』で 40 歳未満のデータを抽出し再集計している。また、50 歳未満のデータも再集計し掲載している

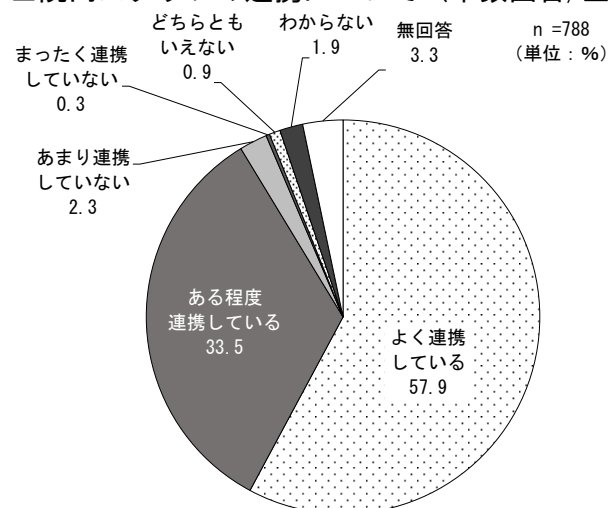
問 15 院内スタッフの連携について

問 15 あなたが治療を受けている病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフはあなたから見て十分に連携していると思いますか。【〇はひとつだけ】

院内スタッフの連携については、「よく連携している」が 57.9%と最も高く、次いで「ある程度連携している」が 33.5%、「あまり連携していない」が 2.3%の順となっている。

また“連携している”（「よく連携している」＋「ある程度連携している」）は 91.4%と 9 割を超えている。

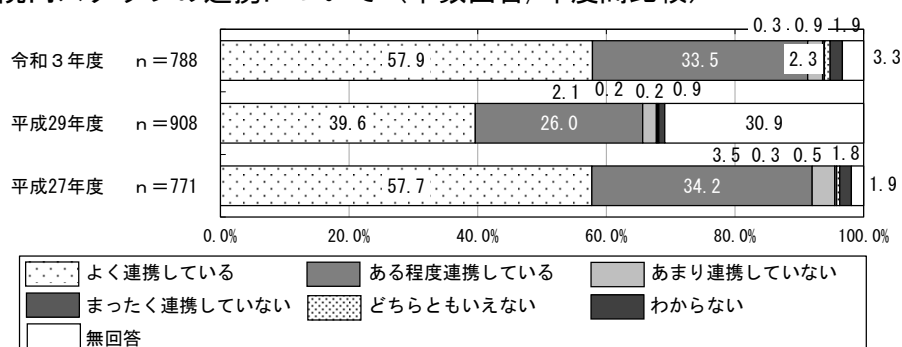
■院内スタッフの連携について（単数回答/全体）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	788	456	264	18	2	7	15	26
	100.0	57.9	33.5	2.3	0.3	0.9	1.9	3.3

年度間比較をすると、『平成 29 年度』で“連携している”は 65.6%であったものが、『令和 3 年度』では“連携している”が 91.4%となっており、25.8 ポイント (91.4%－65.6%) 上回っている。

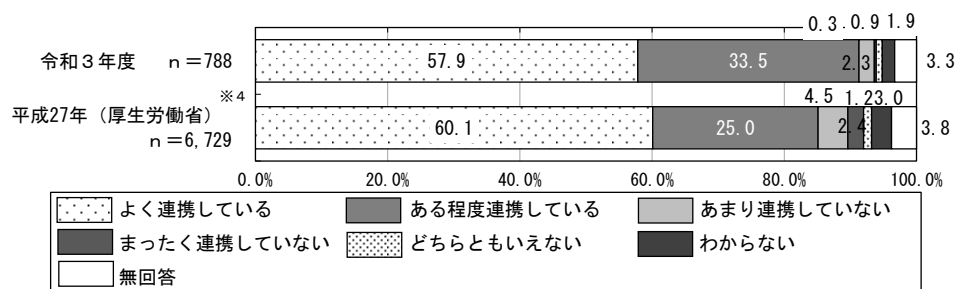
■院内スタッフの連携について（単数回答/年度間比較）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
令和 3 年度	788	456	264	18	2	7	15	26
平成 29 年度	908	360	236	19	2	2	8	281
平成 27 年度	771	445	264	27	2	4	14	15
	100.0	57.9	34.2	3.5	0.3	0.5	1.8	1.9

国の調査（厚生労働省※3）と比較すると、『平成27年（厚生労働省）』では“連携している”が85.1%であるのに対し、『令和3年度』では同91.4%と6.3ポイント（91.4%－85.1%）上回っている。

■院内スタッフの連携について（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
令和3年度	788	456	264	18	2	7	15	26
平成27年 ※4 (厚生労働省)	6,729	4,047	1,681	301	159	82	200	259

※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省

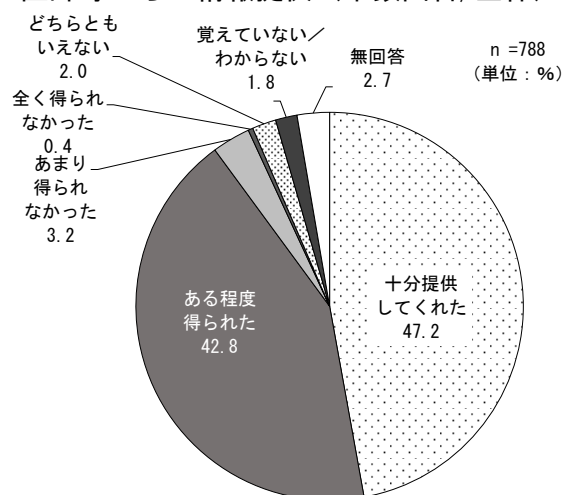
問 16 医師等からの情報提供

問 16 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。（「がん治療」には治療しないという方針も含まれます。）【〇はひとつだけ】

医師等からの情報提供については、「十分提供してくれた」が47.2%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が42.8%、「あまり得られなかった」が3.2%の順となっている。

また“情報を得られた”（「十分提供してくれた」＋「ある程度得られた」）は90.0%と9割をとなっている。

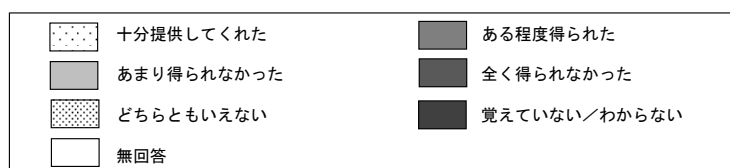
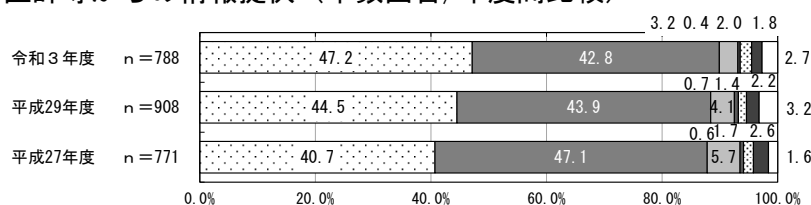
■医師等からの情報提供（単数回答/全体）



	n	十分提供してくれた	ある程度得られた	あまり得られなかった	全く得られなかった	どちらともいえない	覚えていない／わからない	無回答
全体	788	372	337	25	3	16	14	21
	100.0	47.2	42.8	3.2	0.4	2.0	1.8	2.7

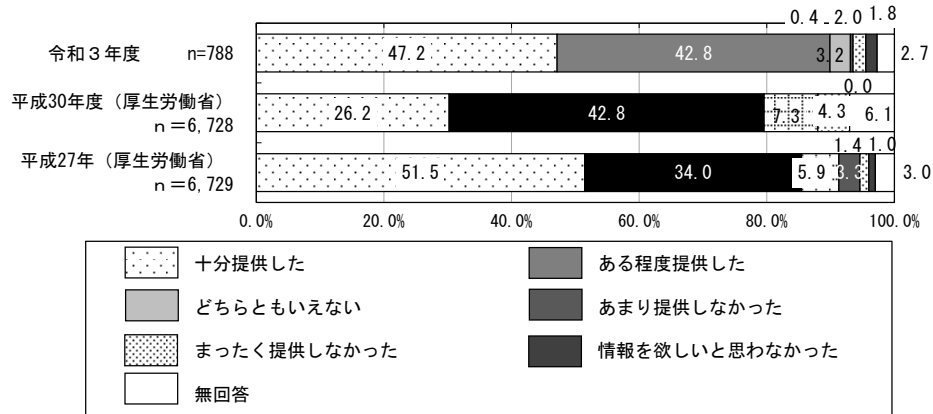
年度間比較をすると、『平成29年度』で“情報を得られた”が88.4%、『令和3年度』では“情報を得られた”が90.0%となっており、1.6ポイント（90.0%－88.4%）上回っている。

■医師等からの情報提供（単数回答/年度間比較）



	n	十分提供してくれた	ある程度得られた	あまり得られなかった	全く得られなかった	どちらともいえない	覚えていない／わからない	無回答
令和3年度	788	372	337	25	3	16	14	21
	100.0	47.2	42.8	3.2	0.4	2.0	1.8	2.7
平成29年度	908	404	399	37	6	13	20	29
	100.0	44.5	43.9	4.1	0.7	1.4	2.2	3.2
平成27年度	771	314	363	44	5	13	20	12
	100.0	40.7	47.1	5.7	0.6	1.7	2.6	1.6

－参考－ 医師等からの情報提供 患者体験調査（平成30年度）（平成27年） 厚生労働省



	n	十分提供した	ある程度提供した	どちらともいえない	あまり提供しなかった	まったく提供しなかった	情報を欲しいと思わなかった	無回答
令和3年度	788	372	337	25	3	16	14	21
平成30年度※3 (厚生労働省)	6,728	1,766	2,881	489	-	291	-	408
	100.0	26.2	42.8	7.3	-	4.3	-	6.1
平成27年※6 (厚生労働省)	6,729	3,464	2,289	395	222	93	66	200
	100.0	51.5	34.0	5.9	3.3	1.4	1.0	3.0

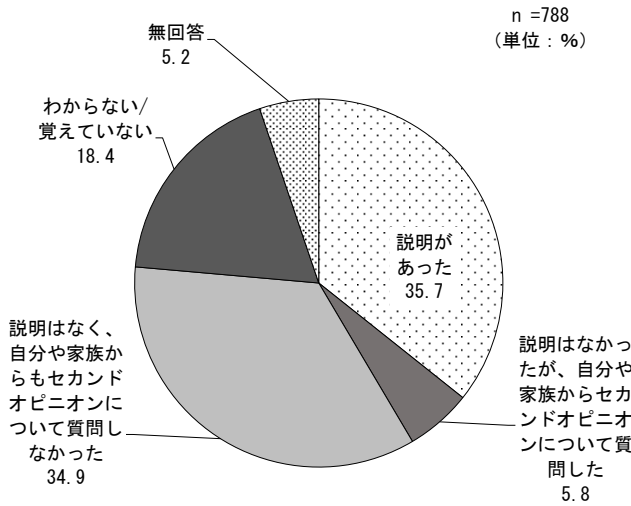
(注) 厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄が異なるため、参考として記した。

問 17 セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無

問 17 がん治療が始まる前にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無については、「説明があった」が 35.7%と最も高く、次いで「説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった」が 34.9%、「わからない/覚えていない」が 18.4%の順となっている。

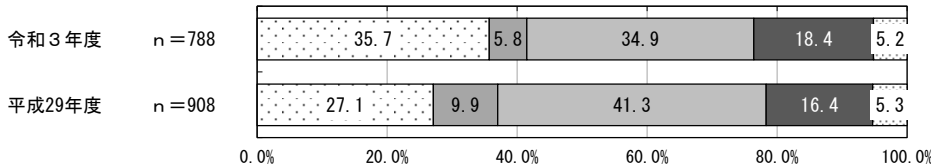
■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/全体）



	n	説明があった	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった	わからない/覚えていない	無回答
全体	788	281	46	275	145	41
	100.0	35.7	5.8	34.9	18.4	5.2

年度間比較をすると、『平成 29 年度』で「説明があった」が 27.1%、『令和 3 年度』では 35.7% となっており、8.6 ポイント (35.7% - 27.1%) 上回っている。

■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/年度間比較）

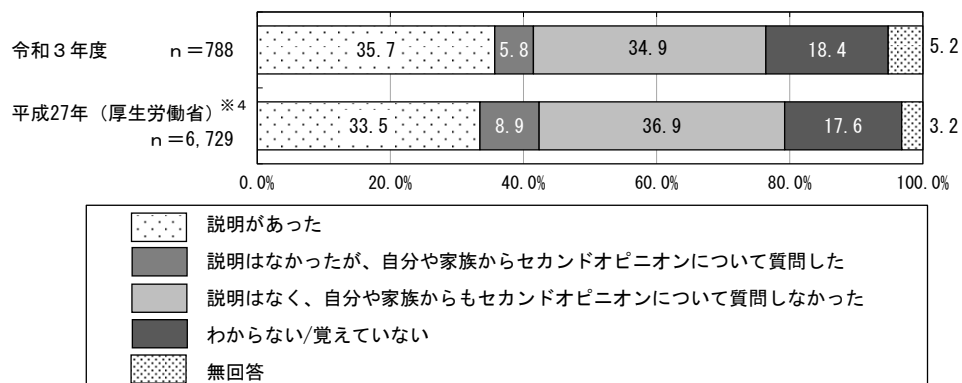


説明の有無	割合 (%)
説明があった	35.7
説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	5.8
説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった	34.9
わからない/覚えていない	18.4
無回答	5.2

	n	説明があった	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった	わからない/覚えていない	無回答
令和 3 年度	788	281	46	275	145	41
	100.0	35.7	5.8	34.9	18.4	5.2
平成 29 年度	908	246	90	375	149	48
	100.0	27.1	9.9	41.3	16.4	5.3

国の調査（厚生労働省※³）と比較すると、『平成 27 年（厚生労働省）』では「説明があった」が 33.5%であるのに対し、『令和 3 年度』では 35.7%と 2.2 ポイント（35.7%－33.5%）上回っている。

■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/国の調査との比較）



	n	説明があった	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった	わからない/覚えていない	無回答
令和3年度	788	281	46	275	145	41
平成27年※4 (厚生労働省)	6,729	2,255	597	2,480	1,183	214

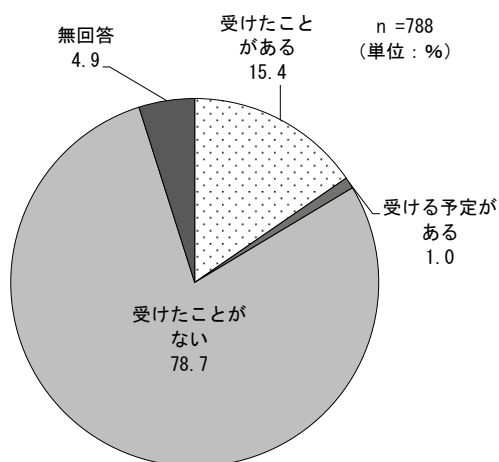
※4 患者体験調査（平成 27 年）厚生労働省

問 18 セカンドオピニオンの経験の有無

問 18 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンの経験の有無については、「受けたことがない」が78.7%と最も高く、次いで「受けたことがある」が15.4%、「受ける予定がある」が1.0%の順となっている。

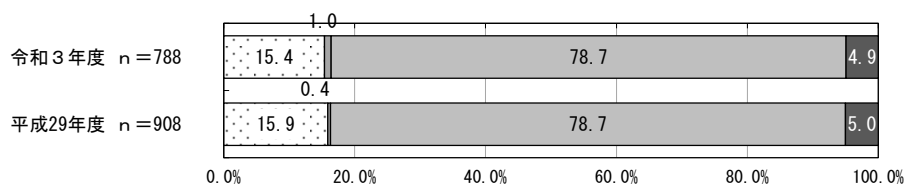
■セカンドオピニオンの経験の有無（単数回答/全体）



	n	受けたことがある	受ける予定がある	受けたことがない	無回答
全体	788	281	46	275	41
	100.0	15.4	1.0	78.7	4.9

年度間比較をすると、『平成29年度』で「受けたことがある」が15.9%、『令和3年度』では同15.4%となっており、0.5ポイント（15.4%－15.9%）下回っている。

■セカンドオピニオンの経験の有無（単数回答/年度間比較）



●	受けたことがある	■	受ける予定がある
■	受けたことがない	■	無回答

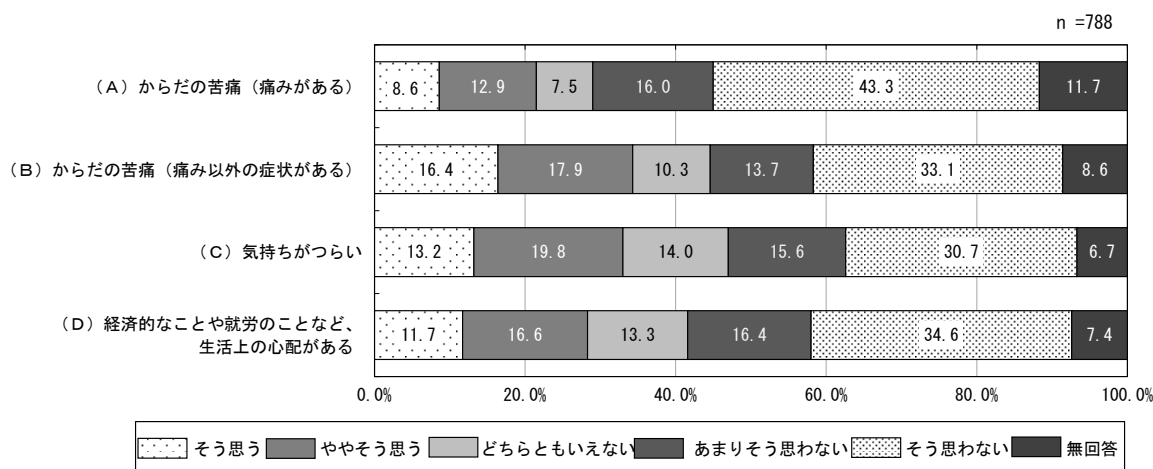
	n	受けたことがある	受ける予定がある	受けたことがない	無回答
令和3年度	788	281	46	275	41
	100.0	15.4	1.0	78.7	4.9
平成29年度	908	246	90	375	48
	100.0	15.9	0.4	78.7	5.0

問 19 現在の心身の状態

問 19 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

- (A) からだの苦痛（痛みがある）については、「そう思わない」が43.3%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が16.0%、「ややそう思う」が12.9%の順となっている。
 “思う”（「そう思う」+「ややそう思う」）は21.5%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」+「そう思わない」）は59.3%となっており、後者は前者の約2.8倍となっている。
- (B) からだの苦痛（痛み以外の症状がある）については、「そう思わない」が33.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」が17.9%、「そう思う」が16.4%の順となっている。
 “思う”は34.3%、一方“思わない”は46.8%となっており、後者は前者の約1.4倍となっている。
- (C) 気持ちがつらいについては、「そう思わない」が30.7%と最も高く、次いで「ややそう思う」が19.8%、「あまりそう思わない」が15.6%の順となっている。
 “思う”は33.0%、一方“思わない”は46.3%となっており、後者は前者の約1.4倍となっている。
- (D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配があるについては、「そう思わない」が34.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」が16.6%、「あまりそう思わない」が16.4%の順となっている。
 “思う”は28.3%、一方“思わない”は51.0%となっており、後者は前者の約1.8倍となっている。

■現在の心身の状態（単数回答/全体）

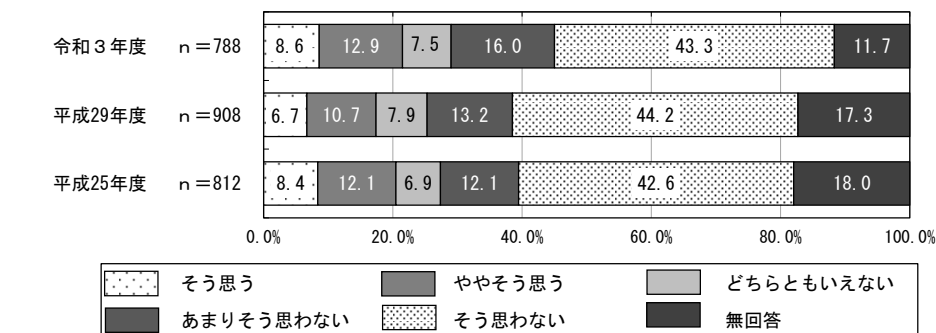


	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
か ら だ の 苦 痛 が あ る	788	68	102	59	126	341	92
か ら だ の 苦 痛 が あ る	100.0	8.6	12.9	7.5	16.0	43.3	11.7
か ら だ の 苦 痛 が あ る	788	129	141	81	108	261	68
か ら だ の 苦 痛 が あ る	100.0	16.4	17.9	10.3	13.7	33.1	8.6
か ら だ の 苦 痛 が あ る	788	104	156	110	123	242	53
か ら だ の 苦 痛 が あ る	100.0	13.2	19.8	14.0	15.6	30.7	6.7
か ら だ の 苦 痛 が あ る	788	92	131	105	129	273	58
か ら だ の 苦 痛 が あ る	100.0	11.7	16.6	13.3	16.4	34.6	7.4

(A) からだの苦痛（痛みがある）

年度間比較をしてみると、『令和3年度』では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が21.5%、『平成29年度』では同17.4%と4.1ポイント（21.5%－17.4%）上回り、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）も1.9ポイント（59.3%－57.4%）上回っている。

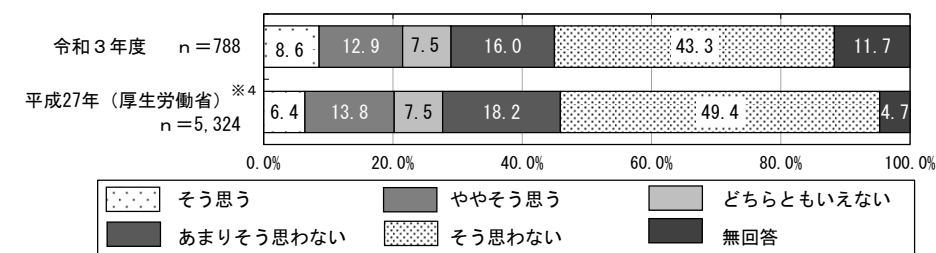
■からだの苦痛（痛みがある）（単数回答/年度間比較）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和3年度	788	68	102	59	126	341	92
平成29年度	908	61	97	72	120	401	157
平成25年度	812	68	98	56	98	346	146

国の調査（厚生労働省※4）と比較すると、『令和3年度』では“思う”が『平成27年（厚生労働省）』より1.3ポイント（21.5%－20.2%）上回っているが、“思わない”は8.3ポイント（59.3%－67.6%）下回っている。

■からだの苦痛（痛みがある）（単数回答/国の調査との比較）



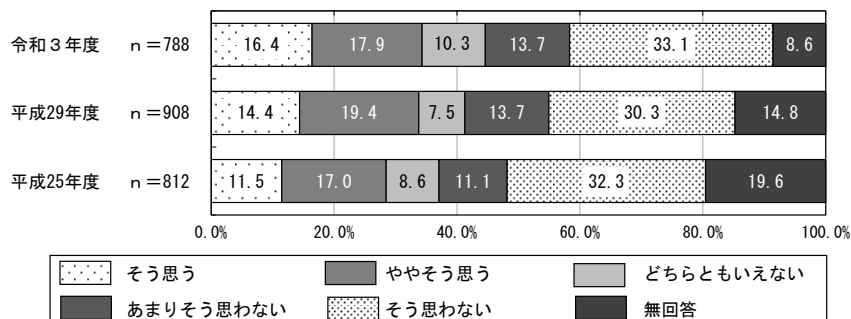
	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和3年度	788	68	102	59	126	341	92
平成27年※4（厚生労働省）	5,324	337	721	390	954	2,585	247

※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省

(B) からだの苦痛（痛み以外の症状がある）

年度間比較をしてみると、『令和3年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が『平成29年度』より0.5ポイント（34.3%－33.8%）、また“思わない”（「思わない」＋「あまり思わない」）も2.8ポイント（46.8%－44.0%）上回っている。

■からだの苦痛（痛み以外の症状がある）（単数回答/年度間比較）

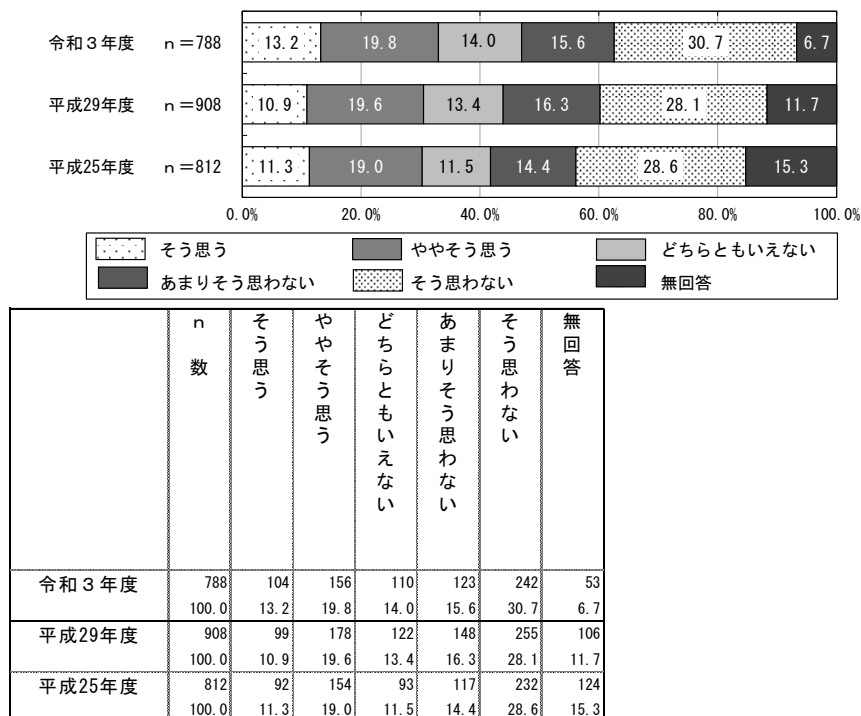


	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	無回答
令和3年度	788	129	141	81	108	261	68
	100.0	16.4	17.9	10.3	13.7	33.1	8.6
平成29年度	908	131	176	68	124	275	134
	100.0	14.4	19.4	7.5	13.7	30.3	14.8
平成25年度	812	93	138	70	90	262	159
	100.0	11.5	17.0	8.6	11.1	32.3	19.6

(C) 気持ちがつらい

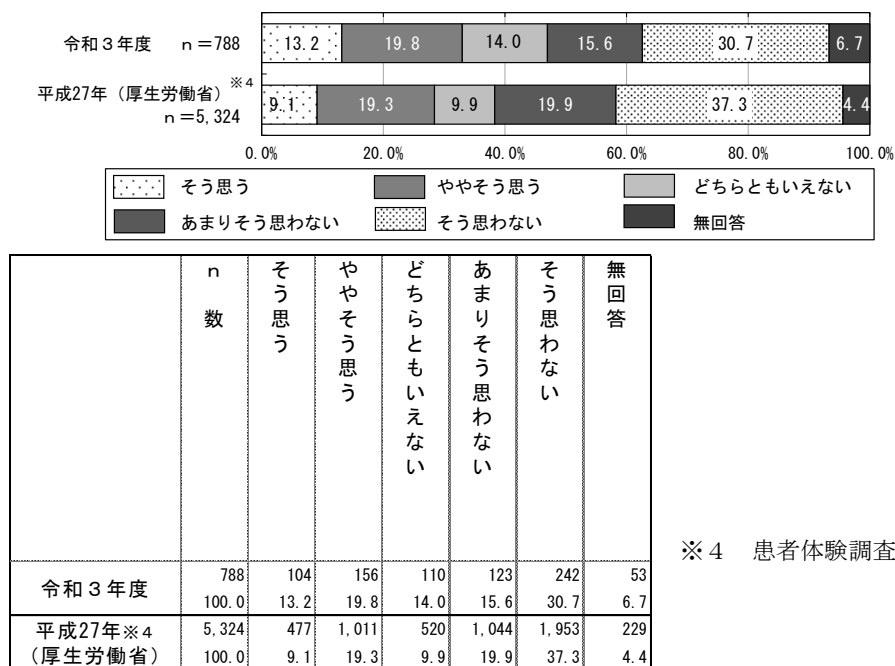
年度間比較をしてみると、『令和3年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が『平成29年度』より2.5ポイント（33.0%－30.5%）、また“思わない”（「思わない」＋「あまり思わない」）も1.9ポイント（46.3%－44.4%）上回っている。

■気持ちがつらい（単数回答/年度間比較）



国の調査（厚生労働省^{※4}）と比較すると、『令和3年度』では“思う”が4.6ポイント（33.0%－28.4%）上回り、一方“思わない”が10.9ポイント（46.3%－57.2%）下回っている。

■気持ちがつらい（単数回答/国の調査との比較）

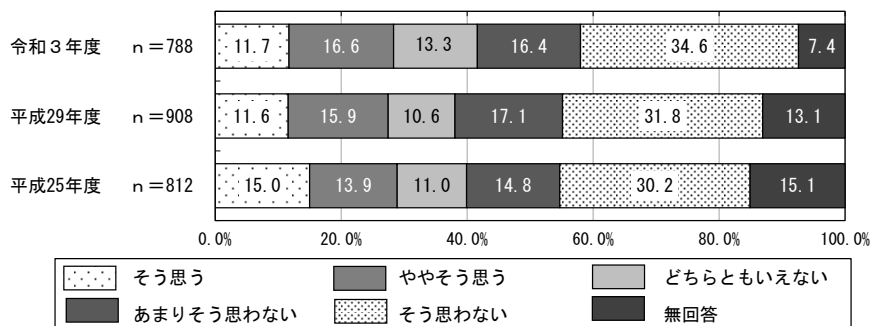


※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省

(D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある

年度間比較をしてみると、『令和3年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が『平成29年度』より0.8ポイント（28.3%－27.5%）上回り、また“思わない”（「思わない」＋「あまり思わない」）が2.1ポイント（51.0%－48.9%）上回っている。

■経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	無回答
令和3年度	788	92	131	105	129	273	58
	100.0	11.7	16.6	13.3	16.4	34.6	7.4
平成29年度	908	105	144	96	155	289	119
	100.0	11.6	15.9	10.6	17.1	31.8	13.1
平成25年度	812	122	113	89	120	245	123
	100.0	15.0	13.9	11.0	14.8	30.2	15.1

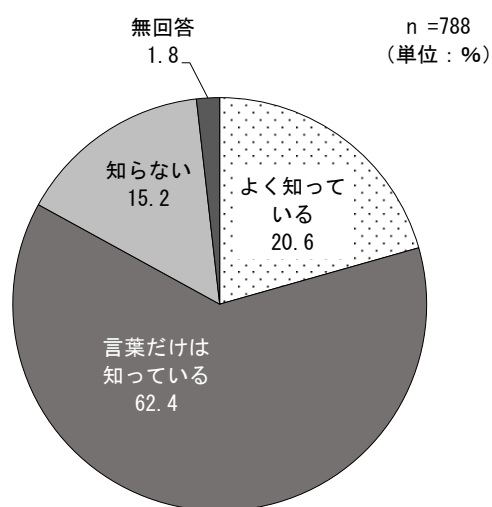
問 20 緩和ケアの認知度

問 20 「がん医療における緩和ケア（以下「緩和ケア」）」とは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげるとともに、がんになったことによる様々な不安に対し、それを解消することですが、あなたは、がん医療における「緩和ケア」について知っていますか。
【〇はひとつだけ】

緩和ケアの認知度については、「言葉だけは知っている」が 62.4%と最も高く、次いで「よく知っている」が 20.6%、「知らない」が 15.2%の順となっている。

また“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）は 83.0%と 8 割以上を占めている。

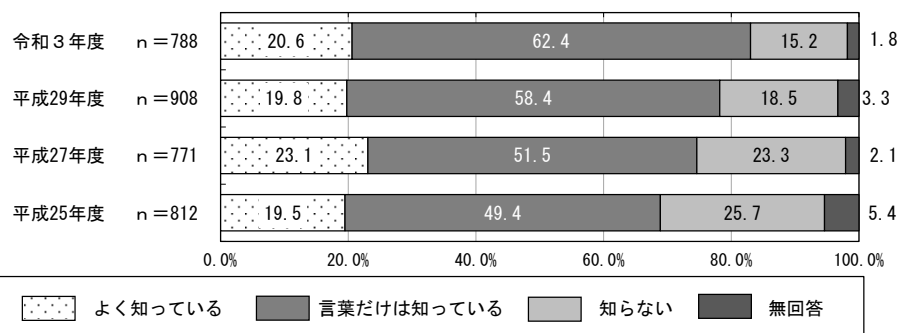
■緩和ケアの認知度（単数回答/全体）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
全体	788	162	492	120	14
	100.0	20.6	62.4	15.2	1.8

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）が68.9%であったものが、調査年毎に増加し『令和3年度』では同83.0%となっており、14.1ポイント（83.0%－68.9%）上回っている。

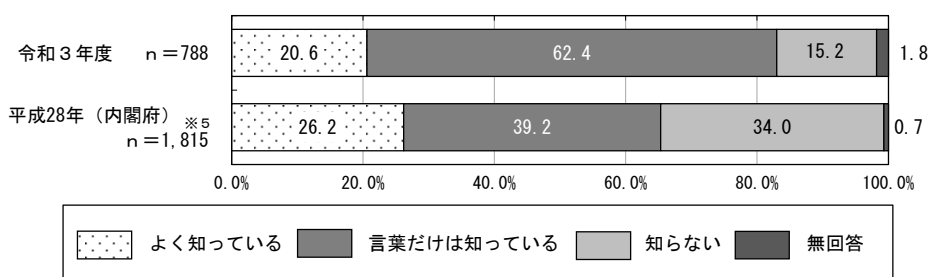
■緩和ケアの認知度（単数回答/年度間比較）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
令和3年度	788	162	492	120	14
	100.0	20.6	62.4	15.2	1.8
平成29年度	908	180	530	168	30
	100.0	19.8	58.4	18.5	3.3
平成27年度	771	178	397	180	16
	100.0	23.1	51.5	23.3	2.1
平成25年度	812	158	401	209	44
	100.0	19.5	49.4	25.7	5.4

国の調査（内閣府^{※5}）と比較すると、『平成28年（内閣府）』では“知っている”が65.4%であるのに対し、『令和3年度』では同83.0%と17.6ポイント（83.0%－65.4%）上回っている。

■緩和ケアの認知度（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	わからない
令和3年度	788	162	492	120	14
	100.0	20.6	62.4	15.2	1.8
平成28年 ^{※5} （内閣府）	1,815	-	-	-	-
	100.0	26.2	39.2	34.0	0.7

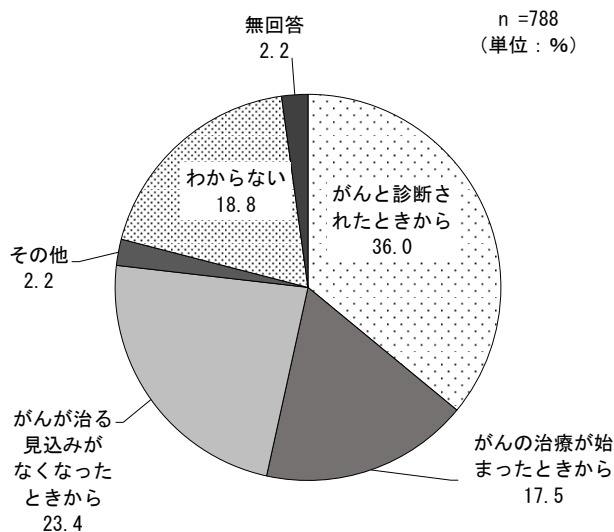
※5 がん対策に関する世論調査（平成28年11月） 内閣府 内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている。なお、令和元年にも世論調査を行っているが、該当する設問がなかった。

問 21 緩和ケアを開始すべき時期の認識

問 21 「緩和ケア」はいつから実施されるべきものと思っていますか。【○はひとつだけ】

緩和ケアを開始すべき時期の認識については、「がんと診断されたときから」が36.0%と最も高く、次いで「がんが治る見込みがなくなったときから」が23.4%、「わからない」が18.8%の順となっている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/全体）



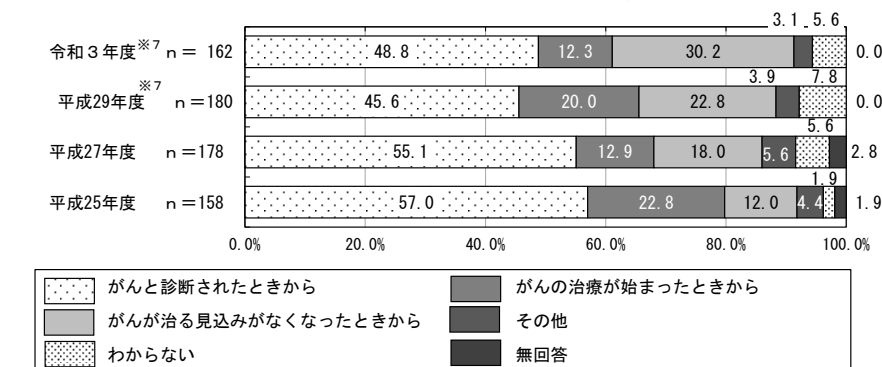
	n	ら	が	き	が	な	そ	わ	無
	数	ん	ん	か	ん	ん	の	か	回
		と	と	ら	の	が	他	ら	答
		診	診	の	治	ん		な	
		断	断	治	療	が		い	
		さ	さ	療	が	治		い	
		れ	れ	が	始	る		い	
		た	た	始	ま	見		い	
		と	と	ま	っ	込		い	
		き	き	っ	た	み		い	
		か	か	た	と	が		い	
				と	か	な		い	
				ら	ら	く		い	
				と	ら			い	
				か	ら			い	
全体	788	284	138	184	17	148	17		
	100.0	36.0	17.5	23.4	2.2	18.8	2.2		

【その他】

- ・自分が希望した時（3件）
- ・痛みが発生した時（3件）
- ・本人の状態による（3件）
- ・本人だけでなく、家族のケアが必要だと思う。
- ・必要が無かったので考えた事もない。

年度間比較をしてみると、『平成 29 年度』で「がんが治る見込みがなくなったときから」が 22.8%であったものが、『令和 3 年度※⁶』では同 30.2%となっており、7.4 ポイント (30.2%－22.8%) 上回っている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/年度間比較）

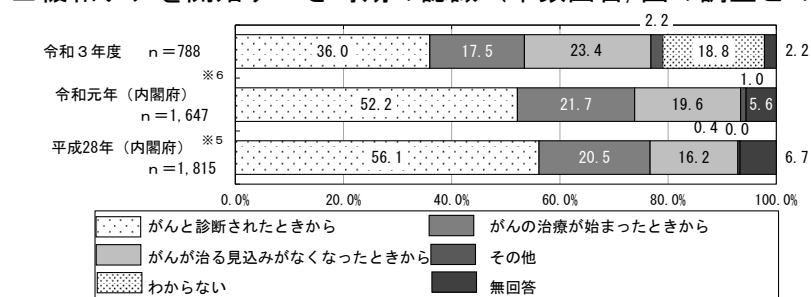


	n	がんが診断されたときから	がんの治療が始まったときから	がんが治る見込みがなくなったときから	その他	わからない	無回答
令和3年度※ ⁷	162	79	20	49	5	9	0
平成29年度※ ⁷	180	82	36	41	7	14	0
平成27年度	178	98	23	32	10	10	5
平成25年度	158	90	36	19	7	3	3

※⁷ 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』の間 20、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

国の調査（内閣府※⁴）と比較すると、『令和元年（内閣府）』では「がんが診断されたときから」が 52.2%であるのに対し、『令和 3 年度』では同 36.0%と 16.2 ポイント (36.0%－52.2%) 下回っている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/国の調査との比較）



	n	がんが診断されたときから	がんの治療が始まったときから	がんが治る見込みがなくなったときから	その他	わからない	無回答
令和3年度	788	284	138	184	17	148	17
令和元年※ ⁶ （内閣府）	1,647	-	-	-	-	-	-
平成28年※ ⁵ （内閣府）	1,815	-	-	-	-	-	-

※⁶ がん対策に関する世論調査（令和元年 7 月） 内閣府
 ※⁵ がん対策に関する世論調査（平成 28 年 11 月） 内閣府
 内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

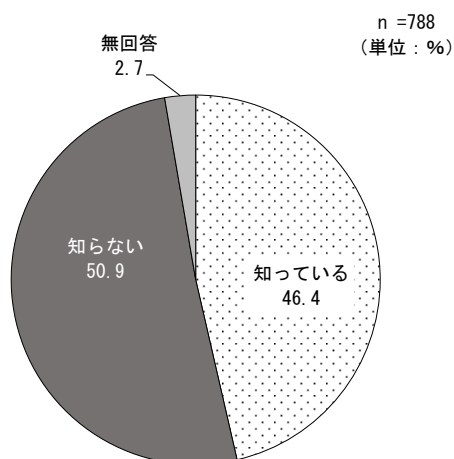
問 22 緩和ケア外来の認知度

問 22 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「緩和ケア外来」（注参照）を知っていますか。
【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア外来：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、通院中の患者さんが緩和ケアを受けられる「緩和ケア外来」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターに設置。

緩和ケア外来の認知度については、「知らない」が 50.9%、「知っている」が 46.4%となっている。

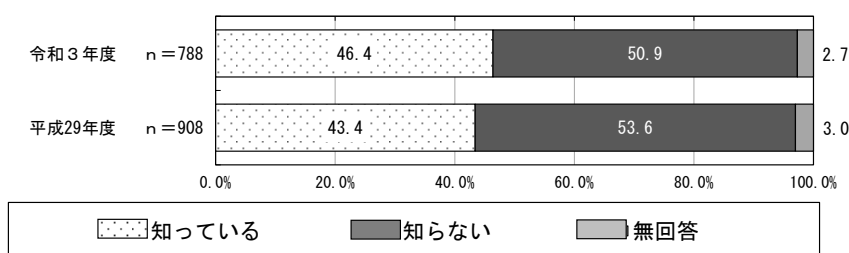
■緩和ケア外来の認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	知らない	無回答
全体	788	366	401	21
	100.0	46.4	50.9	2.7

年度間比較をしてみると、『平成 29 年度』で「知っている」が 43.4%、『令和 3 年度』では同 46.4%となっており、3.0 ポイント (46.4%－43.4%) 上回っている。

■緩和ケア外来の認知度（単数回答/年度間比較）



	n	知っている	知らない	無回答
令和 3 年度	788	366	401	21
	100.0	46.4	50.9	2.7
平成 29 年度	908	394	487	27
	100.0	43.4	53.6	3.0

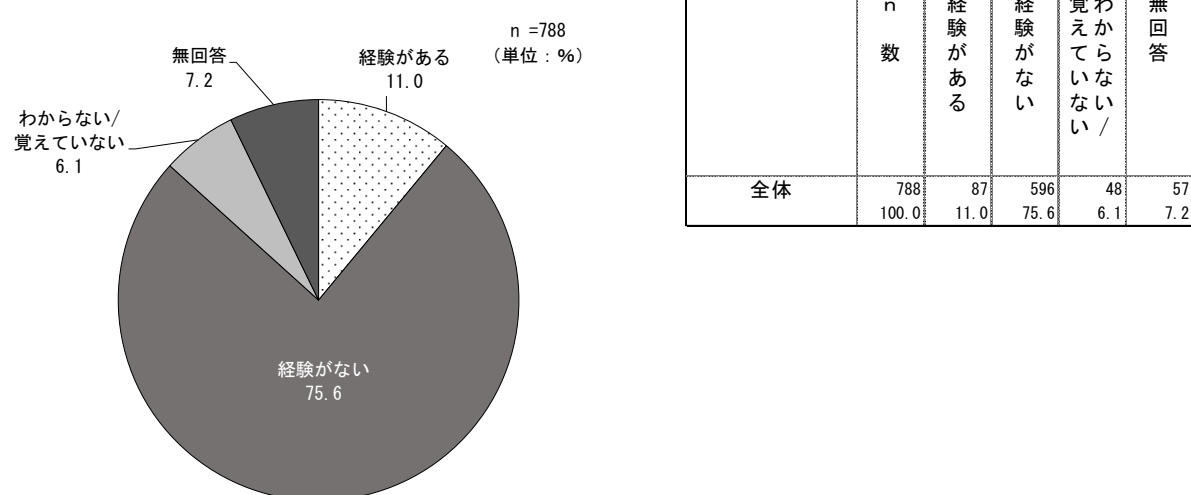
問 23-1 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無

(問 23 **現在かかっている病院**で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)

問 23-1 **「からだの苦痛」**について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

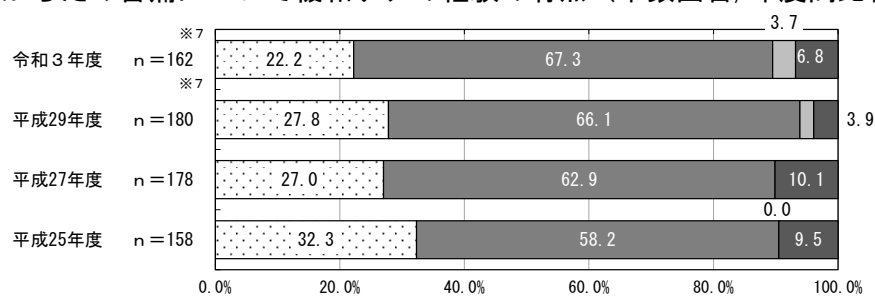
からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無については、「経験がない」が 75.6%と最も高く、次いで「経験がある」が 11.0%、「わからない/覚えていない」が 6.1%の順となっている。

■からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 (単数回答/全体)



年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「経験がない」が 58.2%であったものが、『令和 3 年度^{※7}』では同 67.3%となっており、9.1 ポイント (67.3% - 58.2%) 上回っている。

■からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 (単数回答/年度間比較)



経験がある^{※9}
 経験がない^{※9}
 わからない/覚えていない^{※8}
 無回答^{※8}

	n	経験がある	経験がない	覚えていない/わからない	無回答
令和3年度 ^{※7}	162	36	109	6	11
	100.0	22.2	67.3	3.7	6.8
平成29年度 ^{※7}	180	50	119	4	7
	100.0	27.8	66.1	2.2	3.9
平成27年度	178	48	112	-	18
	100.0	27.0	62.9	-	10.1
平成25年度	158	51	92	-	15
	100.0	32.3	58.2	-	9.5

※7 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』の問 20、『平成 29 年度』の問 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

※8 選択肢「わからない/覚えていない」は平成 29 年度より調査項目として追加している

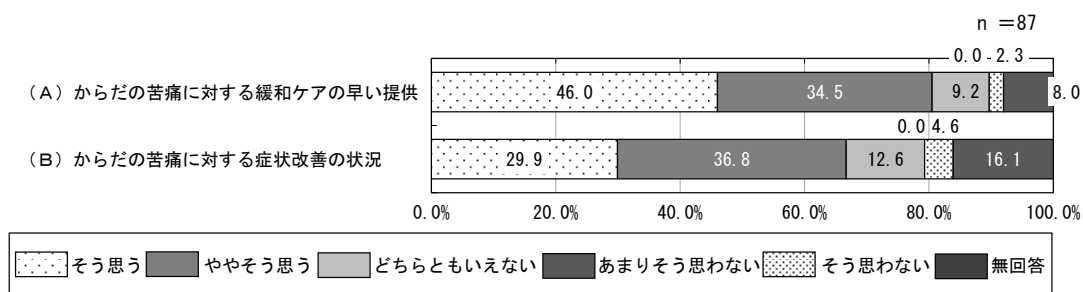
※9 選択肢「経験がある」「経験がない」は『平成 25 年度』『平成 27 年度』では、「ある」「ない」となっている

問 23-2 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善

(問 23 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)
 問 23-2 問 23-1 で「からだの苦痛」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
 「からだの苦痛」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
 また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

(A) からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供については、「そう思う」が 46.0%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 34.5%、「どちらともいえない」が 9.2%の順となっている。“思う”(「そう思う」+「ややそう思う」)が 80.5%、一方“思わない”(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)が 2.3%となっており、“思う”が 8割を超えている。
 (B) からだの苦痛に対する症状改善の状況については、「ややそう思う」が 36.8%と最も高く、次いで「そう思う」が 29.9%、「どちらともいえない」が 12.6%の順となっている。“思う”が 66.7%、一方“思わない”が 4.6%となっており、“思う”が 6割を超えている。

■からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善 (単数回答/全体)

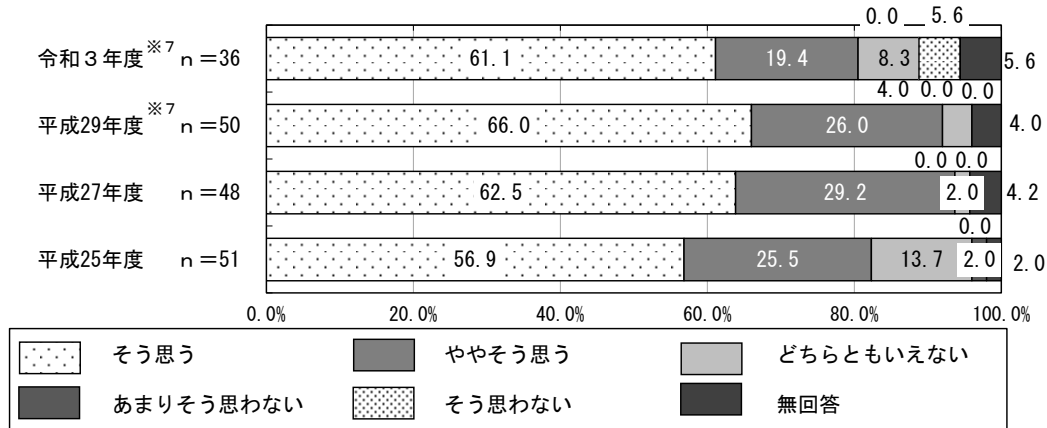


	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) からだの苦痛に対する 緩和ケアの早い提供	87 100.0	40 46.0	30 34.5	8 9.2	0 0.0	2 2.3	7 8.0
(B) からだの苦痛に対する 症状改善の状況	87 100.0	26 29.9	32 36.8	11 12.6	0 0.0	4 4.6	14 16.1

(A) からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」+「やや思う」）が 82.4%であったものが『令和 3 年度^{※7}』では同 80.5%となっており、1.9 ポイント（80.5%－82.4%）下回っている。

■からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供（単数回答/年度間比較）



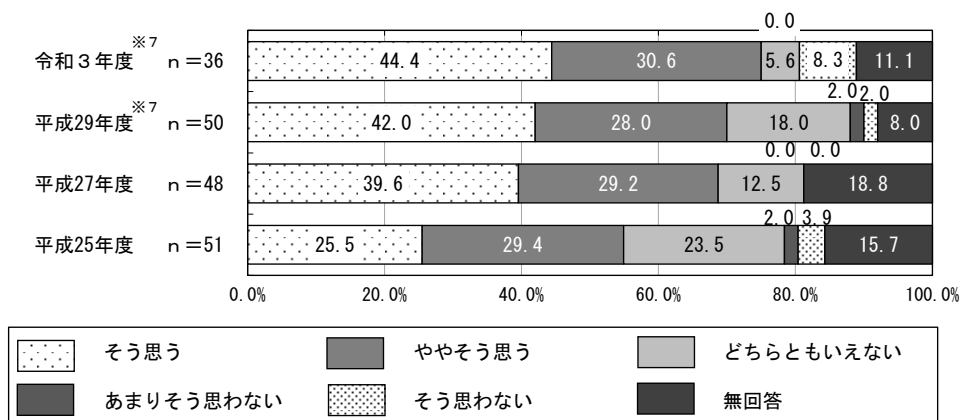
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和3年度 ^{※7}	36	22	7	3	0	2	2
	100.0	61.1	19.4	8.3	0.0	5.6	5.6
平成29年度 ^{※7}	50	33	13	2	0	0	2
	100.0	66.0	26.0	4.0	0.0	0.0	4.0
平成27年度	48	30	14	2	0	0	2
	100.0	62.5	29.2	2.0	0.0	0.0	4.2
平成25年度	51	29	13	7	1	0	1
	100.0	56.9	25.5	13.7	2.0	0.0	2.0

※7 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』の間 20、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

(B) からだの苦痛に対する症状改善の状況

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」+「やや思う」）が 54.9%であったものが『令和 3 年度^{※7}』では同 75.0%となっており、20.1 ポイント（75.0%－54.9%）上回っている。

■からだの苦痛に対する症状改善の状況（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和3年度 ^{※7}	36	16	11	2	0	3	4
	100.0	44.4	30.6	5.6	0.0	8.3	11.1
平成29年度 ^{※7}	50	21	14	9	1	1	4
	100.0	42.0	28.0	18.0	2.0	2.0	8.0
平成27年度	48	19	14	6	0	0	9
	100.0	39.6	29.2	12.5	0.0	0.0	18.8
平成25年度	51	13	15	12	1	2	8
	100.0	25.5	29.4	23.5	2.0	3.9	15.7

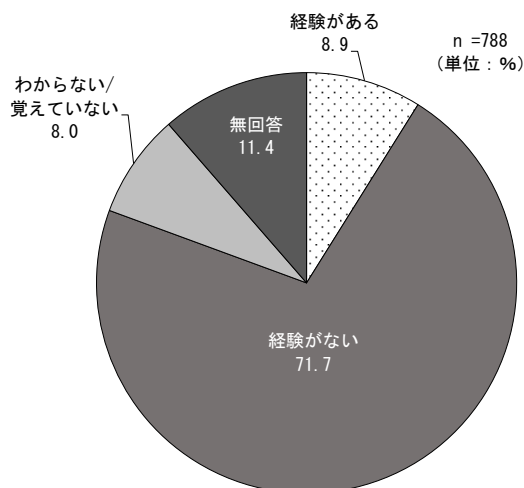
※7 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』の間 20、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

問 23-3 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無

(問 23 **現在かかっている病院**で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)
 問 23-3 「**気持ちのつらさ**」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【○はひとつだけ】

気持ちのつらさについては、「経験がない」が71.7%と最も高く、次いで「経験がある」が8.9%、「わからない/覚えていない」が8.0%の順となっている。

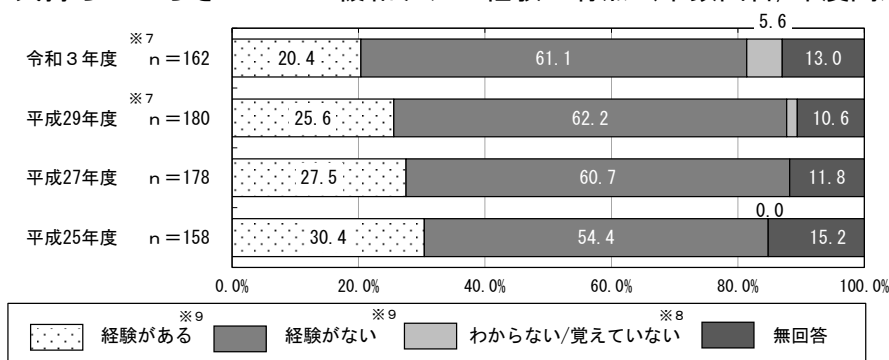
■気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 (単数回答/全体)



	n	経験がある	経験がない	覚えていない/わからない	無回答
全体	788	70	565	63	90
	100.0	8.9	71.7	8.0	11.4

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で「経験がない」が54.4%であったものが、『令和3年度^{※7}』では同61.1%となっており、6.7ポイント(61.1%－54.4%)上回っている。

■気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 (単数回答/年度間比較)



	n	経験がある	経験がない	覚えていない/わからない	無回答
令和3年度 ^{※7}	162	33	99	9	21
	100.0	20.4	61.1	5.6	13.0
平成29年度 ^{※7}	180	46	112	3	19
	100.0	25.6	62.2	1.7	10.6
平成27年度	178	49	108	-	21
	100.0	27.5	60.7	-	11.8
平成25年度	158	48	86	-	24
	100.0	30.4	54.4	-	15.2

- ※7 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和3年度』の問20、『平成29年度』の問21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している
- ※8 選択肢「わからない/覚えていない」は平成29年度より調査項目として追加している
- ※9 選択肢「経験がある」「経験がない」は『平成25年度』『平成27年度』では、「ある」「ない」となっている

問 23-4 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善

(問 23 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)

問 23-4 問 23-3 で「気持ちのつらさ」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。

「気持ちのつらさ」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

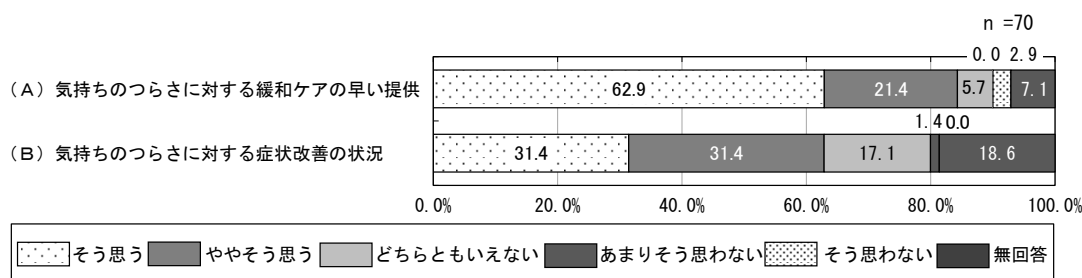
(A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供については、「そう思う」が 62.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 21.4%、「どちらともいえない」が 5.7%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 84.3%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 2.9%となっており、“思う”が 8割を超えている。

(B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況については、「ややそう思う」と「そう思う」が同率で 31.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 17.1%の順となっている。

“思う”が 62.8%、一方“思わない”が 1.4%となっており、“思う”が約 6割を占めている。

■気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善（単数回答/全体）

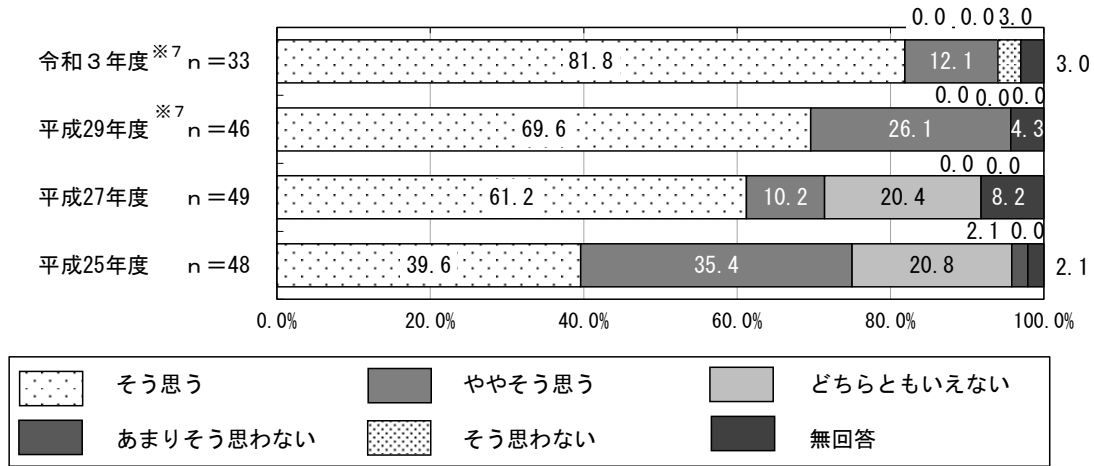


	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
(A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供	70	44	15	4	-	2	5
	100.0	62.9	21.4	5.7	-	2.9	7.1
(B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況	70	22	22	12	1	-	13
	100.0	31.4	31.4	17.1	1.4	-	18.6

(A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」+「やや思う」）が 75.0%であったものが、『令和 3 年度^{※7}』では同 93.9%となっており、18.9 ポイント（93.9%－75.0%）上回っている。

■気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供（単数回答/年度間比較）



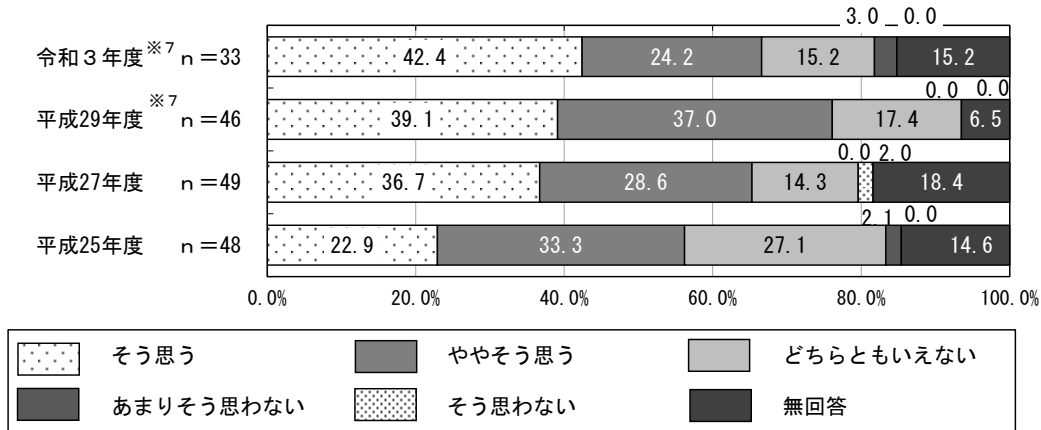
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和3年度 ^{※7}	33	27	4	0	0	1	1
	100.0	81.8	12.1	0.0	0.0	3.0	3.0
平成29年度 ^{※7}	46	32	12	0	0	0	2
	100.0	69.6	26.1	0.0	0.0	0.0	4.3
平成27年度	49	30	5	5	0	0	4
	100.0	61.2	10.2	20.4	0.0	0.0	8.2
平成25年度	48	19	17	10	1	0	1
	100.0	39.6	35.4	20.8	2.1	0.0	2.1

※7 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』の間 20、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

(B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」+「やや思う」）が 56.2%であったものが、『令和 3 年度※7』では同 66.6%となっており、10.4 ポイント（66.6%－56.2%）上回っている。

■気持ちのつらさに対する症状改善の状況（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和3年度※7	33	14	8	5	1	0	5
	100.0	42.4	24.2	15.2	3.0	0.0	15.2
平成29年度※7	46	18	17	8	0	0	3
	100.0	39.1	37.0	17.4	0.0	0.0	6.5
平成27年度	49	18	14	7	0	1	9
	100.0	36.7	28.6	14.3	0.0	2.0	18.4
平成25年度	48	11	16	13	1	0	7
	100.0	22.9	33.3	27.1	2.1	0.0	14.6

※7 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和 3 年度』の間 20、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

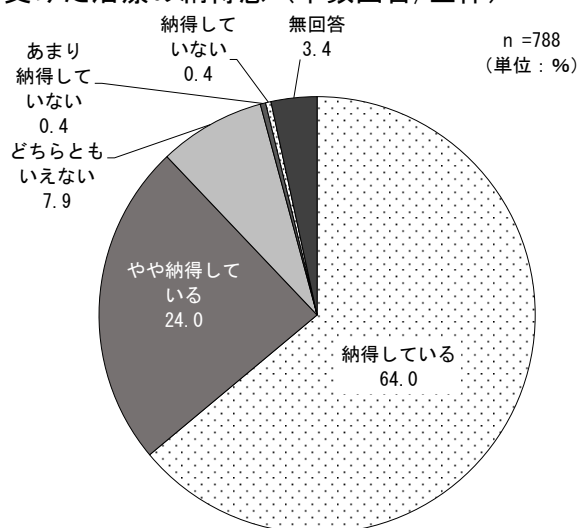
問 24 受けた治療の納得感

問 24 あなたはこれまで受けた治療に納得していますか。【○はひとつだけ】

受けた治療の納得感については、「納得している」が64.0%と最も高く、次いで「やや納得している」が24.0%、「どちらともいえない」が7.9%の順となっている。

“納得している”（「納得している」＋「やや納得している」）が88.0%、一方“納得していない”（「あまり納得していない」＋「納得していない」）が0.8%となっており、“納得している”が約9割となっている。

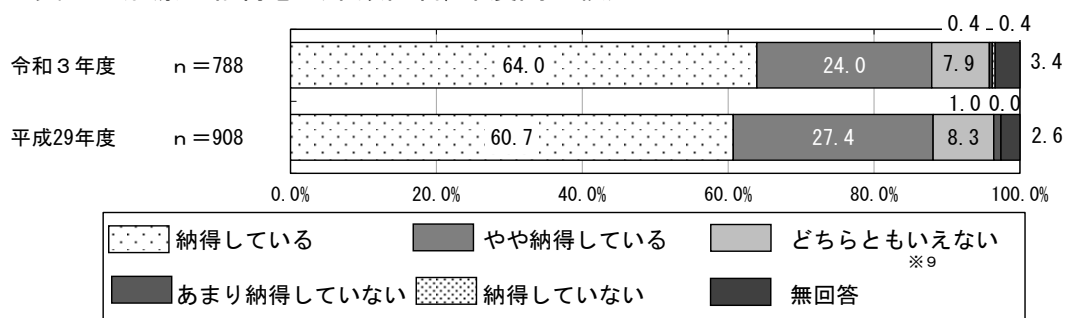
■受けた治療の納得感（単数回答/全体）



	n	納得している	やや納得している	どちらともいえない	あまり納得していない	納得していない	無回答
全体	788	504	189	62	3	3	27
	100.0	64.0	24.0	7.9	0.4	0.4	3.4

年度間比較をすると、『平成 29 年度』では“納得している”が88.1%であるのに対し、『令和 3 年度』では同88.0%と0.1ポイント（88.0%－88.1%）下回っている。

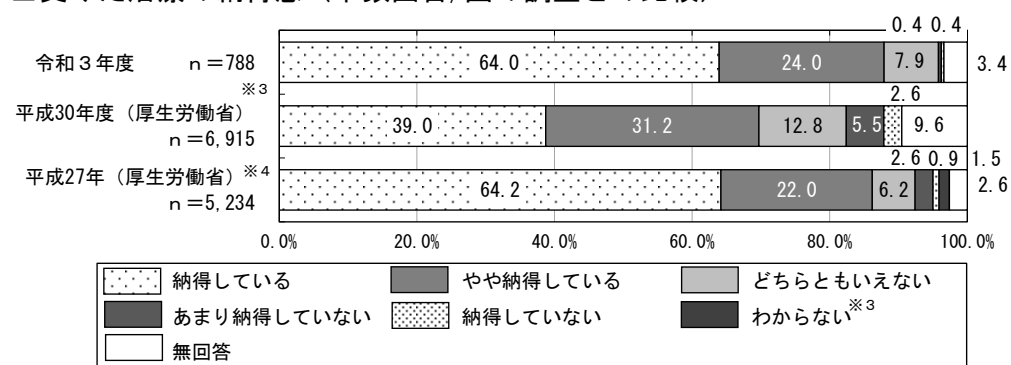
■受けた治療の納得感（単数回答/年度間比較）



	n	納得している	やや納得している	どちらともいえない	あまり納得していない	納得していない	無回答
令和3年度	788	504	189	62	3	3	27
	100.0	64.0	24.0	7.9	0.4	0.4	3.4
平成29年度	908	551	249	75	9	0	24
	100.0	60.7	27.4	8.3	1.0	0.0	2.6

国の調査（厚生労働省^{※4}）と比較すると、『平成30年度（厚生労働省）』では“納得している”が70.2%であるのに対し、『令和3年度』では同88.0%と17.8ポイント（88.0%－70.2%）上回っている。

■受けた治療の納得感（単数回答/国の調査との比較）



	n	納得している	やや納得している	どちらともいえない	あまり納得していない	納得していない	わからない	無回答
令和3年度	788	504	189	62	3	3	-	27
平成30年度 ^{※3} (厚生労働省)	6,915	178	379	882	2,159	2,696	-	621
平成27年 ^{※4} (厚生労働省)	5,234	3,360	1,150	326	137	47	77	137
	100.0	64.0	24.0	7.9	0.4	0.4	-	3.4
	100.0	39.0	31.2	12.8	5.5	2.6	-	9.6
	100.0	64.2	22.0	6.2	2.6	0.9	1.5	2.6

※3 患者体験調査（平成30年度） 厚生労働省
 ※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省
 ※4-3 選択肢「わからない」は『患者体験調査 平成27年（厚生労働省）』のみ調査

2-2. 地域連携について

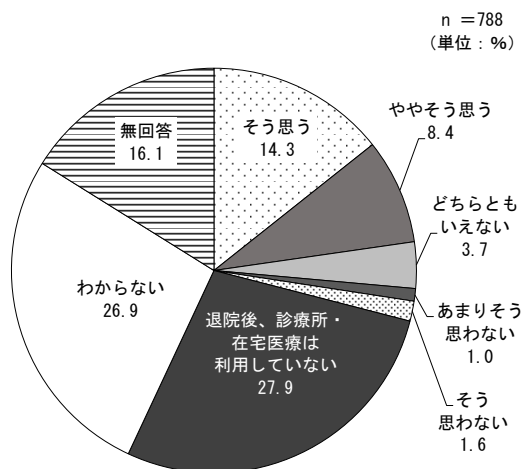
問 25 在宅医療・移行時の情報伝達について

問 25 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所・訪問看護ステーションに円滑に伝わったと思いますか。【〇はひとつだけ】

在宅医療・移行時の情報伝達については、「退院後、診療所・在宅医療は利用していない」が27.9%と最も高く、次いで「わからない」が26.9%、「そう思う」が14.3%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が22.7%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2.6%となっており、“思う”が約2割を占めている。

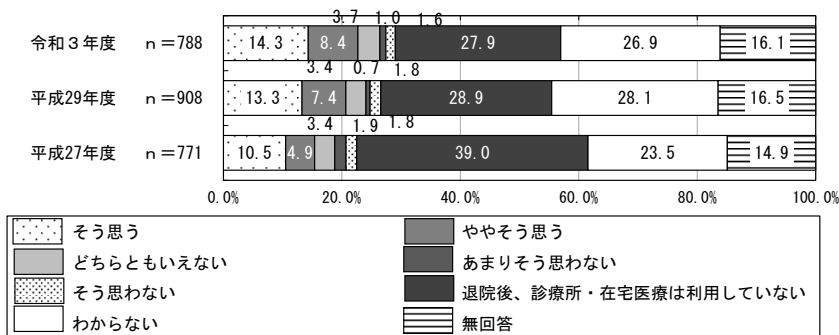
■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/全体）



	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	退 院 後 、 診 療 所 ・ 在 宅 医 療 は 利 用 し て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	788	113	66	29	8	13	220	212	127
	100.0	14.3	8.4	3.7	1.0	1.6	27.9	26.9	16.1

年度間比較をしてみると、『平成27年度』で“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が15.4%であったものが、『令和3年度』では同22.7%となっており、7.3ポイント（22.7%－15.4%）上回っている。

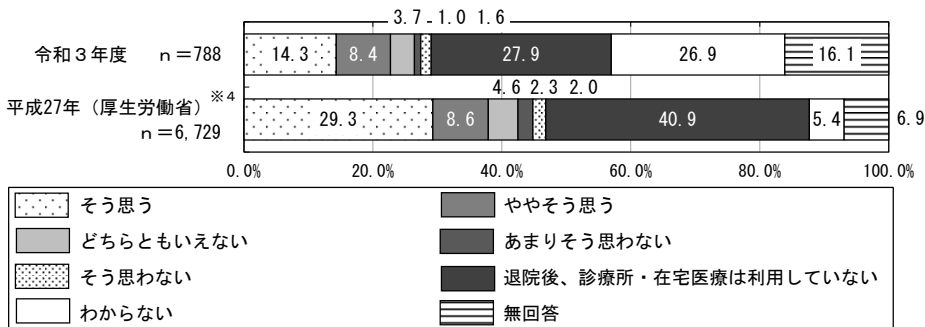
■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/年度間比較）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	退院後、診療所・在宅医療は利用していない	わからない	無回答
令和3年度	788	113	66	29	8	13	220	212	127
平成29年度	908	121	67	31	6	16	262	255	150
平成27年度	771	81	38	26	15	14	301	181	115

国の調査（厚生労働省※4）と比較すると、『平成27年（厚生労働省）』では“思う”が37.9%であるのに対し、『令和3年度』では同22.7%と15.2ポイント（22.7%－37.9%）下回っている。

■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/国の調査との比較）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	退院後、診療所・在宅医療は利用していない	わからない	無回答
令和3年度	788	113	66	29	8	13	220	212	127
平成27年※4（厚生労働省）	6,729	1,969	580	312	154	134	2,752	364	464

※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省

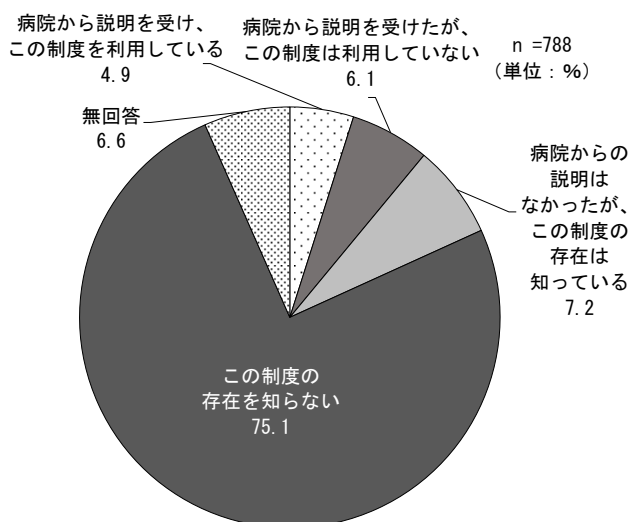
問 26 がん地域連携クリティカルパス等の認知度

問 26 がんの治療中や経過観察中に、病院のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医が二人で連携して患者さんを診療していく制度（「がん地域連携クリティカルパス（注参照）」または「私のカルテ」等）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん地域連携クリティカルパス：がん診療連携拠点病院等のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医が二人で連携して、計画的に患者を診療していく制度。奈良県では、県統一版「私のカルテ」、院内独自で作成された「がん地域連携クリティカルパス」などのツールが利用されている。

がん地域連携クリティカルパス等の認知度については、「この制度の存在を知らない」が75.1%と7割を超えている。一方、「病院から説明を受け、この制度を利用している」が4.9%と1割以下となっている。

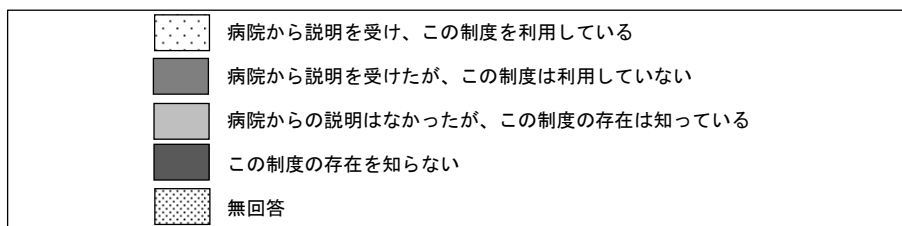
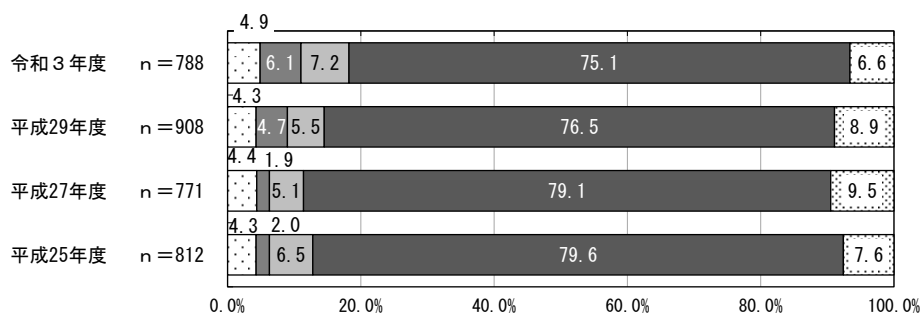
■がん地域連携クリティカルパス等の認知度（単数回答/全体）



	n	の病院から説明を受けている	がいない	病院から説明を受けたが、この制度の存在は知らない	病院からの説明はなかったが、この制度の存在は知っている	この制度の存在を知らない	無回答
全体	788	39	48	57	592	75.1	52
	100.0	4.9	6.1	7.2	75.1		6.6

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も「この制度の存在を知らない」が7割を超えている。

■がん地域連携クリティカルパス等の認知度（単数回答/年度間比較）



	n	の病院から説明を受けて、この	いがない、病院からの説明は利用した	知た病院からの説明は存在は	いこの制度の存在を知らない	無回答
令和3年度	788	39	48	57	592	52
	100.0	4.9	6.1	7.2	75.1	6.6
平成29年度	908	39	43	50	695	81
	100.0	4.3	4.7	5.5	76.5	8.9
平成27年度	771	34	15	39	610	73
	100.0	4.4	1.9	5.1	79.1	9.5
平成25年度	812	35	16	53	646	62
	100.0	4.3	2.0	6.5	79.6	7.6

2-3. 今後の療養について

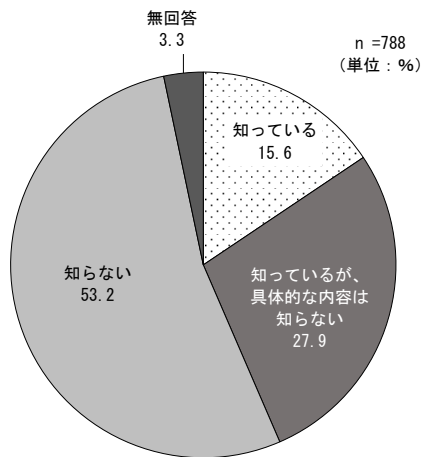
問 27 在宅緩和ケアの認知度

問 27 在宅で緩和ケアを受けられること（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）在宅での緩和ケア：在宅医やかかりつけ医による訪問診療や往診により、在宅での緩和ケアを受けること。

在宅緩和ケアの認知度については、「知らない」が53.2%と最も高く、次いで「知っているが、具体的な内容は知らない」が27.9%、「知っている」が15.6%の順となっている。

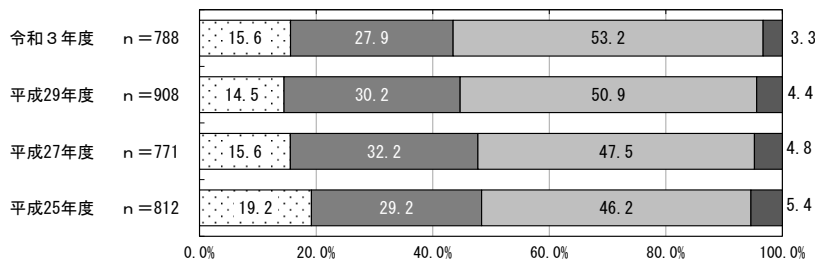
■在宅緩和ケアの認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
全体	788	123	220	419	26
	100.0	15.6	27.9	53.2	3.3

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度もほぼ同じ結果となっている。『平成25年度』では「知らない」が46.2%であったものが、『令和3年度』では同53.2%となっており、7.0ポイント（53.2%－46.2%）上回っている。

■在宅緩和ケアの認知度（単数回答/年度間比較）



知っている
 知っているが、具体的な内容は知らない
 知らない
 無回答

	n	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
令和3年度	788	123	220	419	26
	100.0	15.6	27.9	53.2	3.3
平成29年度	908	132	274	462	40
	100.0	14.5	30.2	50.9	4.4
平成27年度	771	120	248	366	37
	100.0	15.6	32.2	47.5	4.8
平成25年度	812	156	237	375	44
	100.0	19.2	29.2	46.2	5.4

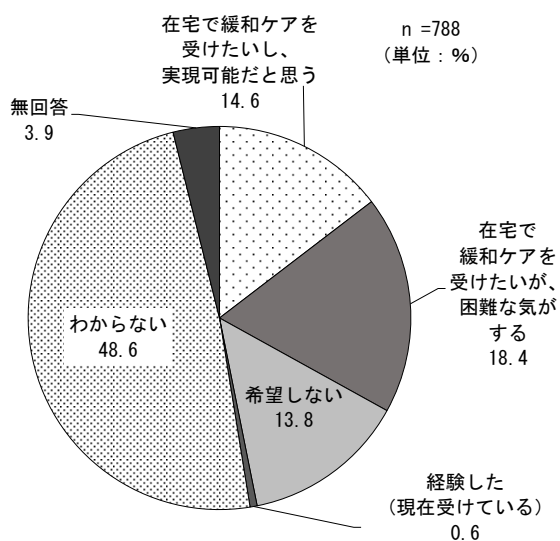
問 28 在宅緩和ケアへの考え

問 28 在宅での緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

在宅緩和ケアへの考えについては、「わからない」が48.6%と最も高く、次いで「在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする」が18.4%、「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」が14.6%の順となっている。

一方「経験した（現在受けている）」が0.6%となっている。

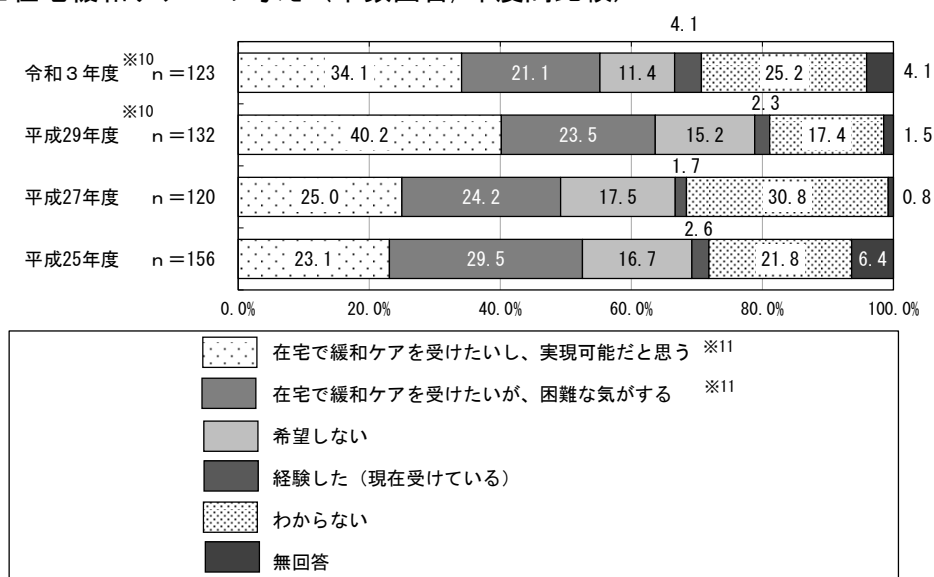
■在宅緩和ケアへの考え（単数回答/全体）



	n 数	在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う	在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする	希望しない	経験した（現在受けている）	わからない	無回答
全 体	788 100.0	115 14.6	145 18.4	109 13.8	5 0.6	383 48.6	31 3.9

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」が 23.1%であったものが、『令和 3 年度』では同 34.1%となっており、11.0 ポイント (34.1% - 23.1%) 上回っている。

■在宅緩和ケアへの考え（単数回答/年度間比較）



	n	在宅で、実現可能だと思っ た ※11	在宅で、困難な ケアを受ける た ※11	希望 しない	経験 した（ 現在受 けてい る）	わか らな い	無 回 答
令和3年度 ※10	123 100.0	42 34.1	26 21.1	14 11.4	5 4.1	31 25.2	5 4.1
平成29年度 ※10	132 100.0	53 40.2	31 23.5	20 15.2	3 2.3	23 17.4	2 1.5
平成27年度	120 100.0	30 25.0	29 24.2	21 17.5	2 1.7	37 30.8	1 0.8
平成25年度	156 100.0	36 23.1	46 29.5	26 16.7	4 2.6	34 21.8	10 6.4

※10 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 28、『令和 3 年度の間 27 で「知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

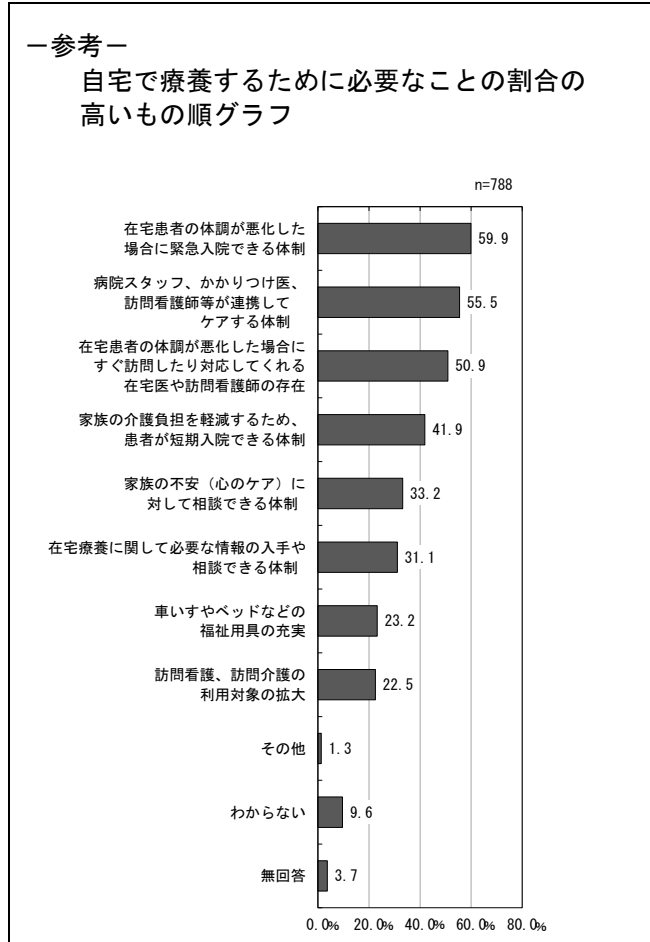
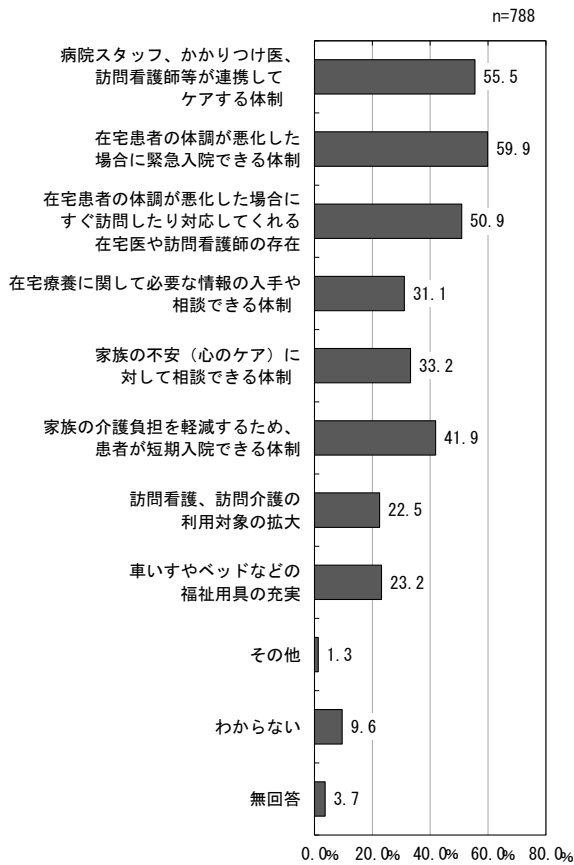
※11 選択肢「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」「在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする」は『平成 25 年度』『平成 27 年度』では「受けたいし、実現可能だと思う」「受けたいが、困難な気がする」となっている

問 29 自宅で療養するために必要なこと

問 29 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思えますか。【〇はいくつでも】

自宅で療養するために必要なことについては、「在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制」が 59.9%と最も高く、次いで「病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制」が 55.5%、「在宅患者の体調が悪化した場合にすぐ訪問したり対応してくれる在宅医や訪問看護師の存在」が 50.9%となっている。

■自宅で療養するために必要なこと（複数回答/全体）



	n	携け病 して医 ケア する 看護 師等 が連 つ	院 ス タ フ 、 か か り つ け 医 、 訪 問 看 護 師 等 が 連 携 し て ケ ア す る 体 制	た 在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	訪 問 看 護 師 の 存 在 に 対 し て 緊 急 入 院 で き る 体 制	在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	情 報 の 入 手 や 相 談 で き る 体 制	に 家 族 の 不 安 （ 心 の ケ ア ） に 対 し て 相 談 で き る 体 制	家 族 の 介 護 負 担 を 軽 減 す る た め 、 患 者 が 短 期 入 院 で き る 体 制	訪 問 看 護 、 訪 問 介 護 の 利 用 対 象 の 拡 大	車 い す や ベ ッ ド な ど の 福 祉 用 具 の 充 実	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	788 100.0	437 55.5	472 59.9	401 50.9	245 31.1	262 33.2	330 41.9	177 22.5	183 23.2	10 1.3	76 9.6	29 3.7		

【その他】

- ・現在不必要なので何も思わない。
- ・自宅のバリアフリー化、感染対策
- ・一人暮らしの場合、すべて必要、まずはケアマネさんの派遣を。
- ・術後順調なのでピンとこない

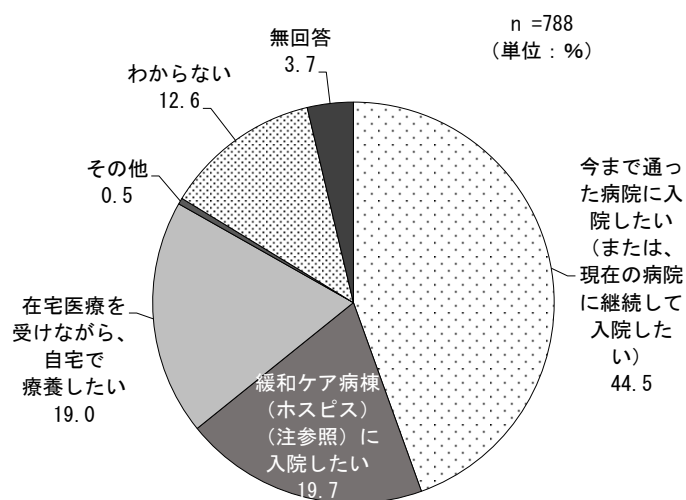
問 30 希望する療養場所

問 30 もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるのであれば、どこで過ごしたいと思いますか。【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

希望する療養場所については、「今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）」が 44.5%と最も高く、次いで「緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい」が 19.7%、「在宅医療を受けながら、自宅で療養したい」が 19.0%の順となっている。

■希望する療養場所（単数回答/全体）



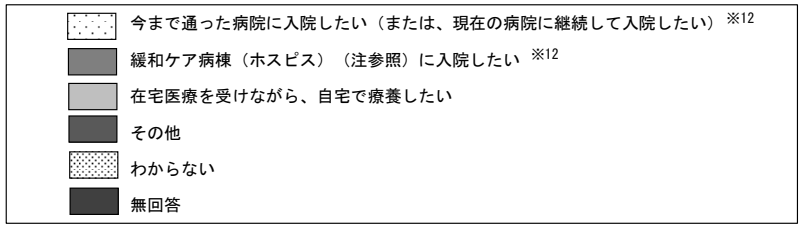
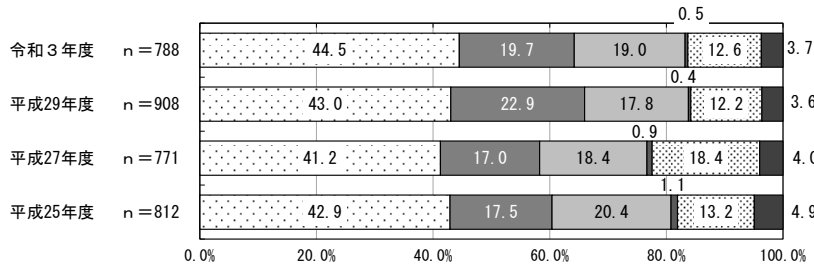
	n 数	い 病 院 に 継 続 し て 入 院 し た の	今 ま で 通 つ た 病 院 に 入 院 し た の	た ス （ 注 参 照 ） に 入 院 し た の	緩 和 ケ ア 病 棟 （ ホ ス ピ ス ） に 入 院 し た の	自 宅 医 療 を 受 け な が ら 、 自 宅 で 療 養 し た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答					
全 体	788	351	155	150	4	99	29	100.0	44.5	19.7	19.0	0.5	12.6	3.7

【その他】

- ・今かかっている病院がホスピスである。
- ・悩んでないのでピンとこない。

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で「緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい」が17.5%であったものが、『令和3年度』では同19.7%となっており、2.2ポイント（19.7% - 17.5%）上回っている。

■希望する療養場所（単数回答/年度間比較）



	n	今まで通った病院に継続して入院したい ※12	緩和ケア病棟 (注参照) に入院したい ※12	在宅医療を受けながら、自宅で療養したい	その他	わからない	無回答
令和3年度	788	351	155	150	4	99	29
	100.0	44.5	19.7	19.0	0.5	12.6	3.7
平成29年度	908	390	208	162	4	111	33
	100.0	43.0	22.9	17.8	0.4	12.2	3.6
平成27年度	771	318	131	142	7	142	31
	100.0	41.2	17.0	18.4	0.9	18.4	4.0
平成25年度	812	348	142	166	9	107	40
	100.0	42.9	17.5	20.4	1.1	13.2	4.9

※12 選択肢「今まで通った病院に入院したい (または、現在の病院に継続して入院したい)」「緩和ケア病棟 (ホスピス) (注参照) に入院したい」は『平成25年度』『平成27年度』では「なるべく早く今まで通った病院に入院したい (または、現在の病院に継続して入院したい)」「なるべく早く緩和ケア病棟 (ホスピス) (注参照) に入院したい」となっている

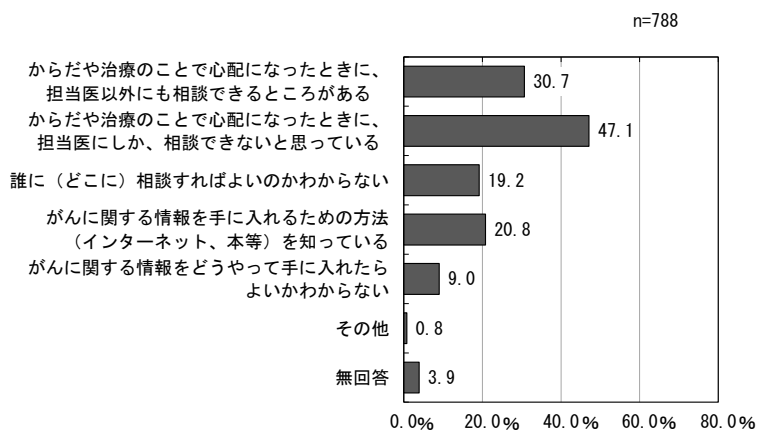
2-4. 相談支援・情報提供について

問 31 がん医療に関する相談支援及び情報提供

問 31 がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。
【〇はいくつでも】

がん医療に関する相談支援及び情報提供については、「からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている」が 47.1%と最も高く、次いで「からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある」が 30.7%、「がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている」が 20.8%の順となっている。

■がん医療に関する相談支援及び情報提供（複数回答/全体）



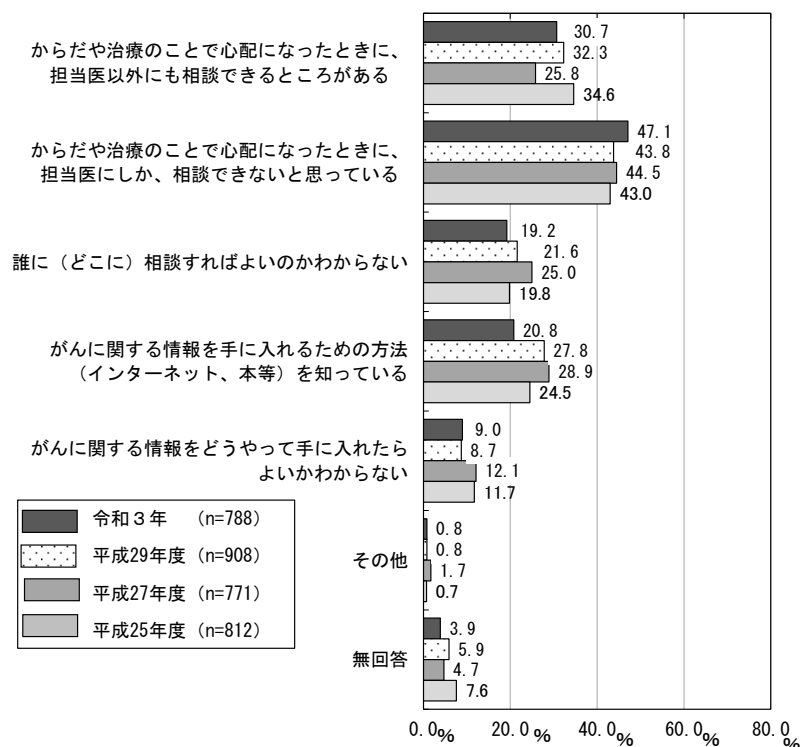
	n	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心	こ 医 配 か ら 外 な だ あ に つ や る も た 治 療 相 談 き の で こ き と き と 担 当 心
全体	788	242	371	151	164	71	6	31	
	100.0	30.7	47.1	19.2	20.8	9.0	0.8	3.9	

【その他】

- ・メゾベットに入りたい。
- ・がん経験者に相談
- ・食事指導献立内容等にはじまり外来化学療法室の情報等（ありがたい!!）一連がととのっている。
- ・最先端の治療法及びその療法を実施している病院については、なかなか判明しない。ネットの情報も万全ではない。
- ・まずは家族に相談する。

年度間比較をしてみると、『平成25年度』『平成29年度』『令和3年度』で「からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある」が2番目に高くなっているが、『平成27年度』では25.8%と3番目に高くなっている。

■がん医療に関する相談支援及び情報提供（複数回答/年度間比較）



	n	こ ろ が 外 に あ り ま す か ら だ や 治 療 の こ と で 心 配 な っ た と き に 、 担 当 医 に し か 、 相 談 で き な い と 思 っ て い る	か ら だ や 治 療 の こ と で 心 配 な っ た と き に 、 担 当 医 に し か 、 相 談 で き な い と 思 っ て い る	誰 に （ ど こ に ） 相 談 す れ ば よ い の か わ か ら な い	誰 に （ ど こ に ） 相 談 す れ ば よ い の か わ か ら な い	が ん に 関 する 情 報 を 手 に い れ る た め の 方 法 （ イ ン タ ー ネ ッ ト 、 本 等 ） を 知 っ て い る	が ん に 関 する 情 報 を 手 に い れ る た め の 方 法 （ イ ン タ ー ネ ッ ト 、 本 等 ） を 知 っ て い る	か ら だ や 治 療 の こ と で 心 配 な っ た と き に 、 担 当 医 に し か 、 相 談 で き な い と 思 っ て い る	や が ん に 関 する 情 報 を ど う や っ て 手 に い れ た ら よ い か わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
令和3年度	788	242	371	151	164	71	6	31			
平成29年度	908	293	398	196	252	79	7	54			
平成27年度	771	199	343	193	223	93	13	36			
平成25年度	812	281	349	161	199	95	6	62			
	100.0	30.7	47.1	19.2	20.8	9.0	0.8	3.9			
	100.0	32.3	43.8	21.6	27.8	8.7	0.8	5.9			
	100.0	25.8	44.5	25.0	28.9	12.1	1.7	4.7			
	100.0	34.6	43.0	19.8	24.5	11.7	0.7	7.6			

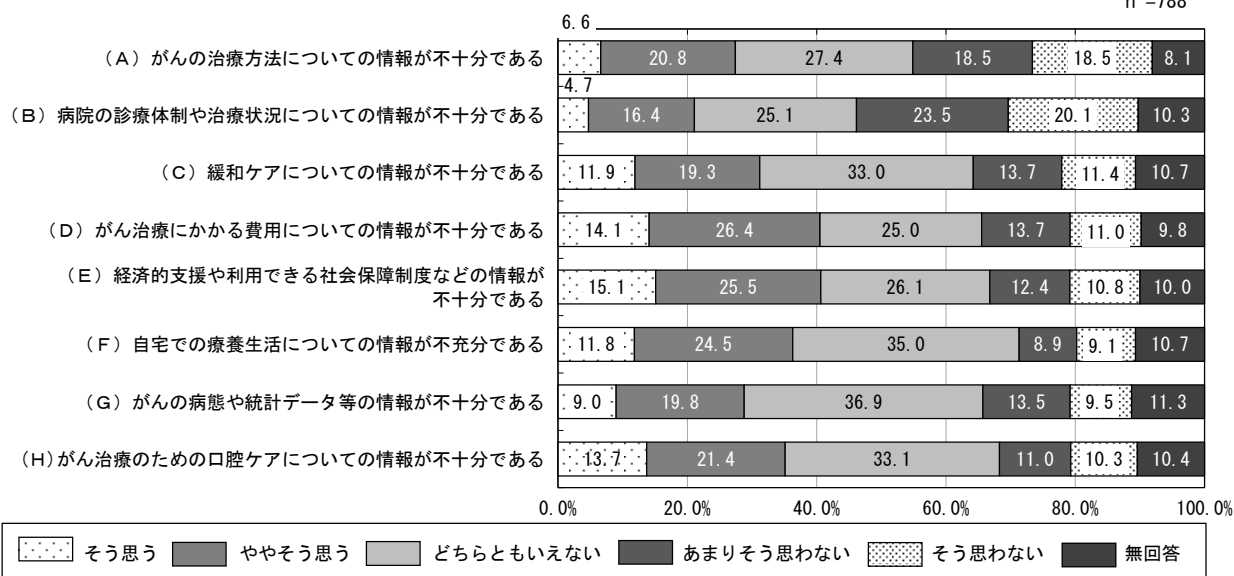
問 32 がんに関する情報の充実度

問 32 あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。
【それぞれ○はひとつだけ】

- (A) がんの治療方法についての情報不足については、「どちらともいえない」が 27.4%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 20.8%、「あまりそう思わない」と「思わない」が同率で 18.5%の順となっている。「思う」（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 27.4%、一方「思わない」（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 37.0%となっており、「思わない」が 9.6 ポイント（37.0%－27.4%）上回っている。
- (B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足については、「どちらともいえない」が 25.1%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が 23.5%、「そう思わない」が 20.1%の順となっている。「思う」が 21.1%、一方「思わない」が 43.6%となっており、「思わない」が 22.5 ポイント（43.6%－21.1%）上回っている。
- (C) 緩和ケアについての情報不足については、「どちらともいえない」が 33.0%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 19.3%、「あまりそう思わない」が 13.7%の順となっている。「思う」が 31.2%、一方「思わない」が 25.1%となっており、「思う」が 6.1 ポイント（31.2%－25.1%）上回っている。
- (D) がん治療にかかる費用についての情報不足については、「ややそう思う」が 26.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 25.0%、「そう思う」が 14.1%の順となっている。「思う」が 40.5%、一方「思わない」が 24.7%となっており、「思う」が 15.8 ポイント（40.5%－24.7%）上回っている。
- (E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足については、「どちらともいえない」が 26.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 25.5%、「そう思う」が 15.1%の順となっている。「思う」が 40.6%、一方「思わない」が 23.2%となっており、「思う」が 17.4 ポイント（40.6%－23.2%）上回っている。
- (F) 自宅での療養生活についての情報不足については、「どちらともいえない」が 35.0%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 24.5%、「そう思う」が 11.8%の順となっている。「思う」が 36.3%、一方「思わない」が 18.0%となっており、「思う」が 18.3 ポイント（36.3%－18.0%）上回っている。
- (G) がんの病態や統計データ等の情報不足については、「どちらともいえない」が 36.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 19.8%、「あまりそう思わない」が 13.5%の順となっている。「思う」が 28.8%、一方「思わない」が 23.0%となっており、「思う」が 5.8 ポイント（28.8%－23.0%）上回っている。
- (H) がん治療のための口腔ケアについての情報不足は、「どちらともいえない」が 33.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 21.4%、「そう思う」が 13.7%の順となっている。「思う」が 35.1%、一方「思わない」が 21.3%となっており、「思う」が 13.8 ポイント（35.1%－21.3%）上回っている。

■がんに関する情報の充実度（単数回答/全体）

n = 788



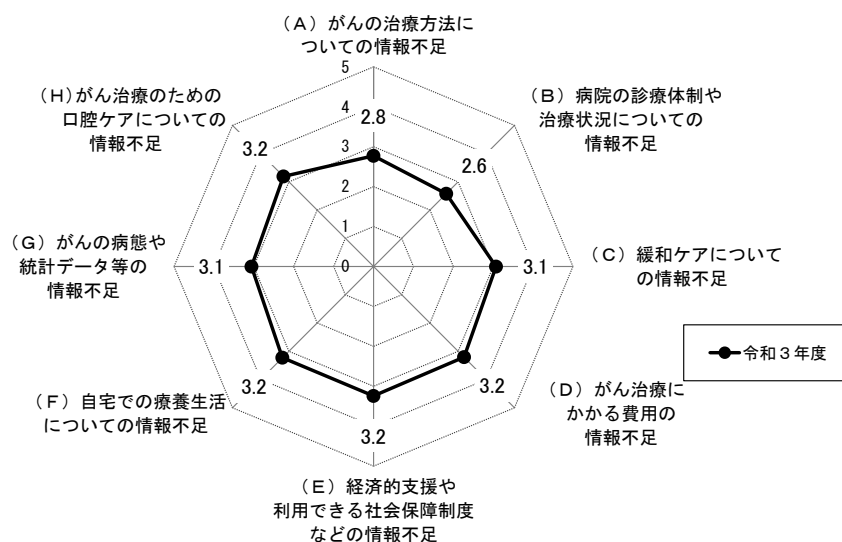
	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) がんの治療方法についての情報が不十分である	788 100.0	52 6.6	164 20.8	216 27.4	146 18.5	146 18.5	64 8.1
(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	788 100.0	37 4.7	129 16.4	198 25.1	185 23.5	158 20.1	81 10.3
(C) 緩和ケアについての情報が不十分である	788 100.0	94 11.9	152 19.3	260 33.0	108 13.7	90 11.4	84 10.7
(D) がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	788 100.0	111 14.1	208 26.4	197 25.0	108 13.7	87 11.0	77 9.8
(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	788 100.0	119 15.1	201 25.5	206 26.1	98 12.4	85 10.8	79 10.0
(F) 自宅での療養生活についての情報が不十分である	788 100.0	93 11.8	193 24.5	276 35.0	70 8.9	72 9.1	84 10.7
(G) がんの病態やデータ等の情報が不十分である	788 100.0	71 9.0	156 19.8	291 36.9	106 13.5	75 9.5	89 11.3
(H) がん治療のための口腔ケアについての情報が不十分である	788 100.0	108 13.7	169 21.4	261 33.1	87 11.0	81 10.3	82 10.4

情報不足について尋ねた7つの項目についてみると、『(D) がん治療にかかる費用についての情報が不十分である』『(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足』『(F) 自宅での療養生活についての情報が不十分である』『(H) がん治療のための口腔ケアについての情報不足』が3.2となっており、「そう思う」程度が最も高くなっている。

一方、『(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足』が2.6となっており、「そう思わない」程度が最も高くなっている。

『平成29年度』『平成25年度』『平成27年度』と比較すると、調査年度毎に「そう思う」程度が低くなっている。

■がんに関する情報の充実度比較（項目別）



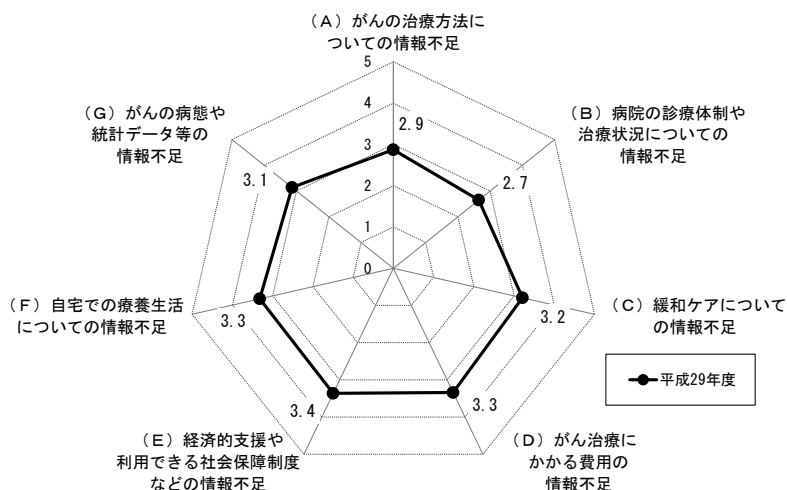
点数配点表

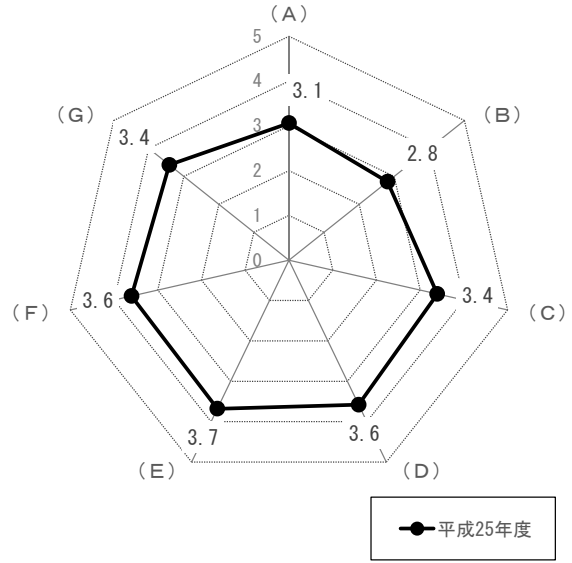
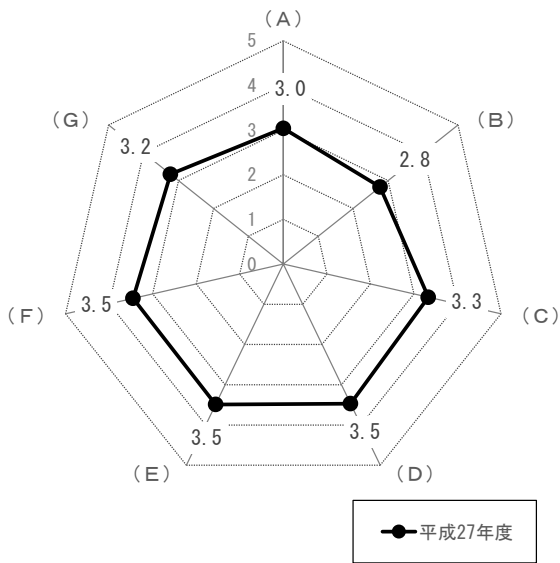
5：そう思う	4：ややそう思う	3：どちらともいえない
2：あまりそう思わない	1：そう思わない	

$$\text{がんに関する情報の必要度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「特に知りたくない」を除いた有効回答数}}$$

(注1) 令和3年度は、「(H) がん治療のための口腔ケアについての情報が不十分である」の設問が追加された。

(注2) 「特に知りたくない」は『平成25年度』の選択肢となっている。



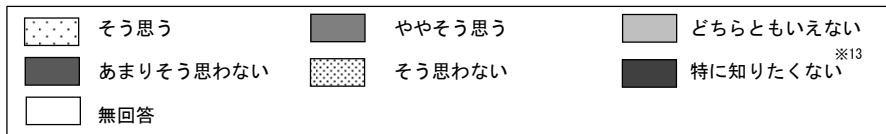
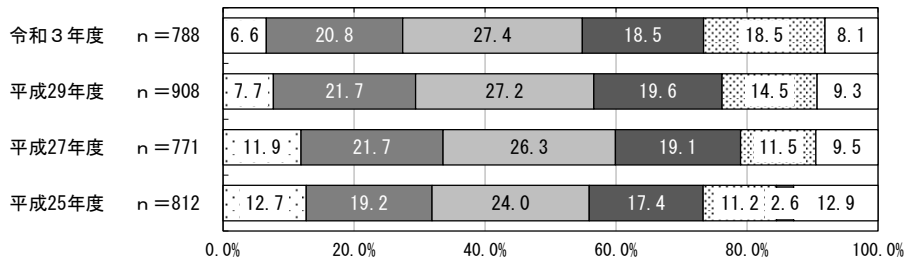


(A) がんの治療方法についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』から『平成27年度』にかけて“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合は増加しているが、『平成27年度』から『令和3年度』にかけては減少している。

『令和3年度』では『平成29年度』と比べ“思う”が2.0ポイント（27.4－29.4%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2.9ポイント（37.0－34.1%）上回っている。

■がんの治療方法についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和3年度	788	52	164	216	146	146	※13	64
	100.0	6.6	20.8	27.4	18.5	18.5		8.1
平成29年度	908	70	197	247	178	132		84
	100.0	7.7	21.7	27.2	19.6	14.5		9.3
平成27年度	771	92	167	203	147	89		73
	100.0	11.9	21.7	26.3	19.1	11.5		9.5
平成25年度	812	103	156	195	141	91	21	105
	100.0	12.7	19.2	24.0	17.4	11.2	2.6	12.9

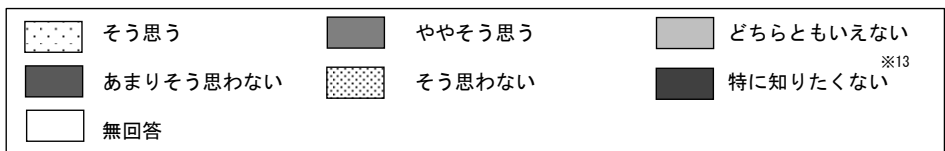
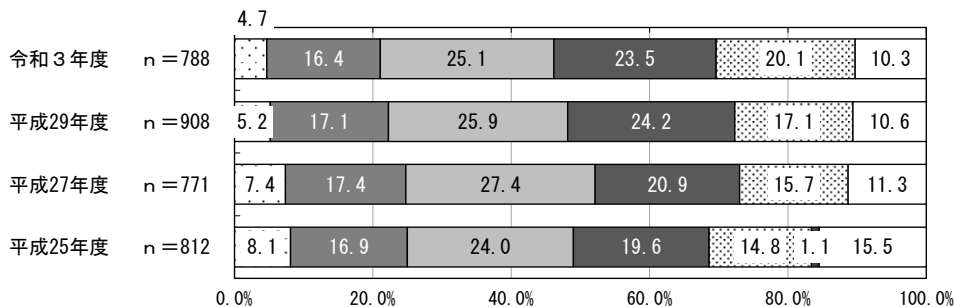
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 25.0%であったものが調査年度毎に減少し、『令和 3 年度』では 21.1%となっている。

『令和 3 年度』では『平成 29 年度』と比べ“思う”が 1.2 ポイント（21.1－22.3%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 2.3 ポイント（43.6－41.3%）上回っている。

■病院の診療体制や治療状況についての情報不足（単数回答/年度間比較）



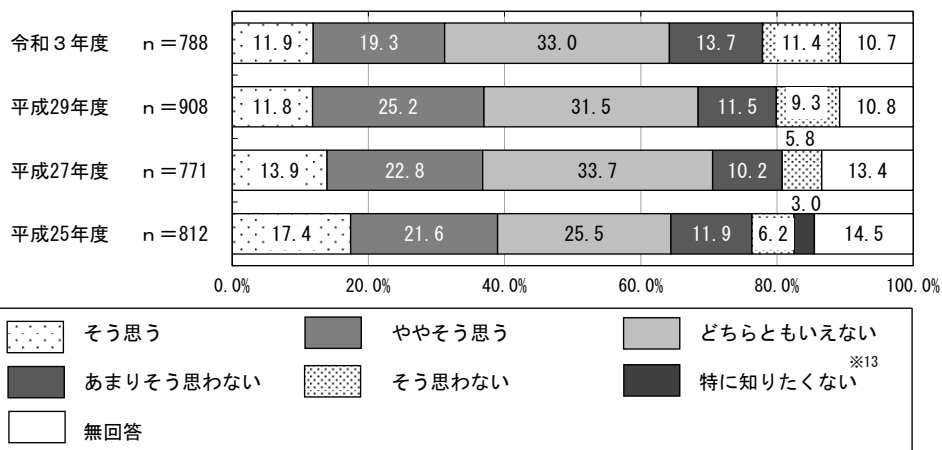
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和 3 年度	788	37	129	198	185	158	-	81
平成 29 年度	908	47	155	235	220	155	-	96
平成 27 年度	771	57	134	211	161	121	-	87
平成 25 年度	812	66	137	195	159	120	9	126

※13 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度だけ調査

(C) 緩和ケアについての情報不足

年度間比較をしてみると、『令和3年度』では『平成25年度』と比べ“思う”（「思う」＋「やや思う」）が7.8ポイント（31.2－39.0%）下回り、“思わない”（「あまり思わない」＋「そう思わない」）も7.0ポイント（25.1－18.1%）上回っている。

■緩和ケアについての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和3年度	788	94	152	260	108	90	-	84
平成29年度	908	107	229	286	104	84	-	98
平成27年度	771	107	176	260	79	45	-	103
平成25年度	812	141	175	207	97	50	24	118

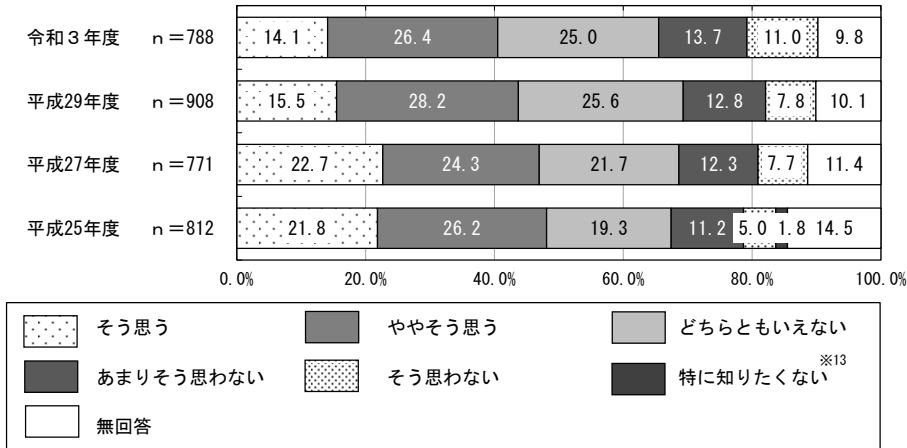
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(D) がん治療にかかる費用についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が48.0%であったものが調査年度毎に減少し、『令和3年度』では40.5%となっている。

『令和3年度』では『平成29年度』と比べ“思う”が3.2ポイント（40.5%－43.7%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が4.1ポイント（24.7%－20.6%）上回っている。

■がん治療にかかる費用についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和3年度	788	111	208	197	108	87	-	77
平成29年度	908	141	256	232	116	71	-	92
平成27年度	771	175	187	167	95	59	-	88
平成25年度	812	177	213	157	91	41	15	118

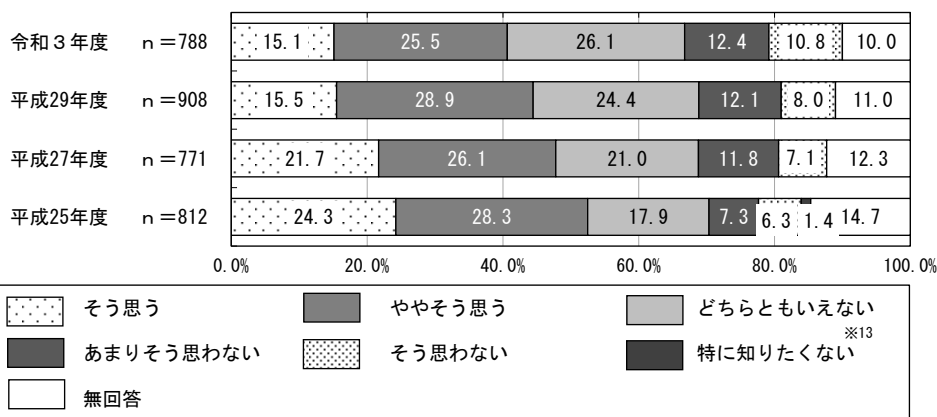
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 52.6%であったものが調査年度毎に減少し、『令和 3 年度』では 40.6%となっている。

『令和 3 年度』では『平成 29 年度』と比べ“思う”が 3.8 ポイント（40.6%－44.4%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 3.1 ポイント（23.2%－20.1%）上回っている。

■経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和3年度	788	119	201	206	98	85	-	79
平成29年度	908	141	262	222	110	73	-	100
平成27年度	771	167	201	162	91	55	-	95
平成25年度	812	197	230	145	59	51	11	119

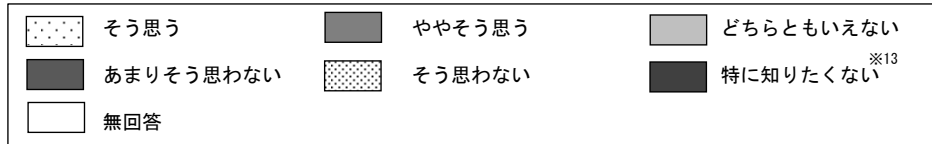
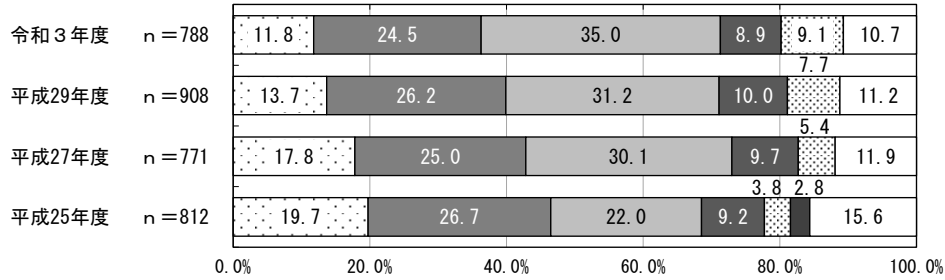
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度だけ調査

(F) 自宅での療養生活についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「思う」+「やや思う」）が46.4%であったものが調査年度毎に減少し、『令和3年度』では31.2%となっている。

『令和3年度』では『平成29年度』と比べ“思う”が8.7ポイント（31.2%－39.9%）下回り、一方“思わない”（「あまり思わない」+「思わない」）が7.4ポイント（25.1%－17.7%）上回っている。

■ 自宅での療養生活についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思う	特に知りたくない	無回答
令和3年度	788	93	193	276	70	72	-	84
平成29年度	908	124	238	283	91	70	-	102
平成27年度	771	137	193	232	75	42	-	92
平成25年度	812	160	217	179	75	31	23	127

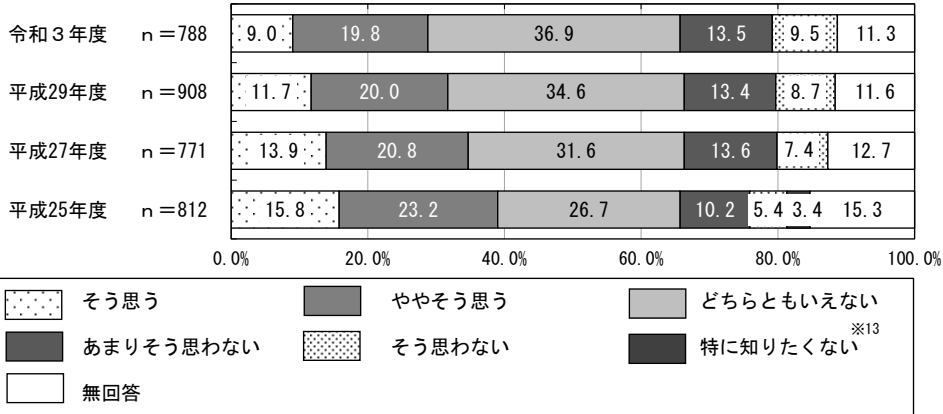
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(G) がんの病態や統計データ等の情報不足

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」+「やや思う」）が 39.0%であったものが調査年度毎に減少し、『令和 3 年度』では 28.8%となっている。

『令和 3 年度』では『平成 29 年度』と比べ“思う”が 2.9 ポイント（28.8%－31.7%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」+「そう思わない」）が 0.9 ポイント（23.0%－22.1%）上回っている。

■がんの病態や統計データ等の情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和 3 年度	788	71	156	291	106	75	-	89
平成 29 年度	908	106	182	314	122	79	-	105
平成 27 年度	771	107	160	244	105	57	-	98
平成 25 年度	812	128	188	217	83	44	28	124

※13 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度だけ調査

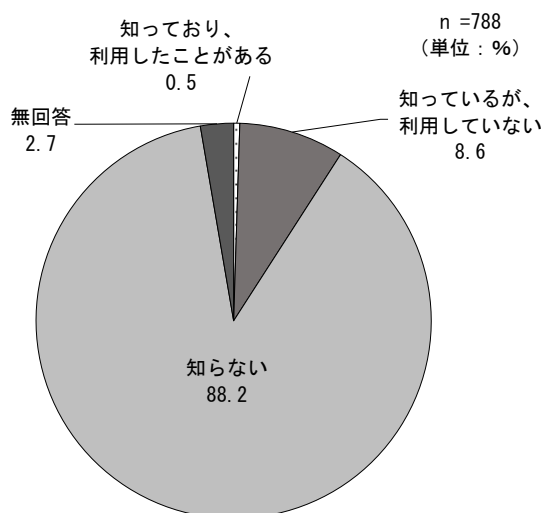
問 33 がんネットならの利用度

問 33 奈良県が、県内のがん情報を総合的に発信している「がんネットなら」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がんネットなら：インターネットを利用して、奈良県にお住まいのがん患者さんやご家族の皆さんが療養生活を送る際に役立つ情報や、県内で開催されるがんに関するイベント・研修情報など幅広く発信している。

がんネットならの利用度については、「知らない」が88.2%と最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が8.6%、「知っており、利用したことがある」が0.5%の順となっている。

■がんネットならの利用度（単数回答/全体）



	n 数	知 つ て お り 、 利 用 し た こ と が あ る	い 知 つ て い る が 、 利 用 し て い な い	知 ら な い	無 回 答
全 体	788 100.0	4 0.5	68 8.6	695 88.2	21 2.7

問 34 がん相談支援センターの利用の有無

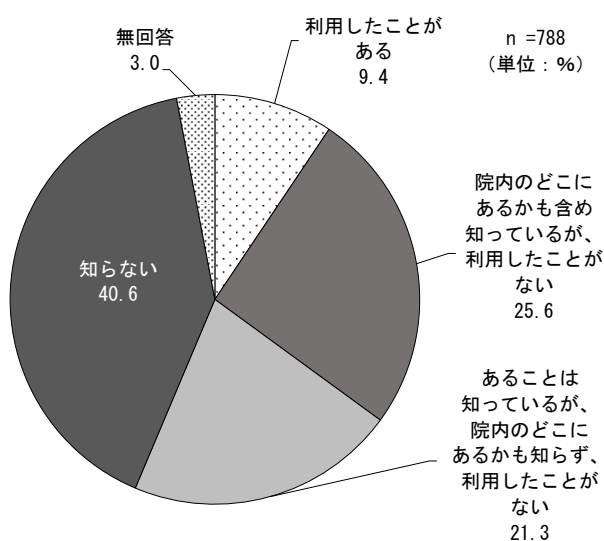
問 34 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「がん相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センター：がん診療連携拠点病院等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「がん相談支援センター」が設置されており、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供を受けられる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターに設置している。

がん相談支援センターの利用の有無については、「知らない」が 40.6%と最も高く、次いで「院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない」が 25.6%、「あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない」が 21.3%の順となっている。

一方「利用したことがある」は 9.4%にとどまっている。

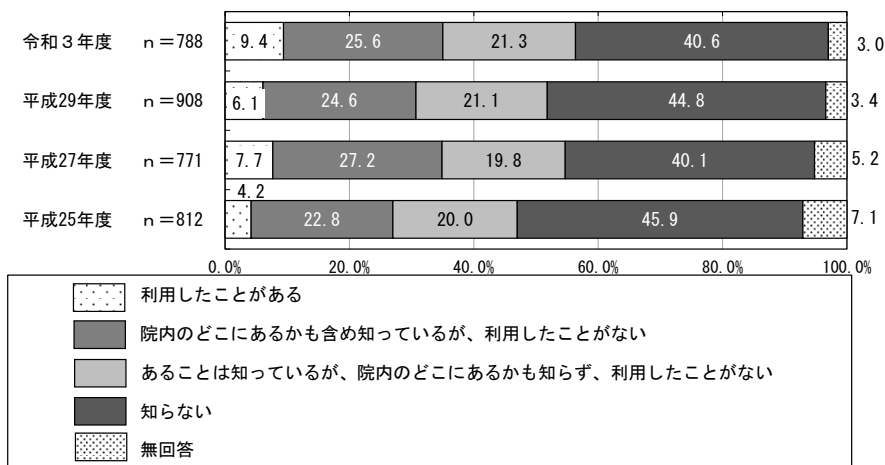
■がん相談支援センターの利用の有無（単数回答/全体）



	n	利用したことがある	院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない	あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない	知らない	無回答
全体	788	74	202	168	320	24
	100.0	9.4	25.6	21.3	40.6	3.0

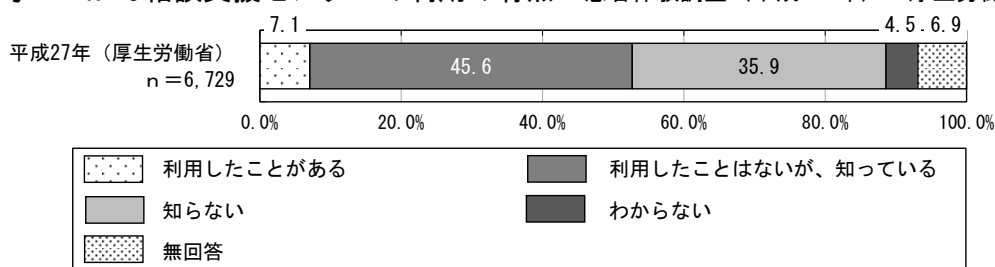
年度間比較をしてみると、『平成29年度』では「利用したことがある」が6.1%であったのに対し、『令和3年度』では9.4%と高くなっている。

■がん相談支援センターの利用の有無（単数回答/年度間比較）



	n	利用したことがある	院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない	あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない	知らない	無回答
令和3年度	788	74	202	168	320	24
平成29年度	908	55	223	192	407	31
平成27年度	771	59	210	153	309	40
平成25年度	812	34	185	162	373	58

一参考ー がん相談支援センターの利用の有無 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省



	n	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない	わからない	無回答
平成27年※4 (厚生労働省)	6,729	480	3,067	2,414	306	462

※4 患者体験調査（平成27年）
厚生労働省

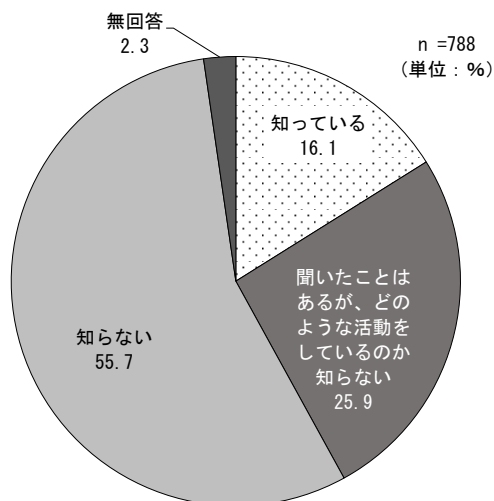
(注)厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

問 35 患者サロンの認知度

問 35 「患者サロン」（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを知っていますか。【○はひとつだけ】

患者サロンの認知度については、「知らない」が 55.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない」が 25.9%、「知っている」が 16.1%の順となっている。

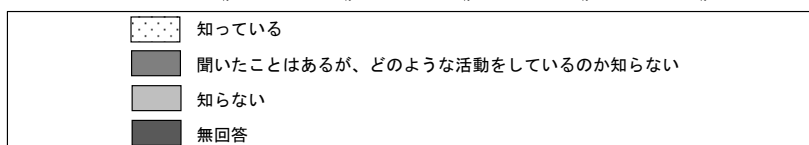
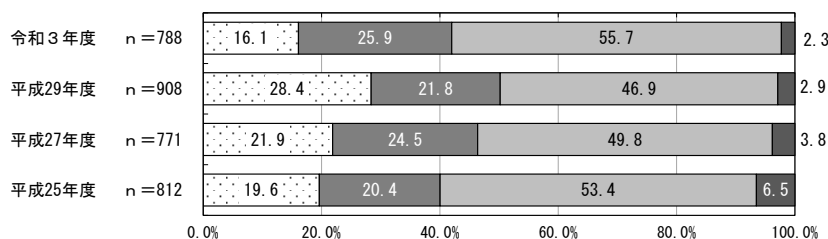
■患者サロンの認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
全体	788	127	204	439	18
	100.0	16.1	25.9	55.7	2.3

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「知っている」が 19.6%であったものが、『令和 3 年度』では同 16.1%となっており、3.5 ポイント (16.1% - 19.6%) 下回っている。

■患者サロンの認知度（単数回答/年度間比較）



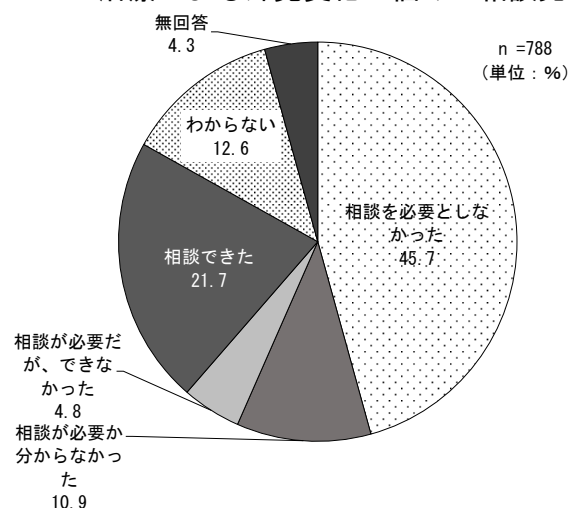
	n	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
令和3年度	788	127	204	439	18
	100.0	16.1	25.9	55.7	2.3
平成29年度	908	258	198	426	26
	100.0	28.4	21.8	46.9	2.9
平成27年度	771	169	189	384	29
	100.0	21.9	24.5	49.8	3.8
平成25年度	812	159	166	434	53
	100.0	19.6	20.4	53.4	6.5

問 36 がん治療による外見変化の悩みの相談先

問 36 がんの治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）に関する悩みを誰かに相談できましたか。【〇はひとつだけ】

がん治療による外見変化の悩みの相談先については、「相談を必要としなかった」が45.7%と最も高く、次いで「相談できた」が21.7%、「わからない」が12.6%の順となっている。

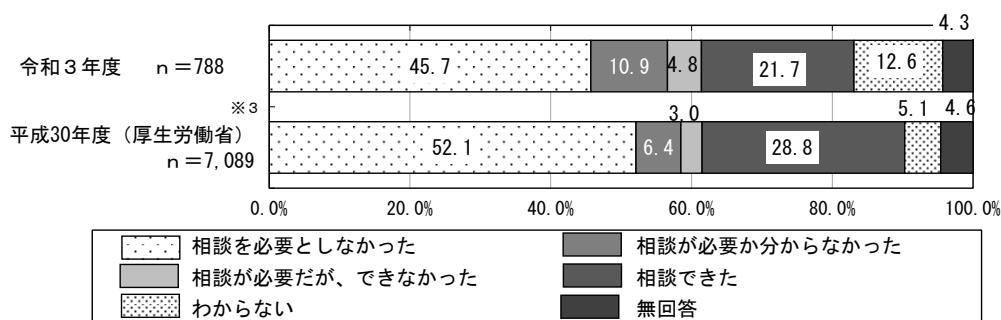
■がん治療による外見変化の悩みの相談先（単数回答/全体）



	n 数	相談を必要としなかった	相談が必要だったが、できなかった	相談が必要か分からなかった	相談できた	わからない	無回答
全体	788	360	86	38	171	99	34
	100.0	45.7	10.9	4.8	21.7	12.6	4.3

厚生労働省の調査と比較すると、『平成30年（厚生労働省）』では「相談できた」が28.8%であるのに対し、『令和3年度』では21.7%と7.1ポイント（21.7%－28.8%）下回っている。

■がん治療による外見変化の悩みの相談先（単数回答/厚生労働省調査との比較）



	n 数	相談を必要としなかった	相談が必要だったが、できなかった	相談が必要か分からなかった	相談できた	わからない	無回答
令和3年度	788	360	86	38	171	99	34
平成30年度※3 (厚生労働省)	7,080	3,691	453	213	2,038	359	326
	100.0	52.1	6.4	3.0	28.8	5.0	4.6

※3 患者体験調査（平成30年度） 厚生労働省

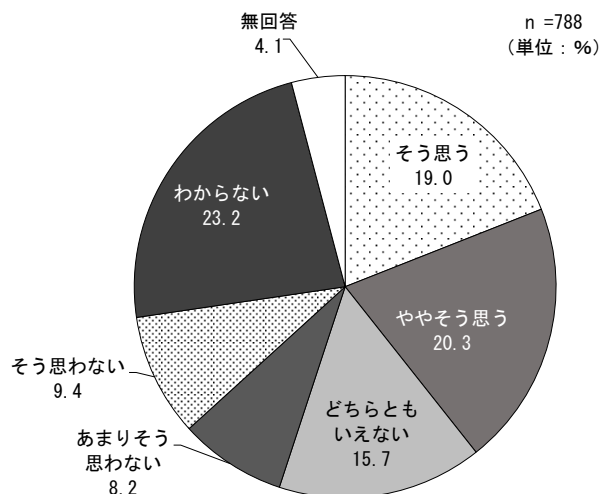
問 37 支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感

問 37 がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの相談支援によって現在は軽減されたと思いますか。【〇はひとつだけ】

支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感については、「わからない」が 23.2%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 20.3%、「そう思う」が 19.0%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 39.3%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 17.6%となっており、“思う”が 21.7ポイント（39.3%－17.6%）上回っている。

■支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感（単数回答/全体）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	788	150	160	124	65	74	183	32
	100.0	19.0	20.3	15.7	8.2	9.4	23.2	4.1

2-5. 治療と就労について

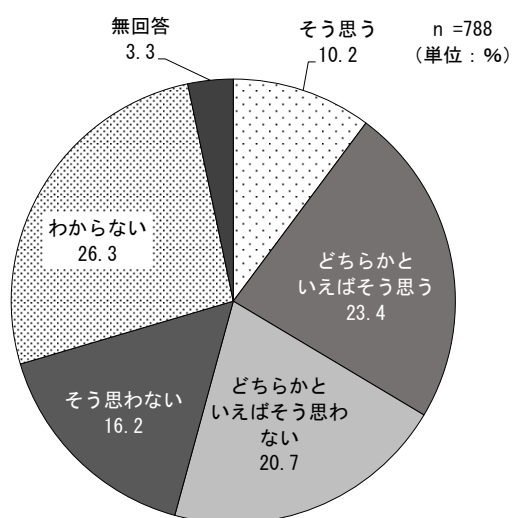
問 38 がん治療と継続就労についての認識

問 38 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。
【〇はひとつだけ】

がん治療を受けながら働きつづけられる環境だと思うかについては、「わからない」が26.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が23.4%、「どちらかといえばそう思わない」が20.7%の順となっている。

“思わない”（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が36.9%、一方“思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が33.6%となっており、“思わない”が3.3ポイント（36.9%－33.6%）上回っている。

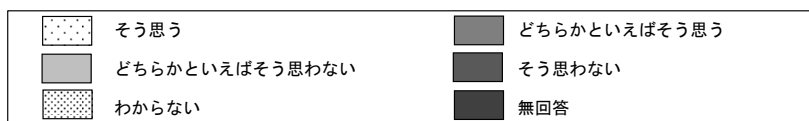
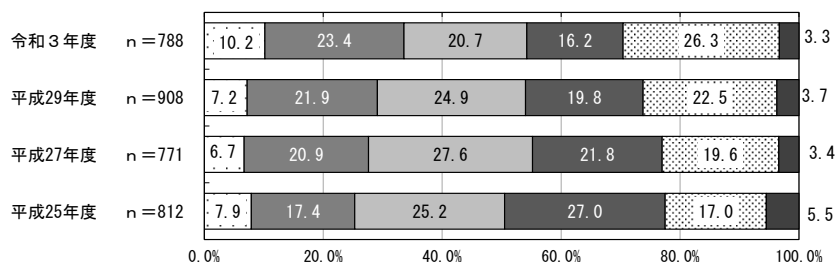
■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/全体）



	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	わ か ら な い	無 回 答
全 体	788	80	184	163	128	207	26
	100.0	10.2	23.4	20.7	16.2	26.3	3.3

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が25.3%であったものが、『令和3年度』では同33.6%となっており、8.3ポイント（33.6%－25.3%）上回っている。

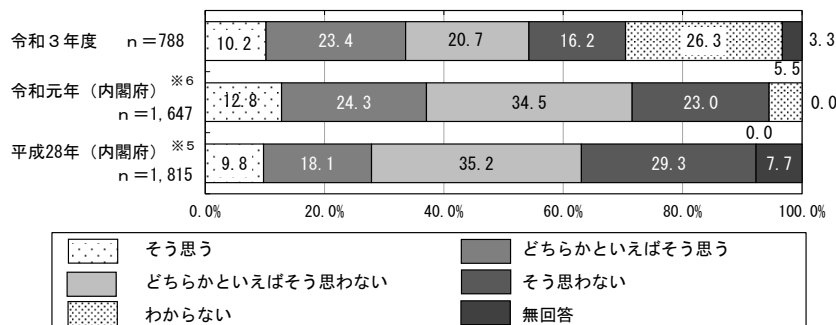
■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/年度間比較）



	n	そう 思う	う どちら かとい えは そう 思	ど ち ら か と い え は そ う 思 わ な い	ど ち ら か と い え は そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
令和3年度	788	80	184	163	128	207	26	
	100.0	10.2	23.4	20.7	16.2	26.3	3.3	
平成29年度	908	65	199	226	180	204	34	
	100.0	7.2	21.9	24.9	19.8	22.5	3.7	
平成27年度	771	52	161	213	168	151	26	
	100.0	6.7	20.9	27.6	21.8	19.6	3.4	
平成25年度	812	64	141	205	219	135	45	
	100.0	7.9	17.4	25.2	27.0	17.0	5.5	

国の調査（内閣府※⁵）と比較すると、『令和元年（内閣府）』では“思う”が37.1%であるのに対し、『令和3年度』では同33.6%と3.5ポイント（33.6%－37.1%）下回っている。

■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/国の調査との比較）



	n	思う	どちらか といえば そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
令和3年度	788	80	184	163	128	207	26
令和元年※6 (内閣府)	1,647	-	-	-	-	-	-
平成28年※5 (内閣府)	1,815	-	-	-	-	-	-
	100.0	10.2	23.4	20.7	16.2	26.3	3.3
	100.0	12.8	24.3	34.5	23.0	5.5	0.0
	100.0	9.8	18.1	35.2	29.3	-	7.7

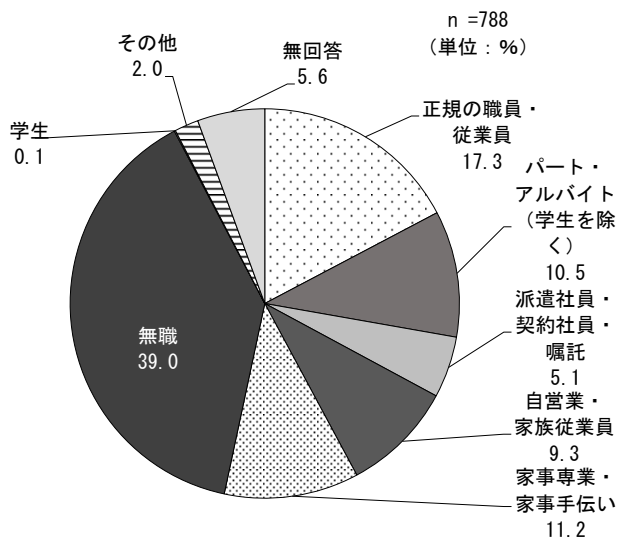
※6 がん対策に関する世論調査（令和元年7月）
内閣府
※5 がん対策に関する世論調査（平成28年11月）
内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は
本報告書では無回答としている

問 39 がん診断時の就労状況

問 39 がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断された時の就労状況については、「無職」が 39.0%と最も高く、次いで「正規の職員・従業員」が 17.3%、「家事専業・家事手伝い」が 11.2%の順となっている。

■がん診断時の就労状況（単数回答/全体）



	n	正規の職員・従業員	パート・アルバイト (学生を除く)	派遣社員・契約社員・嘱託	自営業・家族従業員	家事専業・家事手伝い	無職	学生	その他	無回答
全体	788	136	83	40	73	88	307	1	16	44
	100.0	17.3	10.5	5.1	9.3	11.2	39.0	0.1	2.0	5.6

【その他】

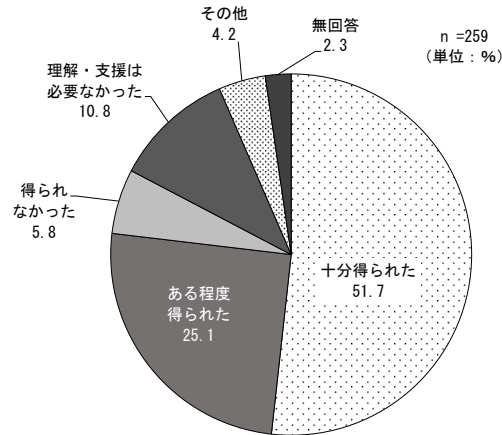
- ・自由業
- ・マネジメントのコンサルタント
- ・主婦
- ・定年退職後のガンと診断

問 40 仕事の継続に関する事業主の理解・支援

問 40 問 39 で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
 がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。【○はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）であった方の仕事の継続に関する事業主の理解・支援については、「十分得られた」が 51.7%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が 25.1%、「理解・支援は必要なかった」が 10.8%の順となっている。

■仕事の継続に関する事業主の理解・支援（単数回答/全体）



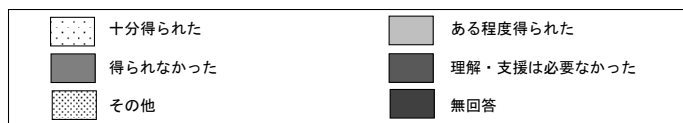
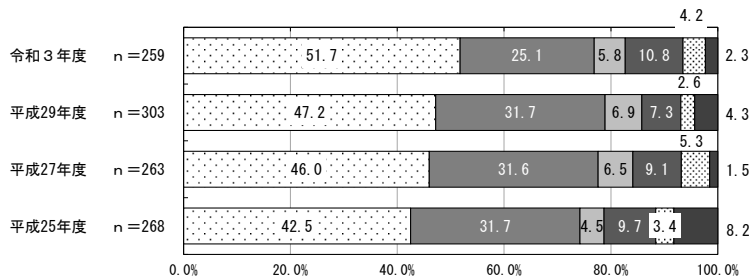
	n	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
全体	259	134	65	15	28	11	6
	100.0	51.7	25.1	5.8	10.8	4.2	2.3

【その他】

- ・退職した。（4件）
- ・わからない。
- ・まだその段階でない。

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「十分得られた」が 42.5%であったものが、『令和 3 年度』では同 51.7%となっており、9.2 ポイント（51.7%－42.5%）上回っている。

■仕事の継続に関する事業主の理解・支援（単数回答/年度間比較）



	n	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
令和3年度	259	134	65	15	28	11	6
	100.0	51.7	25.1	5.8	10.8	4.2	2.3
平成29年度	303	143	96	21	22	8	13
	100.0	47.2	31.7	6.9	7.3	2.6	4.3
平成27年度	263	121	83	17	24	14	4
	100.0	46.0	31.6	6.5	9.1	5.3	1.5
平成25年度	268	114	85	12	26	9	22
	100.0	42.5	31.7	4.5	9.7	3.4	8.2

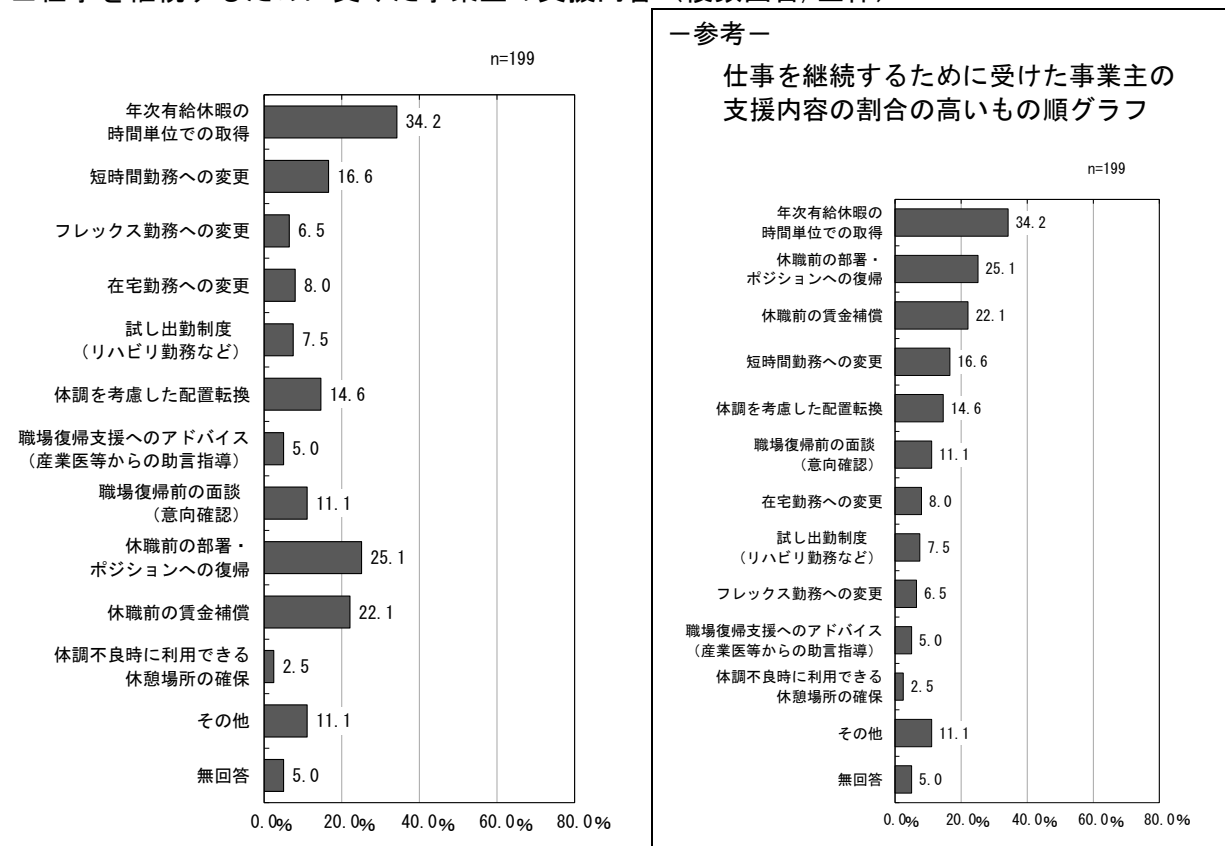
問 41 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容

問 41 問 40 で 1, 2 と回答された方にお伺いします。

仕事の継続に対して、事業主からどのような支援を受けましたか。【〇はいくつでも】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）で事業主の理解・支援のあった方の仕事を継続するために受けた事業主の支援内容については、「年次有給休暇の時間単位での取得」が 34.2%と最も高く、次いで「休職前の部署・ポジションへの復帰」が 25.1%、「休業前の賃金補償」が 22.1%の順となっている。

■仕事を継続するために受けた事業主の支援内容（複数回答/全体）



	n	年次有給休暇の取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	動き出勤制度（リハビリ）	体調を考慮した配置転換	職場復帰支援へのアドバイス（産業医等からの助言指導）	職場復帰前の面談（意向確認）	休職前の部署・ポジション	休業前の賃金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	その他	無回答
全体	199	68	33	13	16	15	29	10	22	50	44	5	22	10
	100.0	34.2	16.6	6.5	8.0	7.5	14.6	5.0	11.1	25.1	22.1	2.5	11.1	5.0

【その他】

- ・特別休暇の取得（2件）
- ・退職した。（3件）
- ・もともと制度はすでにあった。
- ・薬局だったので重い荷物に対する配慮等有り、他の同僚達の気配り。
- ・正社員の雇用の提案（治療優先できる環境の提供）
- ・長期休職、傷病手当てなど

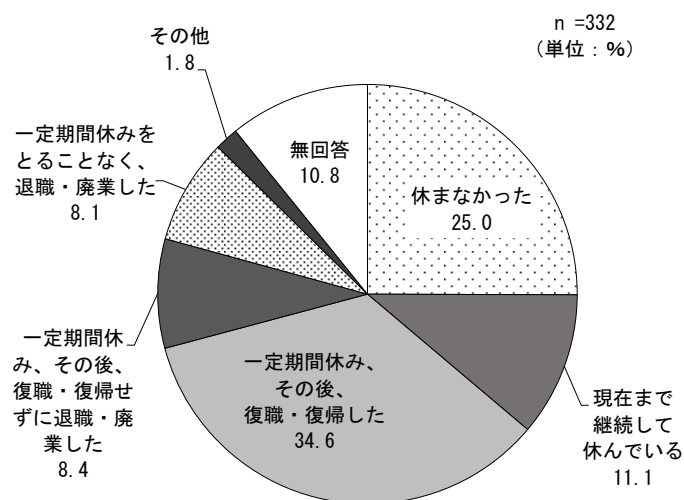
問 42 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況

問 42 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

がんで初めて治療・療養した時、一定期間（連続して3か月以上）仕事を休みましたか。また、その後復職・復帰しましたか。【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方の治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況については、「一定期間休み、その後、復職・復帰した」が34.6%と最も高く、次いで「休まなかった」が25.0%、「現在まで継続して休んでいる」が11.1%の順となっている。

■治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況（単数回答/全体）



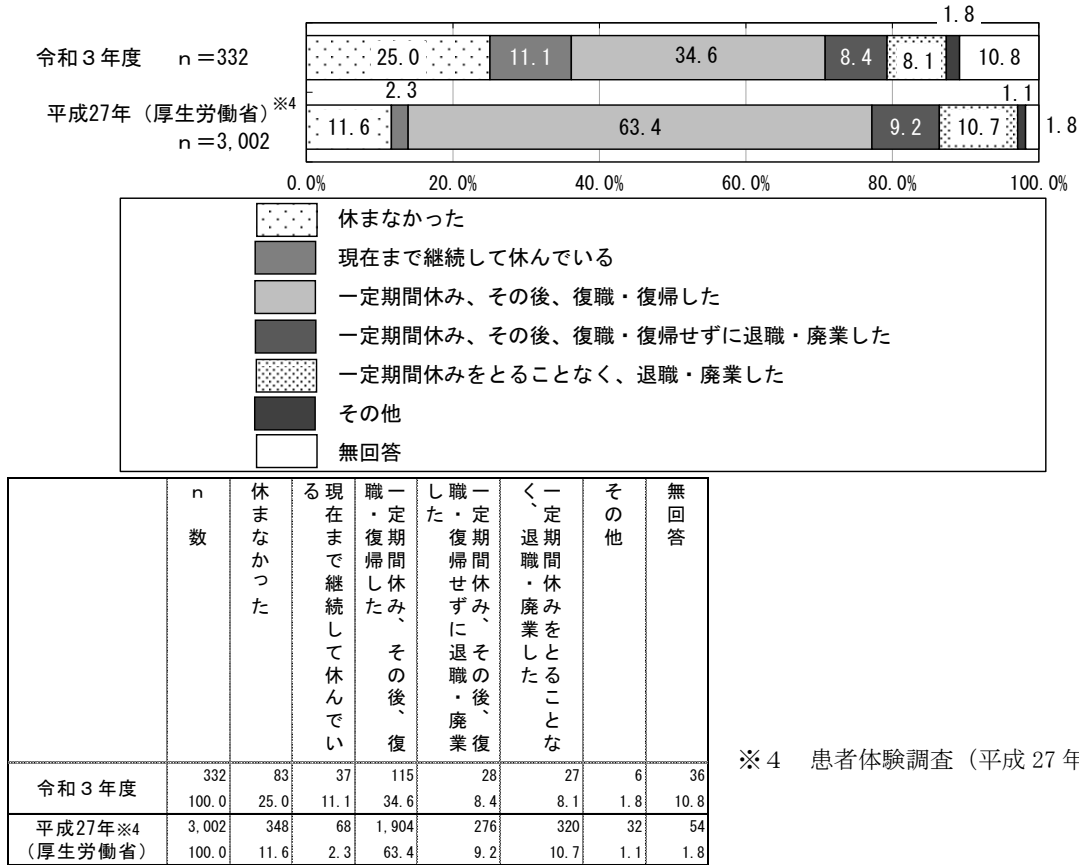
	n	休まなかった	現在まで継続して休んでいる	一定期間休み、その後、復職・復帰した	復職・復帰せず退職・廃業した	一定期間休み、その後、復職・復帰せず退職・廃業した	その他	無回答
全体	332	83	37	115	28	27	6	36
	100.0	25.0	11.1	34.6	8.4	8.1	1.8	10.8

【その他】

- ・まだその段階でなく、どうなるか、今は働ける状態でない。
- ・事業主と色々考えている。
- ・息子に70才の時に渡す。

国の調査（厚生労働省※3）と比較をしてみると、『平成27年（厚生労働省）』で「一定期間休み、その後、復職・復帰した」で63.4%であるのに対し、『令和3年度』では同34.6%と約3割となっている。

■治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況
（単数回答/国の調査との比較）



※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省

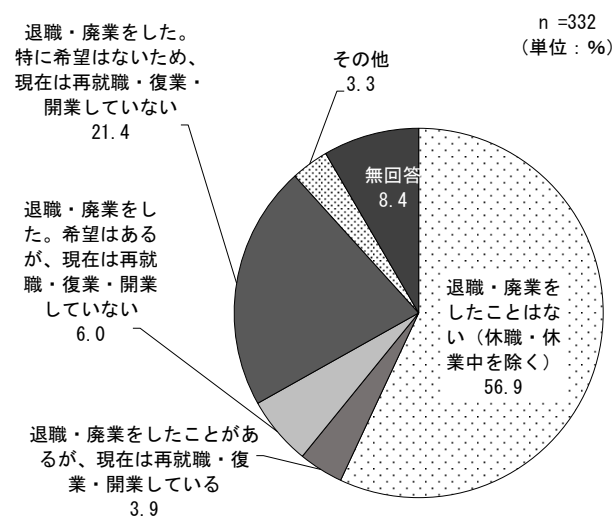
問 43 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況

問 43 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

がん治療・療養のための退職・廃業の有無と、現在の仕事の状況について、教えてください。
【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方ががん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況については、「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」が 56.9%と最も高く、次いで「退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない」が 21.4%、「退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない」が 6.0%の順となっている。

■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況（単数回答/全体）



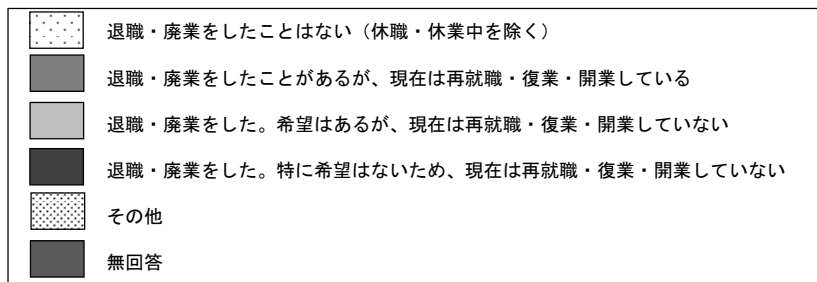
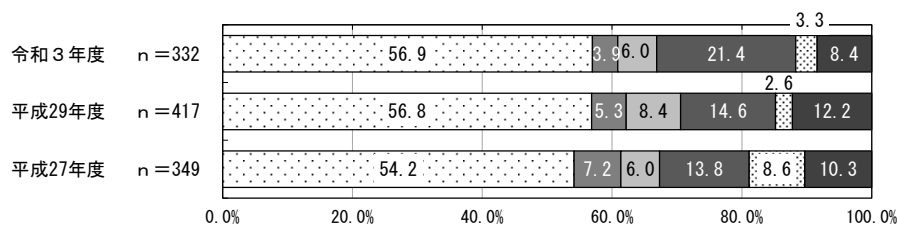
	n	く ない （休 職・ 廃 業 を し た こ と を 除 く）	復 業 が 、 開 業 し て い る	あ る が 、 廃 業 を し て は し た こ と が	い 職 は あ る が 復 業 が 、 開 業 し て は し た こ と が	い 再 就 職 が 、 復 業 を し た こ と が	希 望 は あ る が 、 開 業 し て は し た こ と が	退 職 を し た こ と が	そ の 他	無 回 答				
全 体	332	189	13	20	71	11	28	100.0	56.9	3.9	6.0	21.4	3.3	8.4

【その他】

- ・休職中（2件）
- ・年金生活をしていた。（2件）
- ・自営で開業中。（2件）
- ・体調不良で復帰できていない。
- ・復帰を目指しております。
- ・主人の病気のため退職

年度間比較をしてみると、『平成29年度』で「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」が56.8%であったものが、『令和3年度』では同56.9%となっており、0.1ポイント高くなっている。

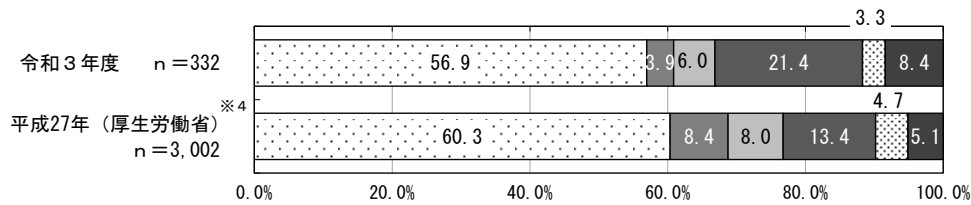
■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況（単数回答/年度間比較）



	n	く ない （休 職・ 廃 業 を し た こ と を 除 く）	あ る が、 開 業 し て い る 再 就 職 ・ 復 業 が 現 在 に あ る	い 職 は あ る が 復 業 ・ 開 業 し て い ない 再 就 職 ・ 復 業 が 現 在 に あ る	い 職 は あ る が 復 業 ・ 開 業 し て い ない 再 就 職 ・ 復 業 が 現 在 に あ る	い 職 は あ る が 復 業 ・ 開 業 し て い ない 再 就 職 ・ 復 業 が 現 在 に あ る	そ の 他	無 回 答
令和3年度	332	189	13	20	71	11	28	
平成29年度	417	237	22	35	61	11	51	
平成27年度	349	189	25	21	48	30	36	
	100.0	56.9	3.9	6.0	21.4	3.3	8.4	
	100.0	56.8	5.3	8.4	14.6	2.6	12.2	
	100.0	54.2	7.2	6.0	13.8	8.6	10.3	

国の調査（厚生労働省※³）と比較をしてみると、『平成27年（厚生労働省）』で「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」で60.3%であるのに対し、『令和3年度』では同56.9%と3.4ポイント（56.9%－60.3%）下回っている。

■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況
（単数回答/国の調査との比較）



	退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）
	退職・廃業をしたことがあるが、現在は再就職・復業・開業している
	退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない
	退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない
	その他
	無回答

	n	い退職（休職・廃業をしたことを除く）	業・開業している	るが、現在再就職・復業がある	退職・開業しているが、現在は再就職・復業はない	あるが、現在再就職・復業はない	退職・復業・開業した。現在は特に再就職希望はない	その他	無回答
令和3年度	332	189	13	20	71	11	28		
	100.0	56.9	3.9	6.0	21.4	3.3	8.4		
平成27年※4（厚生労働省）	3,002	1,810	253	240	403	142	154		
	100.0	60.3	8.4	8.0	13.4	4.7	5.1		

※4 患者体験調査（平成27年） 厚生労働省

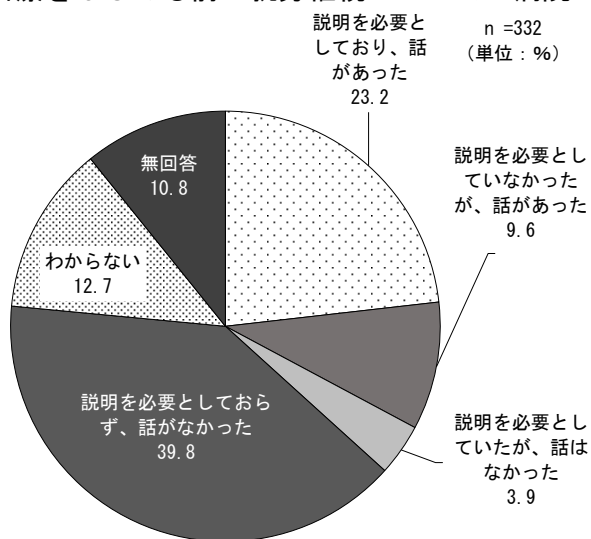
問 44 治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話

問 44 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

治療を始める前に就労の継続について病院の医療スタッフから話がありましたか。
【〇はひとつだけ】

治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話については、「説明を必要としておらず、話がなかった」が 39.8%と最も高く、次いで「説明を必要としており、話があった」が 23.2%、「わからない」が 12.7%の順となっている。

■治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話（単数回答/全体）



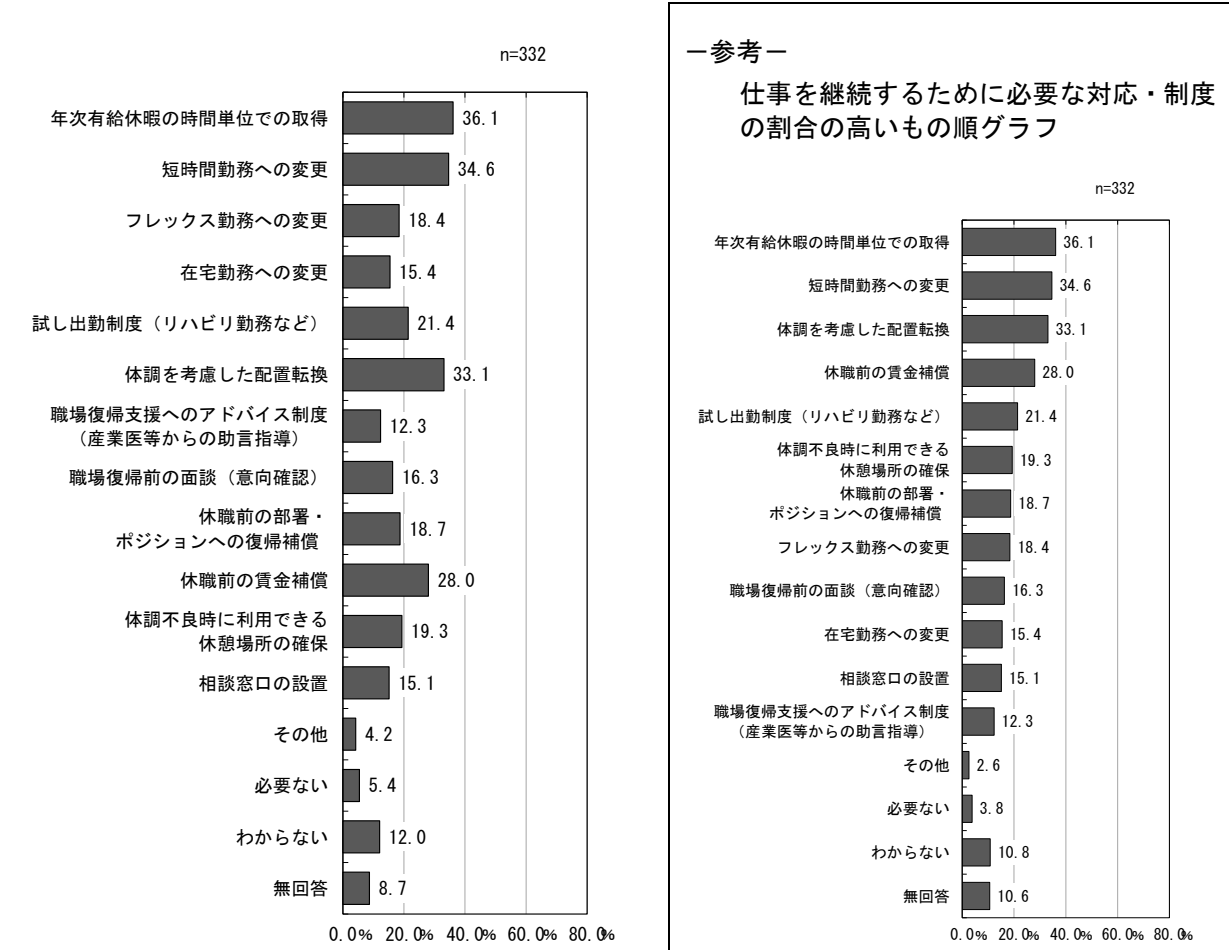
	n 数	説明を必要としており、話があった	説明を必要としていなかったが、話があった	説明を必要としていたが、話はなかった	説明を必要としておらず、話がなかった	わからない	無回答
全 体	332	77	32	13	132	42	36
	100.0	23.2	9.6	3.9	39.8	12.7	10.8

問 45 仕事を継続するために必要な対応・制度

問 45 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
 がんの治療と仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか。
 【〇はいくつでも】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方の仕事を継続するために必要な対応・制度については、「年次有給休暇の時間単位での取得」が 36.1%と最も高く、次いで「短時間勤務への変更」が 34.6%、「体調を考慮した配置転換」が 33.1%の順となっている。

■仕事を継続するために必要な対応・制度（複数回答/全体）



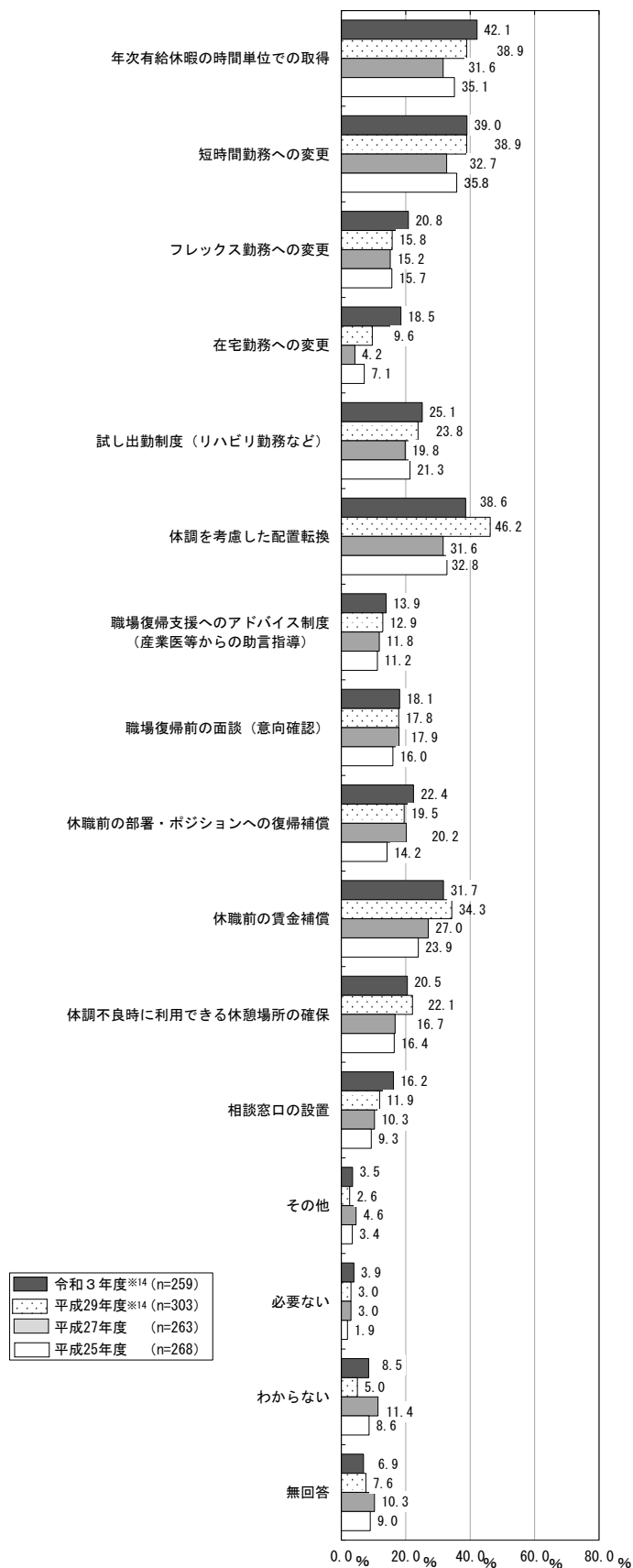
	n	年次有給休暇の時間単位での取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	試し出勤制度（リハビリ勤務など）	体調を考慮した配置転換	職場復帰支援へのアドバイス制度（産業医等からの助言指導）	職場復帰前の面談（意向確認）	退職前の部署・ポジションへの復帰補償	退職前の賞金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	相談窓口の設置	その他	必要ない	わからない	無回答
全体	332	120	115	61	51	71	110	41	54	62	93	64	50	14	18	40	29
	100.0%	36.1%	34.6%	18.4%	15.4%	21.4%	33.1%	12.3%	16.3%	18.7%	28.0%	19.3%	15.1%	4.2%	5.4%	12.0%	8.7%

【その他】

- ・自営業のため、わからない。（4件）
- ・事業継承者が居るので考えた事はない
- ・病気休暇制度の充実
- ・休暇日数や在宅勤務日数制限の緩和
- ・急な体調不良時の対応と通院日の確保

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』『平成 27 年度』は「短時間勤務への変更」、『平成 29 年度』は「体調を考慮した配置転換」が最も高くなっているが、『令和 3 年度』では「年次有給休暇の時間単位での取得」が最も高くなっている。

■仕事を継続するために必要な対応・制度（複数回答/年度間比較）



	n 数	年次有給休暇の時間単位の取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	試し出勤制度（リハビリ勤務など）	体調を考慮した配置転換	職場復帰支援へのアドバース制度（産業医等からの助言指導）	職場復帰前の面談（意向確認）	退職前の部署・ポジションへの復帰補償	退職前の賃金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	相談窓口の設置	その他	必要ない	わからない	無回答
令和3年度※14	259 100.0	109 42.1	101 39.0	54 20.8	48 18.5	65 25.1	100 38.6	36 13.9	47 18.1	58 22.4	82 31.7	53 20.5	42 16.2	9 3.5	10 3.9	22 8.5	18 6.9
平成29年度※14	303 100.0	118 38.9	118 38.9	48 15.8	29 9.6	72 23.8	140 46.2	39 12.9	54 17.8	59 19.5	104 34.3	67 22.1	36 11.9	8 2.6	9 3.0	15 5.0	23 7.6
平成27年度	263 100.0	83 31.6	86 32.7	40 15.2	11 4.2	52 19.8	83 31.6	31 11.8	47 17.9	53 20.2	71 27.0	44 16.7	27 10.3	12 4.6	8 3.0	30 11.4	27 10.3
平成25年度	268 100.0	94 35.1	96 35.8	42 15.7	19 7.1	57 21.3	88 32.8	30 11.2	43 16.0	38 14.2	64 23.9	44 16.4	25 9.3	9 3.4	5 1.9	23 8.6	24 9.0

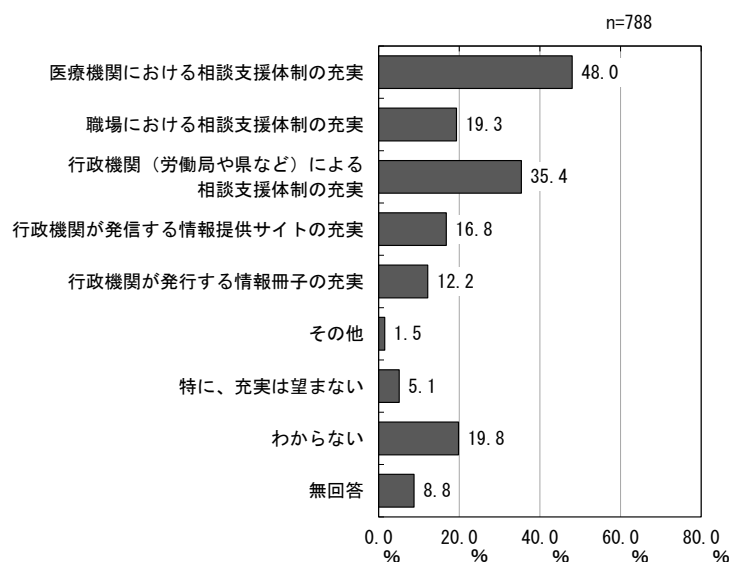
※14 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和3年度』の間39、『平成29年度』の間40で「正規の職員・従業員」又は「パート・アルバイト（学生を除く）」又は「派遣社員・契約社員・嘱託」を回答した人のデータを抽出し再集計している

問 46 就労等の情報提供・相談支援に望むこと

問 46 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

就労等の情報提供・相談支援に望むことについては、「医療機関における相談支援体制の充実」が 48.0%と最も高く、次いで「行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実」が 35.4%、「わからない」が 19.8%の順となっている。

■就労等の情報提供・相談支援に望むこと（複数回答/全体）



	n	医療機関の充実	職場における相談支援体制の充実	行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実	行政機関が発信する情報提供サイトの充実	冊子行政機関が発行する情報	その他	特に、充実は望まない	わからない	無回答
全体	788	378	152	279	132	96	12	40	156	69
	100.0	48.0	19.3	35.4	16.8	12.2	1.5	5.1	19.8	8.8

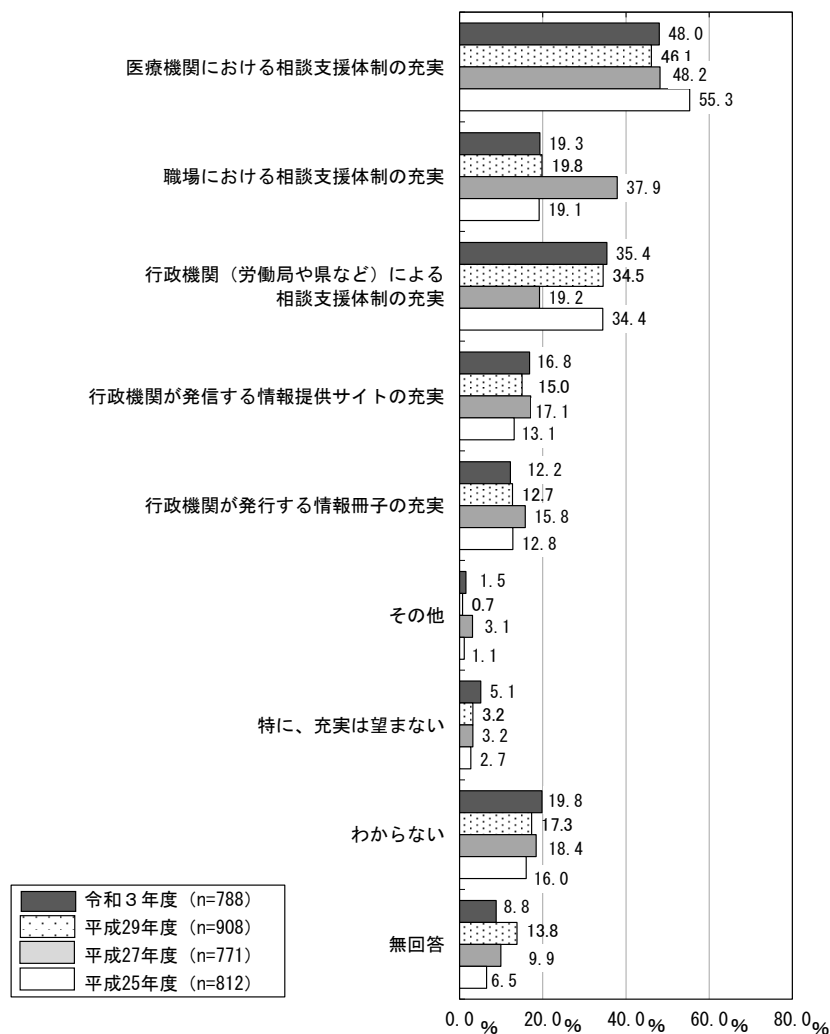
【その他】

- ・日常生活における注意事項の説明、充実
- ・就労困難となった場合等については任意生保での保障検討
- ・地域の民生員さんが実力をつけ支援相談等出来ればと思う。
- ・患者サロン、がんサバイバーのグループの情報、又はがんサバイバー支援団体の情報
- ・勤務先での病気へ理解

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も「医療機関における相談支援体制の充実」が最も高くなっている。

『平成25年度』で「医療機関における相談支援体制の充実」が55.3%であったものが、『令和3年度』では同48.0%となっている。

■就労等の情報提供・相談支援に望むこと（複数回答/年度間比較）



	n	医療機関における相談支援体制の充実	職場における相談支援体制の充実	行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実	行政機関が発信する情報提供サイトの充実	行政機関が発行する情報冊子の充実	その他	特に、充実は望まない	わからない	無回答
令和3年度	788	378	152	279	132	96	12	40	156	69
	100.0	48.0	19.3	35.4	16.8	12.2	1.5	5.1	19.8	8.8
平成29年度	908	419	180	313	136	115	6	29	157	125
	100.0	46.1	19.8	34.5	15.0	12.7	0.7	3.2	17.3	13.8
平成27年度	771	372	292	148	132	122	24	25	142	76
	100.0	48.2	37.9	19.2	17.1	15.8	3.1	3.2	18.4	9.9
平成25年度	812	449	155	279	106	104	9	22	130	53
	100.0	55.3	19.1	34.4	13.1	12.8	1.1	2.7	16.0	6.5

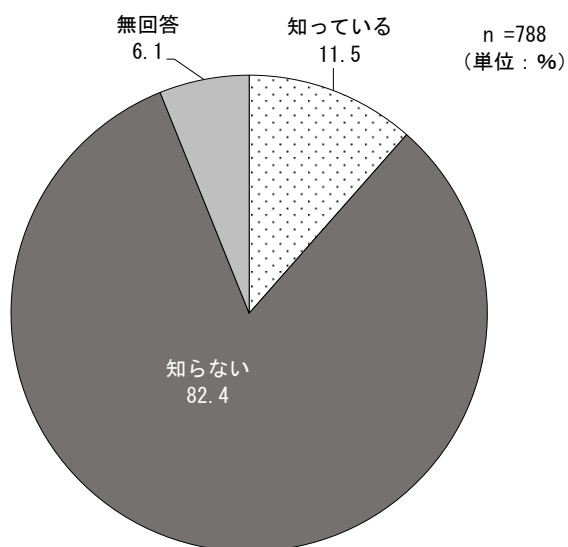
問 47 がん相談支援センターにおける就労相談の認知度

問 47 県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談（注参照）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センターにおける就労相談：がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの治療と就労の両立支援に向けた取組として、社会保険労務士による就労相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院に設置している。

がん相談支援センターにおける就労相談の認知度については、「知らない」が 82.4%、一方「知っている」が 11.5%となっており、「知らない」が約 8 割を占めている。

■がん相談支援センターにおける就労相談の認知度（単数回答/全体）



	n 数	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全 体	788 100.0	91 11.5	649 82.4	48 6.1

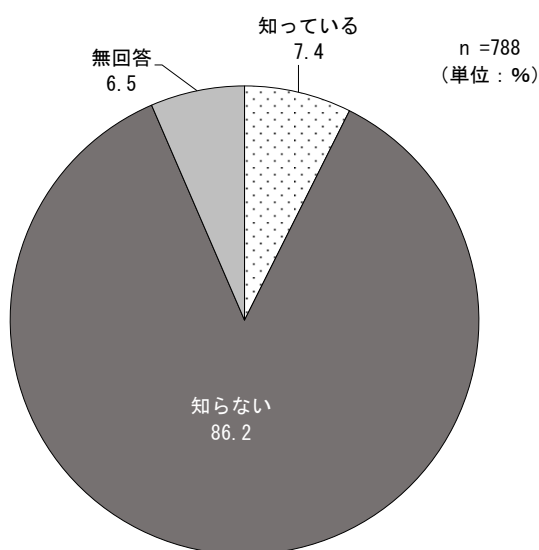
問 48 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度

問 48 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターのがん相談支援センターがハローワークと連携して実施している、がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談：奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターでは、ハローワークと連携し、ハローワークから就職支援ナビゲーターを定期的に病院へ派遣し、がん患者等の長期療養者（糖尿病や肝炎等）に対する就職相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。

奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度については、「知らない」が86.2%、一方「知っている」が7.4%となっており、「知らない」が約8割を占めている。

■奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度
（単数回答/全体）



	n 数	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全 体	788 100.0	58 7.4	679 86.2	51 6.5

2-6. がん登録について

問 49 がん登録の認知度

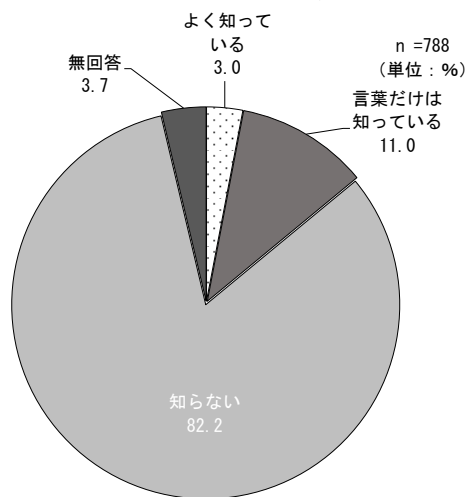
問 49 あなたは、「がん登録」（注参照）について知っていましたか。【〇はひとつだけ】

（注）がん登録：全国がん登録：今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、がん患者ひとりひとりの診断データや、その後の経過、生存状況について収集することを「がん登録」という。これまで、各都道府県単体で「地域がん登録」を実施していたが、すべてのがん患者が登録されていないなどの課題があったため、平成 28 年から全国すべての病院等からがん患者の情報を正確に登録する「全国がん登録」が始まった。

がん登録の認知度については、「知らない」が 82.2%と最も高く、次いで「言葉だけは知っている」が 11.0%、「よく知っている」が 3.0%の順となっている。

“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）が 14.0%となっており、約 1 割となっている。

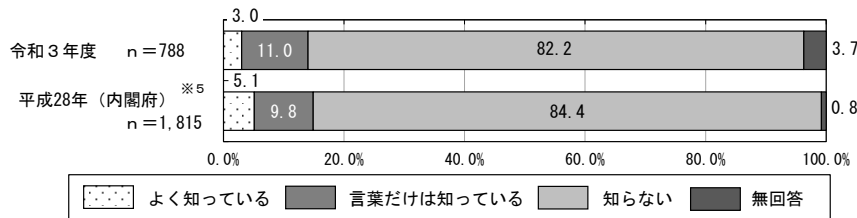
■がん登録の認知度（単数回答/全体）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
全体	788	24	87	648	29
	100.0	3.0	11.0	82.2	3.7

国の調査（内閣府^{※5}）と比較すると、いずれの調査年度も同じような傾向となっており、『平成 28 年（内閣府）』では“知っている”が 14.9%であるのに対し、『令和 3 年度』では同 14.0%と 0.9 ポイント（14.0%－14.9%）下回っている。

■がん登録の認知度（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
令和 3 年度	788	24	87	648	29
	100.0	3.0	11.0	82.2	3.7
平成 28 年 ※5 (内閣府)	1,815	-	-	-	-
	100.0	5.1	9.8	84.4	0.8

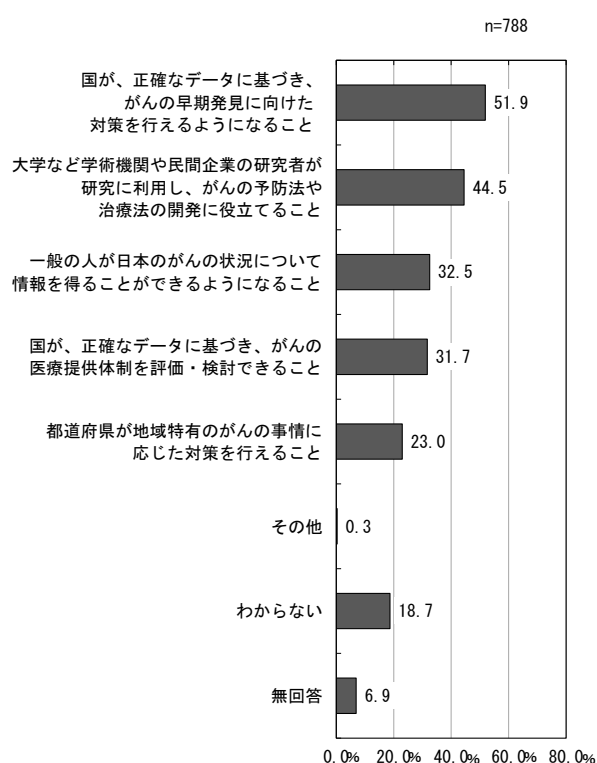
※5 がん対策に関する世論調査（平成 28 年 11 月） 内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

問 50 がん登録による期待するメリット

問 50 がん登録によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できます。あなたは何に期待しますか。【〇はいくつでも】

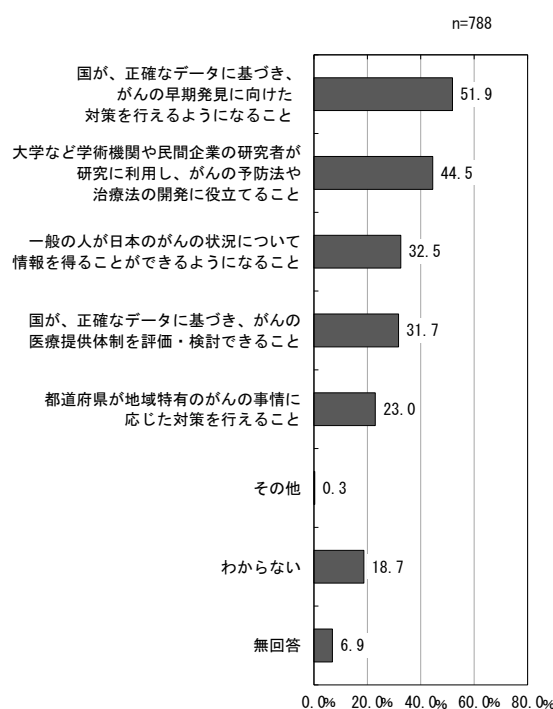
がん登録による期待するメリットについては、「国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること」が 51.9%と最も高く、次いで「大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること」が 44.5%、「一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること」が 32.5%の順となっている。

■がん登録による期待するメリット（複数回答/全体）



—参考—

がん登録による期待するメリットの支援内容の割合の高いもの順グラフ



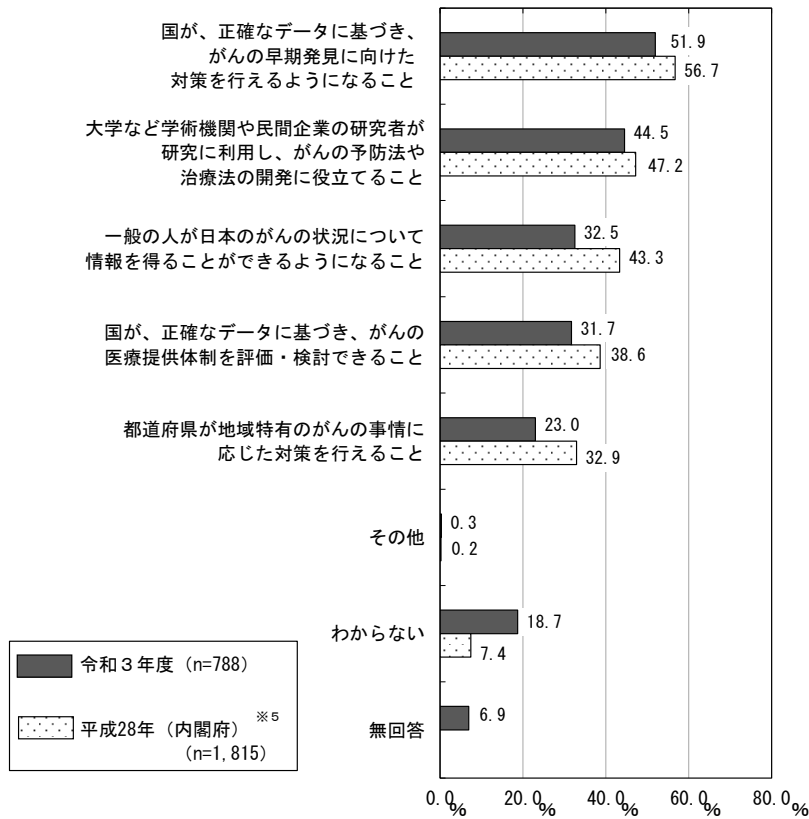
	n	国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること	国が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること	大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること	一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること	国が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること	都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること	その他	わからない	無回答
全体	788	409	351	256	250	181	2	147	54	
	100.0	51.9	44.5	32.5	31.7	23.0	0.3	18.7	6.9	

【その他】

- ・がん発生の原因である食品添加物の大変革（使わない）の推進が急務である。

国の調査（内閣府※⁵）と比較すると、「国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること」が『令和3年度』『平成28年（内閣府）』の調査の双方で最も高いのに対し、『令和3年度』では「大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること」、『平成28年（内閣府）』では「国が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること」が2番目に高くなっている。

■がん登録による期待するメリット（複数回答/国の調査との比較）



	n	こたが、国、のし、業大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ	こたが、国、の、し、業、大、が、開、の、学、の、が、を、ん、正、行、の、確、え、早、な、期、デ、よ、見、タ、に、向、基、る、け、づ
令和3年度	788	409	351	256	250	181	2	147	54
平成28年※ ⁵ (内閣府)	1,815	-	-	-	-	-	-	-	-
	100.0	51.9	44.5	32.5	31.7	23.0	0.3	18.7	6.9
	100.0	56.7	47.2	47.2	38.6	32.9	0.2	7.4	-

※⁵ がん対策に関する世論調査（平成28年11月） 内閣府

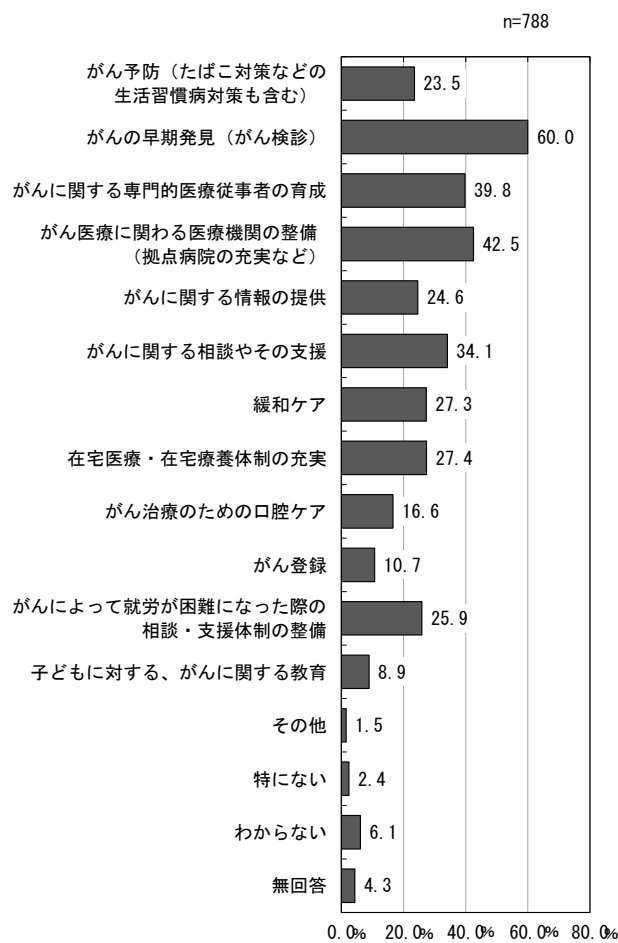
2-7. 全体的なことについて

問 51 がん対策で奈良県に望むこと

問 51 がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。
【〇はいくつでも】

がん対策で奈良県に望むことについては、「がんの早期発見（がん検診）」が 60.0%と最も高く、次いで「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」が 42.5%、「がんに関する専門的医療従事者の育成」が 39.8%の順となっている。

■がん対策で奈良県に望むこと（複数回答/全体）



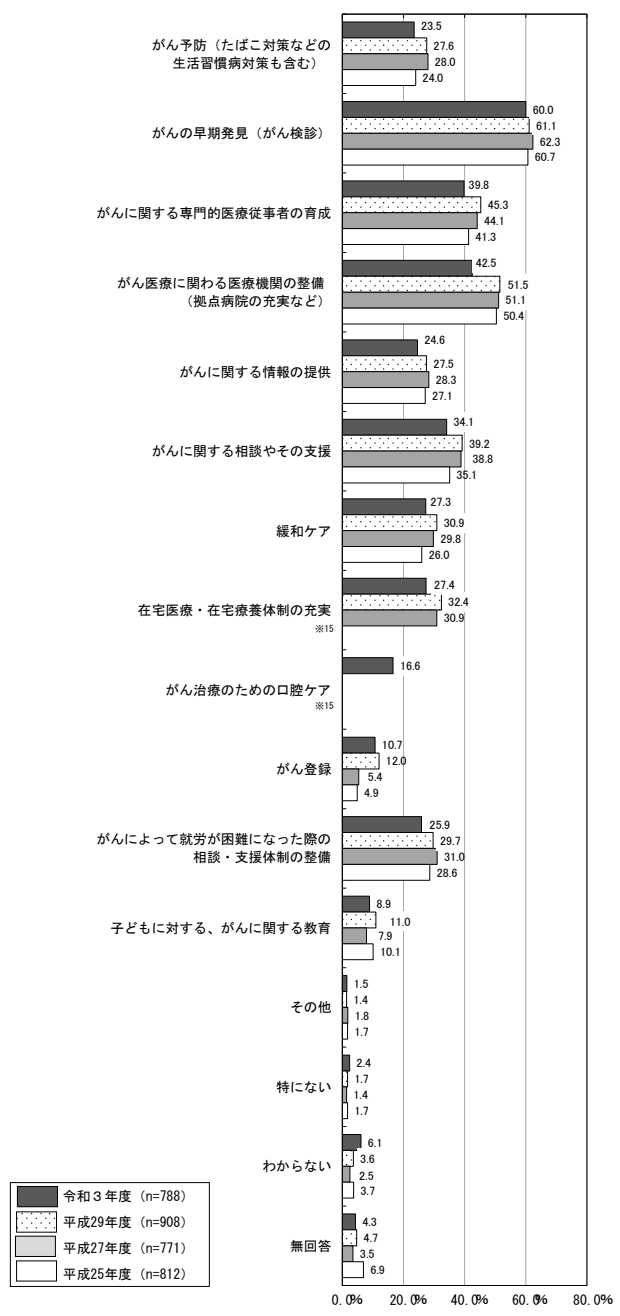
	n	どがんの診がん従事者から実関がんがん支が緩在宅アがんがん体になん関子そ特わわ無	ど	がん	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の														
	数	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん														
全体	788	185	473	314	335	194	269	215	216	131	84	204	70	12	19	48	34	100.0	23.5	60.0	39.8	42.5	24.6	34.1	27.3	27.4	16.6	10.7	25.9	8.9	1.5	2.4	6.1	4.3

【その他】

- ・治療内容によつての金額がわかる様にする
- ・抗ガン剤の副作用による手足のシビレの改善への研究
- ・ガン患者に対する税金の負担が大きい。

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も「がんの早期発見（がん検診）」が最も高くなっている。

■がん対策で奈良県に望むこと（複数回答/年度間比較）



※15 選択肢「在宅医療・在宅療養体制の充実」は平成27年より調査
 ※16 選択肢「がん治療のための口腔ケア」は令和3年度より調査

	n	がんの生活予防（たばこ対策も含む）	がんの早期発見（がん検診）	がんに関する専門的医療従事者の育成	がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）	がんに関する情報の提供	がんに関する相談やその支援	緩和ケア	在宅医療・在宅療養体制の充実 ※15	がん治療のための口腔ケア ※16	がん登録	がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	子どもに対する、がんに関する教育	その他	特にない	わからない	無回答
令和3年度	788	185	473	314	335	194	269	215	216	131	84	204	70	12	19	48	34
	100.0	23.5	60.0	39.8	42.5	24.6	34.1	27.3	27.4	16.6	10.7	25.9	8.9	1.5	2.4	6.1	4.3
平成29年度	908	251	555	411	468	250	356	281	294	-	109	270	100	13	15	33	43
	100.0	27.6	61.1	45.3	51.5	27.5	39.2	30.9	32.4	-	12.0	29.7	11.0	1.4	1.7	3.6	4.7
平成27年度	771	216	480	340	394	218	299	230	238	-	42	239	60	14	11	19	27
	100.0	28.0	62.3	44.1	51.1	28.3	38.8	29.8	30.9	-	5.4	31.0	7.9	1.8	1.4	2.5	3.5
平成25年度	812	195	493	335	409	220	285	211	-	-	40	232	82	14	14	30	56
	100.0	24.0	60.7	41.3	50.4	27.1	35.1	26.0	-	-	4.9	28.6	10.1	1.7	1.7	3.7	6.9

問 52 療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと（自由記述）

問 52 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

以下では、主な意見を上位最大 5 件まで抽出している。

□家族、友人、知人の支え（21 件）

- ・家族の協力、支えに感謝しています。（12 件）
- ・同じ患者さんに勇気づけられ、色んなアドバイスをもらえたこと。（4 件）
- ・友達が応援してくれること。（5 件）

□医師の対応（63 件）

- ・先生には満足・感謝しています。（18 件）
- ・病状について、丁寧に説明・聞いて下さる。（13 件）
- ・がん治療を受けて約 2 年になるが、医師に先の事が聞けず不安を感じて生活している。
- ・日常療養生活上、特に注意すべきことの説明があまりない。
- ・肺がん治療に優秀な先生が配属された事。

□看護師や病院関係者の対応（46 件）

- ・看護師や医師などが丁寧に対応してくれた。（12 件）
- ・先生や看護師さんが親身で色々聞いてくれた。（8 件）
- ・先生や看護師が話しやすかった。
- ・話し相手がいたこと（看護師、伝道士）
- ・病院を見つけて下さったことに感謝したい。

□治療の進め方（22 件）

- ・治療に関しては満足している・助かっている。（8 件）
- ・薬の副作用が少なかった。（3 件）
- ・抗がん剤や化学療法受けている時、いろいろと体の変化の事に対して、もう少し説明を話してほしい。（2 件）
- ・薬の副作用について患者の実体験をもっと知りたかった。
- ・大げさな云い方、表情などなく淡々と進めてもらえたことがよかった。

□病院の体制・設備（30 件）

- ・コロナ関連で出来ることが限られている。（5 件）
- ・病院での待ち時間が長い。（2 件）
- ・食事がまずい。（2 件）
- ・下着など備品で悩んだ。（2 件）
- ・病院の駐車場をどうにかして下さい。

□生きていることや健康のありがたさの再確認（19 件）

- ・前と変わらない普通の生活ができること。（4 件）
- ・退院後は、元気で生活を過ごしている。（4 件）
- ・日常生活で注意することを知っておけばよかった。
- ・がんになって、命の大切さを知った。
- ・食事や生活習慣を見直すきっかけが出来た。

□健康診断や早期発見の大切さ（11 件）

- ・早期発見していただき、感謝しております。（7 件）
- ・早期発見をできる体制をお願いします。

- ・ 2年1回程度受けている人間ドックで、本当に（0期のガンを見つけていただき）感謝しています。
- ・ 年1回の全身の検査、3ヶ月ごとの検査を定期的にしていただくことで、普段の生活が安心して過ごせている。

□医療制度（5件）

- ・ 保険加入が充分であったので経済的に助かった。（2件）
- ・ がん患者に対する治療費や税金の支払いに対する事を、もっと軽減の努力をしてほしい。安心して治療できません。
- ・ 国や県からの情報やサポートなどが一切届かない。特に県は実情実態を把握しているのか。
- ・ 高額医療制度が助かります。

□会社支援のありがたさ（5件）

- ・ 就労中、勤務先が入院等で休職する事に理解を示してくれてよかった（2件）。
- ・ 職場を十分に休めること。
- ・ 仕事先が理解あり、シフトの融通をしてくれたのがよかった。
- ・ 1ヵ月ほど休んで普通に職場復帰できた。

□家族の問題（2件）

- ・ コロナの影響で入院中、家族と会えなかったこと。
- ・ 母も同じ癌でなくし、いつか自分も同じ病名で苦勞するかもと思っていた矢先に癌になり、3年目で現在も治療中!! 医学が進み少しは安心しているのですが…。

□自分の健康、再発等への精神的不安（15件）

- ・ 療養生活がいつまで続くのか、どれくらいでもどれるのか。（4件）
- ・ 抗がん剤の治療が辛い。（2件）
- ・ ガンになってからは、少しの間心が不安定になりました。
- ・ 特に不満や疑問に感じた事は無く、なるようにしかならないと思い過ごしました。
- ・ 体力の低下で歩く事がつらいのと味覚がなく食欲なし。

□仕事や社会生活への復帰（4件）

- ・ 職場復帰できると思っていたけど体力がなく、とてもつかれた。職場復帰直後は時短など配慮をしてほしい。
- ・ 廃業したことにより収入がなくなり、家族全員が苦しんでいます。
- ・ 会話少なく仕事したい。
- ・ 毎日のんびり過ごしています（犬の散歩、時々、孫の世話）など。気持ちは働きたいのですが、身体がしんどくて…。

□医療費等経済的不安・不満（8件）

- ・ がんの治療代が高いことが心を痛めます。（5件）
- ・ がん患者に対する治療費や税金の支払いに対する事を、もっと軽減の努力をしてほしい。安心して治療できません。
- ・ 何の知識等ない中で、患者は医者を選ばずセカンドオピニオンによって光明を見出せたことが良かったと思う。金額がちょっと高く二の足を踏む人もいるのでは？
- ・ 金銭面の不自由さ

問 53 医療機関や行政に対するがん医療に関する意見（自由記述）

問 53 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見を上位最大5件まで抽出している。

A. 医療機関に対しての自由意見

□医師について（18件）

- ・もう少し病状について説明がほしかった。（4件）
- ・担当医は親切に丁寧に説明して下さるのですが、専門用語を使用されるので一般人には理解するのが難しいです。
- ・今は良くなって来ていると思うけど専門分野の医師育成。

□看護師等病院スタッフについて（21件）

- ・担当医、看護師、スタッフの方々、皆様の温かさに気持ち良く治療していただき感謝しています。（10件）
- ・医師、看護師さん、病院関係者の待遇をもっと改善して欲しい。
- ・主治医の話を患者家族、看護師いっしょに聞いていたのに、患者側と看護師で見解が違っているのはなぜかと思う。誰が聞いても同じように受けとる説明をすべきではないか。長い間お世話になったが、最後の主治医、看護師の対応がとても残念であった。

□専門病院・医療機器の充実について（14件）

- ・がん専門病院の充実。（3件）
- ・出来るだけ最新の医療機器を導入していただいて、常に新しい治療を行って頂きたい。
- ・奈良県のかかりつけ医と拠点病院の連携はとても良い制度と思っています。
- ・癌の病気に関しても以前に比べ、治療法も進み、沢山の病院が増して以前に比べて凄く発展したと思います。進んだ医学に安心して治療が出来ると感じて居ります。

□病院の体制・設備について（23件）

- ・がん医療に限ったことではないが診察の際の待ち時間が長く、体力的にきつと感じる。（5件）
- ・治療経過について、事例の集積が不足しているのではないかな？
- ・担当医が県内病院に異動時、患者も同じ病院に変わる事ができるようにして欲しい。

□緩和ケアについて（5件）

- ・緩和ケアについて今後さらに広まってもらいたい（専門医や対応施設の拡大等…）
- ・多くの癌患者をかかえている病院でこそ、食事療法、運動、内服、歯科衛生など癌そのものだけでなく、その時に応じた、その人に必要なケアの提供がほしいです。

□医療費について（6件）

- ・がん医療に関して入院代金を含め、お金面のことをもっと教えてくれたらよいなと思いました。いくらぐらいかかるのだろうと少し不安になった時があった。（3件）
- ・治療が長期になると経済面での心配が大です。私の場合、生命保険に加入していたので、今のところ何とか治療を続けられますが経済面で負担になり過ぎないように、何とかならないものかと思えます。（2件）

□診療・治療について（24件）

- ・患者の治療について、今後についてわかりやすく説明してほしい。（4件）
- ・がん患者に対して15年前にくらべてかなり手厚くなった事は、とても良い事だと思った。今回は本当に心地よく治療していただいていると思う。
- ・退院後も定期的に診療や検査を行っていただいているので再発を防ぐためにも精神的にもたいせつな事だと思います。

□情報提供について（12件）

- ・もっと気軽に検診をうけたくなるようによびかけてもらいたい。早期発見のために。（2件）
- ・たくさんの治療の選択肢を教えてください。自分で決められない事に対してよりそったアドバイスがほしい。
- ・生活上、経済的なことに関して相談支援体制の充実を望みます。

□その他（28件）

- ・満足していただきありがたい。（4件）
- ・良くしていただいた。（3件）
- ・日進月歩で医療技術が進んでいるので早くガンで亡くなる事がない世の中になって欲しいです。（2件）
- ・がんは60歳以上にかかる方が意外と多いのだと気づかされました。40歳以上の方は人間ドックにかかるという気持ちをもってほしいと願います。

B. 行政に対しての自由意見

□医療体制の充実について（20件）

- ・がん専門病院とがん専門医者の充実。（4件）
- ・日進月歩する医療の新薬、新機器を医療機関にできるだけ速く導入できる補助を強化して頂きたい。（3件）
- ・癌の精神的ケアについてどの医療機関でも受けることが出来るようにしてほしい。

□相談支援・情報提供について（26件）

- ・がんに対する広報を住民にもっと呼びかけてほしい。（3件）
- ・がん医療に関して行政が何をしてくれるのかが全くわからない。（2件）
- ・患者の体験談を行政機関が発信する情報提供サイトや冊子で積極的に取り上げてほしい。すべてのがんの種類について。（2件）

□がん予防・がん検診について（9件）

- ・任意でクーポンを配るだけでなく、健診を受けておこうと思えるようなワクチン接種のような大きなよびかけをしてもらいたい。
- ・乳ガンになると子宮のガンになりやすいと聞きました。乳ガン患者に対して子宮頸がん、体ガンの検診クーポンを発行していただきたい。
- ・ガン検診等早期発見に繋げる為、未受診者への個別の受診に向けての対応（個別説明）が出来ないものか、未受診者の事情を詳しく把握すべきと思う。

□社会復帰・社会支援について（21件）

- ・健康保険制度は本当にありがたいと思う。（2件）
- ・がん患者を十分にサポートする制度があれば嬉しいです。
- ・医療費控除は少ないが、がん治療に関しては別の控除制度があってもよいのではないかと。
- ・ガンになった事での収入減の人を対象に特に給付金などのサポートが欲しい。

□医療費や経済的なことについて（37件）

- ・医療費が高額で大変です。補助があれば嬉しいです。（15件）
- ・高額治療費に対して負担額を少なくして欲しい。（3件）
- ・がん療養中の経済支援体制を充実させてほしい。
- ・収入がゼロにもかかわらず税金だけは徴収する。
- ・保険の限度額が限度額を超え2倍支払うのは不満。医療機関を3件通院した場合など各21000円以下なら全額支払いとなる。限度額3万程のところ7万の支払い！どうにかしてほしい。

□その他（32件）

- ・アンケート項目、質問をもっとしぼり込むこと。やや疲れた。
- ・がん発生環境の改善は皆無に等しいのではないかと。薬品（農薬）食品添加物、遺伝子組み換え等の危険性を見直しも同じく野放し状況ではないのか。行政として責任ある政治を実践してほしい。
- ・患者意識調査について、「現在の治療云々」が、私のように医療機関が変わっている場合、設問により回答に窮する場合があります。設問をご一考いただければと思います。
- ・早期に発見していただき感謝しています。行政御当局の取組について素晴らしいと思います。

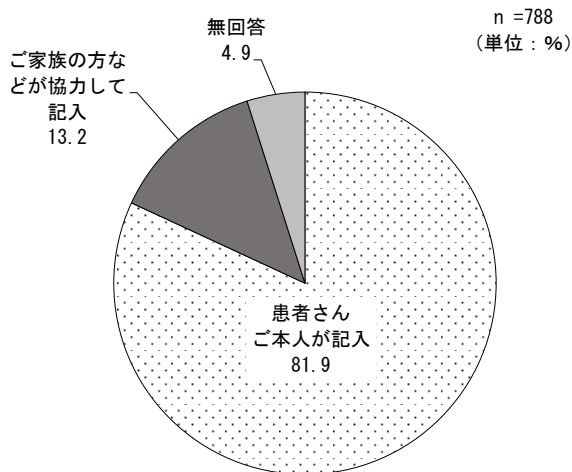
2-8. 患者本人について

問 54 記入者

問 54 このアンケートの記入者はどなたですか。【○はひとつだけ】

このアンケートの記入者については、「患者さんご本人が記入」が 81.9%、「ご家族の方などが協力して記入」が 13.2%と、約 8 割が本人記入となっている。

■記入者（単数回答/全体）



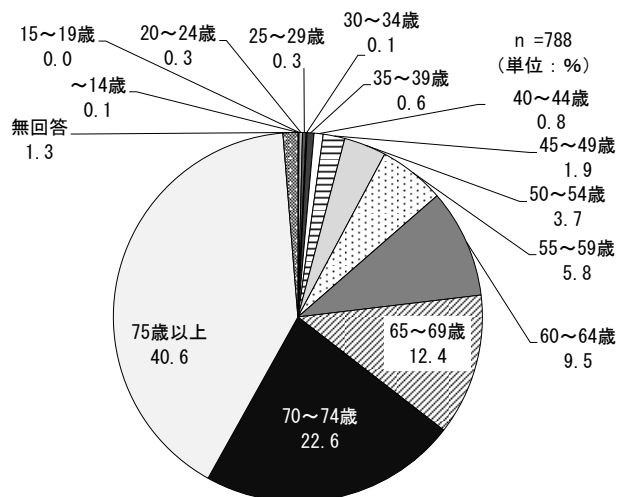
	n 数	患者さんご本人が記入	ご家族の方などが協力して記入	無回答
全 体	788 100.0	645 81.9	104 13.2	39 4.9

問 55 年齢

問 55 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳ですか。

患者の年齢については、「75歳以上」が40.6%と最も高く、「70～74歳」が22.6%、「65～69歳」が12.4%の順となっている。60歳以上が全体の75.6%と約7割を占めている。

■年齢（単数回答/全体）



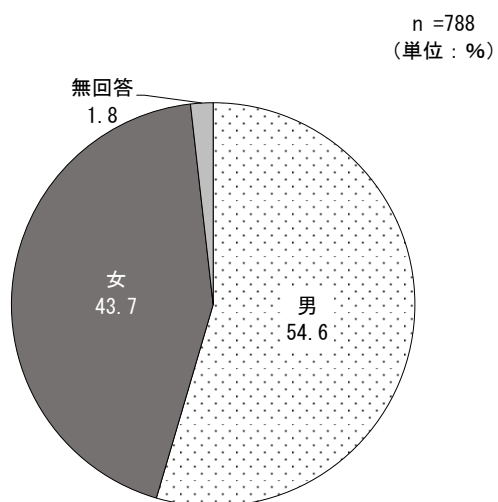
	n	5 1 4 歳	5 1 9 歳	5 2 4 歳	5 2 9 歳	5 3 4 歳	5 3 9 歳	5 4 4 歳	5 4 9 歳	5 5 4 歳	5 5 9 歳	6 0 4 歳	6 5 9 歳	7 0 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
全 体	788	1	-	2	2	1	5	6	15	29	46	75	98	178	320	10
	100.0	0.1	-	0.3	0.3	0.1	0.6	0.8	1.9	3.7	5.8	9.5	12.4	22.6	40.6	1.3

問 56 性別

問 56 患者さんご本人の性別を教えてください。【○はひとつだけ】

患者の性別については、「男」が 54.6%、「女」が 43.7%で「男」:「女」= 5 : 4 となっており、「男」のほうが多くなっている。

■性別（単数回答/全体）



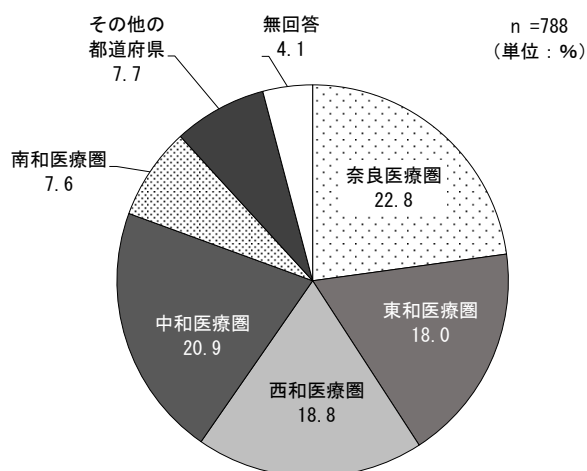
	n	男	女	無回答
全体	788 100.0	430 54.6	344 43.7	14 1.8

問 57 居住する医療圏

問 57 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

患者の居住する医療圏については、「奈良医療圏」が 22.8%と最も高く、次いで「中和医療圏」が 20.9%、「西和医療圏」が 18.8%となっている。

■居住する医療圏（単数回答/全体）



	n	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏	その他の都道府県	無回答
全 体	788	180	142	148	165	60	61	32
	100.0	22.8	18.0	18.8	20.9	7.6	7.7	4.1

医療圏	市町村名
奈良	奈良市
東和	天理市、桜井市、宇陀市、(山辺郡)山添村、(磯城郡)川西町、三宅町、田原本町、(宇陀郡)曽爾村、御杖村
西和	大和郡山市、生駒市、(生駒郡)平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、(北葛城郡)上牧町、王寺町、河合町
中和	大和高田市、橿原市、御所市、香芝市、葛城市、(高市郡)高取町、明日香村、(北葛城郡)広陵町
南和	五條市、(吉野郡)吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村

【その他の都道府県】

- ・三重県 (27 件)
- ・京都府 (27 件)
- ・大阪府 (5 件)
- ・兵庫県
- ・徳島県

(参考) アンケート調査票

(参考) アンケート調査票

ならのがんに関する患者意識調査 ご協力をお願い

県では平成30年3月に第3期奈良県がん対策推進計画を策定し、「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を基本理念に、がん医療や患者支援など様々な取組を医療関係者と連携し進めています。

このたび、取組の進みぐあいや、県内の病院で治療を受けておられる患者のみなさまのニーズを把握することを目的に、調査を実施することといたしました。調査結果は、以前実施した調査結果と比較することで、これまでの取組を評価し、今後に活かしたいと考えています。また、協力いただいた医療機関にも結果をお届けします。

お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、ご回答は個人が特定されないよう無記名でお願いするとともに、回答いただいた内容は統計目的以外には用いることはありませんので、率直な意見をお聞かせください。

令和3年10月 奈良県

ご記入について

- 当調査は20分程度で回答できる分量となっておりますが、記入が困難な方はご家族などに協力いただくなど、無理のない範囲でお願いします。
- それぞれの間で、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 「その他」に○印をつけられた場合や、記述式の間の場合には、() 内に内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆で、はっきりとわかりやすくお願いします。
- ご回答が済みましたら、一緒にお渡しした返信用封筒に調査票を入れて密封の上、**令和3年11月12日(金)**までに、お近くの郵便ポストに投函してください。
(切手は不要です。)

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記へお問い合わせください。

奈良県福祉医療部医療政策局疾病対策課 がん対策係
電話 0742-27-8928 (直通)

ならのがんに関する患者意識調査 調査票

■ 以下の質問は、がん患者さんご本人についてご記入ください。

医療機関で受けた診断や治療について

問1 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

昭和 ・ 平成 ・ 令和 _____年_____月頃 (当時 _____ 歳)

問2 最初のがんと診断された部位はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | | |
|-------|-----------|-------------------|
| 1. 肺 | 5. すい臓 | 9. 乳房 |
| 2. 食道 | 6. 大腸 | 10. 子宮 |
| 3. 胃 | 7. 血液・リンパ | 11. 卵巣 |
| 4. 肝臓 | 8. 前立腺 | 12. その他 (_____) |

問3 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 奈良県立医科大学附属病院 | 6. 南奈良総合医療センター |
| 2. 奈良県総合医療センター | 7. 国保中央病院 |
| 3. 天理よろづ相談所病院 | 8. 済生会中和病院 |
| 4. 近畿大学奈良病院 | 9. 大和高田市立病院 |
| 5. 市立奈良病院 | 10. その他 (_____) |

問3-1 問3で1.~9.の病院にかかっている方で、地域の病院や診療所のかかりつけ医（注参照）をお持ちですか。【○はひとつだけ】

（注）かかりつけ医：地域の病院や診療所の医師。身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師のこと。

1. 持っている（現在、かかりつけ医での通院なしも含む）
2. 持っていない

問4 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）状況を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 治療の開始前
2. 治療を継続中
3. 治療が終わり経過観察や定期検査中
4. 治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態
5. その他 (_____)

問5 がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください。【○はいくつでも】

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 手術 | 5. 放射線治療 |
| 2. 内視鏡治療 | 6. 治療をしていない |
| 3. 化学療法（抗がん剤/分子標的薬） | 7. その他 (_____) |
| 4. ホルモン療法 | 8. わからない |

裏面（次ページ）にも記入してください

問6 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【○は3つまで】

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 医師による紹介 | 11. 技術のすぐれた医師がいる |
| 2. 家族・友人・知人からのすすめ | 12. 専門性が高い医療を提供している |
| 3. 薬局や他の医療関係者からの紹介 | 13. 様々な症状に対応できる医療を提供している |
| 4. 自宅や職場・学校に近い | 14. 受けたい検査や治療をおこなっている |
| 5. 交通機関の便がよい | 15. 生存率、合併症発生率などの治療成績が良い |
| 6. 以前に来たことがある | 16. 入院にかかる経済的負担が少ない |
| 7. 以前に受診した医療機関に満足できなかった | 17. 連携している医療機関・福祉施設が充実 |
| 8. 大きな病院で安心そう | 18. その他 (_____) |
| 9. 病室などがきれいな病院だから | 19. 特に理由はない |
| 10. 医師や看護師が親切 | |

問7 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【○はいくつでも】

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 医療機関の相談窓口 | 8. 新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組 |
| 2. 病院が発信するインターネットの情報 | 9. 医師（かかりつけ医）からの情報 |
| 3. 病院の看板やパンフレットなどの広告 | 10. 知人や家族からの情報 |
| 4. 行政機関の相談窓口 | 11. その他 (_____) |
| 5. 行政機関が発信するインターネットの情報 | 12. 特に情報は入手していない |
| 6. 行政機関が発行する広報誌やパンフレット | |
| 7. 病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報 | |

問8 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

内 容	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	その他
医師による診療・治療内容に満足していますか。	5	4	3	2	1	0
医師との対話に満足していますか。	5	4	3	2	1	0
医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか。	5	4	3	2	1	0
全体として病院に満足していますか。	5	4	3	2	1	0

問9 問8のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。不満な点は具体的にどのような点ですか。また、それに対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

不満な点は、具体的にどのような点ですか。	
不満な点について、どのような対応を望みますか。	

問10 がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、ご自身が納得いく治療を選択することができましたか。【○はひとつだけ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. そう思う | 4. あまりそう思わない |
| 2. ややそう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問 11 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。
【○はひとつだけ】

1. よくわかった
2. だいたいわかった
3. あまりわからなかった
4. まったくわからなかった
5. 説明を受けていない → 【問 13 へおすすみください】

問 12 問 11 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【○はひとつだけ】

1. 十分に伝えられた
2. 質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった
3. 的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった
4. その他の理由で、十分には伝えられなかった
5. 疑問や意見は特になかった

※問 13、問 14→男性も女性もお答えください。

問 13 最初のがん治療が開始される前に、その治療による不妊への影響について、医師から説明を受けましたか。【○はひとつだけ】

1. 不妊への影響がある、という説明を受けた → 【問 14 へおすすみください】
2. 不妊への影響がない、という説明を受けた
3. 説明はなかった → 【問 15 へおすすみください】
4. わからない

問 14 それは、どのような説明でしたか。【○はひとつだけ】

1. 不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった
2. 不妊の影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった
3. 不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった
4. わからない

問 15 あなたが治療を受けている病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフはあなたから見て十分に連携していると思いますか。【○はひとつだけ】

1. よく連携している
2. ある程度連携している
3. あまり連携していない
4. まったく連携していない
5. どちらともいえない
6. わからない

裏面（次ページ）にも記入してください

問 16 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。（「がん治療」には治療しないという方針も含まれます。）
【○はひとつだけ】

1. 十分提供してくれた
2. ある程度得られた
3. あまり得られなかった
4. 全く得られなかった
5. どちらともいえない
6. 覚えていない／わからない

問 17 がん治療が始まる前にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【○はひとつだけ】

1. 説明があった
2. 説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した。
3. 説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった。
4. わからない／覚えていない

問 18 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【○はひとつだけ】

1. 受けたことがある
2. 受ける予定がある
3. 受けたことがない

問 19 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

内 容		そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
からだの苦痛	痛みがある	5	4	3	2	1
	痛み以外の症状がある	5	4	3	2	1
気持ちがつらい		5	4	3	2	1
経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある		5	4	3	2	1

問 20 「がん医療における緩和ケア（以下「緩和ケア）」とは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげるとともに、がんになったことによる様々な不安に対し、それを和らげることですが、あなたは、がん医療における「緩和ケア」について知っていますか。【○はひとつだけ】

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

問 21 「緩和ケア」はいつから実施されるべきものと思っていますか。【○はひとつだけ】

1. がんと診断されたときから
2. がんの治療が始まったときから
3. がんが治る見込みがなくなったときから
4. その他（ _____ ）
5. わからない

次のページにも記入してください

問 22 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「緩和ケア外来」（注参照）を知っていますか。
【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア外来：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、通院中の患者さんが緩和ケアを受けられる「緩和ケア外来」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院に設置。

1. 知っている
2. 知らない

問 23 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。

問 23-1 「からだの苦痛」について、（主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで）緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

1. 経験がある _____ → 【問 23-2 へおすすみください】
2. 経験がない _____ → 【問 23-3 へおすすみください】
3. わからない/覚えていない _____

問 23-2 問 23-1 で「からだの苦痛」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
「からだの苦痛」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
症状が改善した	5	4	3	2	1

問 23-3 「気持ちのつらさ」について、（主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで）緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

1. 経験がある _____ → 【問 23-4 へおすすみください】
2. 経験がない _____ → 【問 24 へおすすみください】
3. わからない/覚えていない _____

問 23-4 問 23-3 で「気持ちのつらさ」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
「気持ちのつらさ」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
症状が改善した	5	4	3	2	1

問 24 あなたはこれまで受けた治療に納得していますか。【〇はひとつだけ】

1. 納得している
2. やや納得している
3. どちらともいえない
4. あまり納得していない
5. 納得していない

裏面（次ページ）にも記入してください

地域連携について

問 25 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所・訪問看護ステーションに円滑に伝わったと思いますか。【〇はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない
6. 退院後、診療所・在宅医療は利用していない
7. わからない

問 26 がんの治療中や経過観察中に、病院のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医等が連携して患者さんを診療していく制度（「がん地域連携クリティカルパス（注参照）」または「私のカルテ」等）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）がん地域連携クリティカルパス：がん診療連携拠点病院等のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医等が連携して、計画的に患者を診療していく制度。奈良県では、県統一版「私のカルテ」、院内独自で作成された「がん地域連携クリティカルパス」などのツールが利用されている。

1. 病院から説明を受け、この制度を利用している
2. 病院から説明を受けたが、この制度は利用していない
3. 病院からの説明はなかったが、この制度の存在は知っている
4. この制度の存在を知らない

今後の療養について

問 27 在宅で緩和ケアを受けられること（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）在宅での緩和ケア：在宅医やかかりつけ医による訪問診療や往診により、在宅での緩和ケアを受けること。

1. 知っている
2. 知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

問 28 在宅での緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

1. 在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う
2. 在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする
3. 希望しない
4. 経験した（現在受けている）
5. わからない

問 29 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思えますか。【〇はいくつでも】

1. 病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制
2. 在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制
3. 在宅患者の体調が悪化した場合にすぐ訪問したり対応してくれる在宅医や訪問看護師の存在
4. 在宅療養に関して必要な情報の入手や相談できる体制
5. 家族の不安（心のケア）に対して相談できる体制
6. 家族の介護負担を軽減するため、患者が短期入院できる体制
7. 訪問看護、訪問介護の利用対象の拡大
8. 車いすやベッドなどの福祉用具の充実
9. その他（_____）
10. わからない

問 30 もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるとすれば、どこで過ごしたいと思いますか。
【○はひとつだけ】

(注) 緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした積極的な治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

1. 今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）
2. 緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい
3. 在宅医療を受けながら、自宅で療養したい
4. その他（_____）
5. わからない

相談支援・情報提供について

問 31 がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。
【○はいくつでも】

1. からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある
2. からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている
3. 誰に（どこに）相談すればよいのかわからない
4. がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている
5. がんに関する情報をどうやって手に入れたらよいかかわからない
6. その他（_____）

問 32 あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。
【それぞれ○はひとつだけ】

内容	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
がんの治療方法についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
病院の診療体制や治療情報についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
緩和ケアについての情報が不十分である	5	4	3	2	1
がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	5	4	3	2	1
自宅での療養生活についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	5	4	3	2	1
がん治療のための口腔ケアについての情報が不十分である	5	4	3	2	1

問 33 奈良県が、県内のがん情報を総合的に発信している「がんネットなら」（注参照）を利用したことがありますか。【それぞれ○はひとつだけ】

(注) がんネットなら：インターネットを利用して、奈良県にお住まいのがん患者さんやご家族の皆さんが療養生活を送る際に役立つ情報や、県内で開催されるがんに関するイベント・研修情報など幅広く発信している。

1. 知っており、利用したことがある
2. 知っているが、利用していない
3. 知らない

裏面（次ページ）にも記入してください

問 34 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「がん相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センター：がん診療連携拠点病院等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「がん相談支援センター」が設置されており、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供を受けられる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院に設置している。

1. 利用したことがある
2. 院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない
3. あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない
4. 知らない

問 35 「患者サロン」（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを知っていますか。【○はひとつだけ】

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない
3. 知らない

問 36 がんの治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）に関する悩みを誰かに相談できましたか。【○はひとつだけ】

1. 相談を必要としなかった
2. 相談が必要か分からなかった
3. 相談が必要だが、できなかった
4. 相談できた
5. わからない

問 37 がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの相談支援によって現在は軽減されたと思いますか。【○はひとつだけ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. そう思う | 4. あまりそう思わない |
| 2. ややそう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

治療と就労について

問 38 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

次のページにも記入してください

問 39 がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【○はひとつだけ】

1. 正規の職員・従業員 _____
 2. パート・アルバイト（学生を除く） _____
 3. 派遣社員・契約社員・嘱託 _____
 4. 自営業・家族従業員 _____
 5. 家事専業・家事手伝い _____
 6. 無職 _____
 7. 学生 _____
 8. その他（ _____ ） _____
- 【問 40 へおすすみください】
- 【問 42 へおすすみください】
- 【問 46 へおすすみください】

問 40 問 39 で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。
【○はひとつだけ】

1. 十分得られた _____
 2. ある程度得られた _____
 3. 得られなかった _____
 4. 理解・支援は必要なかった _____
 5. その他（ _____ ） _____
- 【問 41 へおすすみください】
- 【問 42 へおすすみください】

問 41 問 40 で 1, 2 と回答された方にお伺いします。
仕事の継続に対して、事業主からどのような支援を受けましたか。【○はいくつでも】

1. 年次有給休暇の時間単位での取得
2. 短時間勤務への変更
3. フレックス勤務への変更
4. 在宅勤務への変更
5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など）
6. 体調を考慮した配置転換
7. 職場復帰支援へのアドバイス（産業医等からの助言指導）
8. 職場復帰前の面談（意向確認）
9. 休職前の部署・ポジションへの復帰
10. 休職前の賃金補償
11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保
12. その他（ _____ ）

問 42 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
がんで初めて治療・療養した時、一定期間（連続して3か月以上）仕事を休みましたか。また、その後復職・復帰しましたか。【○はひとつだけ】

1. 休まなかった
2. 現在まで継続して休んでいる
3. 一定期間休み、その後、復職・復帰した
4. 一定期間休み、その後、復職・復帰せずに退職・廃業した
5. 一定期間休みをとることなく、退職・廃業した
6. その他（ _____ ）

問 43 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
がん治療・療養のための退職・廃業の有無と、現在の仕事の状況について、教えてください。
【〇はひとつだけ】

1. 退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）
2. 退職・廃業をしたことがあるが、現在は再就職・復業・開業している
3. 退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない
4. 退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない
5. その他（_____）

問 44 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
治療を始める前に就労の継続について病院の医療スタッフから話がありましたか。
【〇はひとつだけ】

1. 説明を必要としており、話があった
2. 説明を必要としていなかったが、話があった
3. 説明を必要としていたが、話なかった
4. 説明を必要としておらず、話なかった
5. わからない

問 45 問 39 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
がんの治療と仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか。
【〇はいくつでも】

1. 年次有給休暇の時間単位での取得
2. 短時間勤務への変更
3. フレックス勤務への変更
4. 在宅勤務への変更
5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など）
6. 体調を考慮した配置転換
7. 職場復帰支援へのアドバイス制度（産業医等からの助言指導）
8. 職場復帰前の面談（意向確認）
9. 休職前の部署・ポジションへの復帰補償
10. 休職前の賃金補償
11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保
12. 相談窓口の設置
13. その他（_____）
14. 必要ない
15. わからない

問 46 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、
どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

1. 医療機関における相談支援体制の充実
2. 職場における相談支援体制の充実
3. 行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実
4. 行政機関が発信する情報提供サイトの充実
5. 行政機関が発行する情報冊子の充実
6. その他（_____）
7. 特に、充実は望まない
8. わからない

次のページにも記入してください

問 47 県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談（注参照）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センターにおける就労相談：がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの治療と就労の両立支援に向けた取組として、社会保険労務士による就労相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院に設置している。

1. 知っている
2. 知らない

問 48 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターのがん相談支援センターがハローワークと連携して実施している、がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談（注参照）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談：奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターでは、ハローワークと連携し、ハローワークから就職支援ナビゲーターを定期的に病院へ派遣し、がん患者等の長期療養者（糖尿病や肝炎等）に対する就職相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。

1. 知っている
2. 知らない

がん登録について

問 49 あなたは、「がん登録」（注参照）について知っていましたか。【○はひとつ】

（注）がん登録：今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、がん患者ひとりひとりの診断データや、その後の経過、生存状況について収集することを「がん登録」という。

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

問 50 がん登録によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できます。あなたは何に期待しますか。【○はいくつでも】

1. 国や県が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること
2. 大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること
3. 一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること
4. 国や県が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること
5. 都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること
6. その他（_____）
7. わからない

全般的なことについて

問 51 がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。【○はいくつでも】

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. がん予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む） | 9. がん治療のための口腔ケア |
| 2. がんの早期発見（がん検診） | 10. がん登録 |
| 3. がんに関する専門的医療従事者の育成 | 11. がんにより就労が困難になった際の相談・支援体制の整備 |
| 4. がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など） | 12. 子どもに対する、がんに関する教育 |
| 5. がんに関する情報の提供 | 13. その他（_____） |
| 6. がんに関する相談やその支援 | 14. 特にない |
| 7. 緩和ケア | 15. わからない |
| 8. 在宅医療・在宅療養体制の充実 | |

問 52 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

○よかったことや不満、疑問に感じたこと

問 53 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

○医療機関に対して

○行政に対して

最後に、患者さんご本人のことについて

問 54 このアンケートの記入者はどなたですか。【○はひとつだけ】

1. 患者さんご本人が記入 2. ご家族の方などが協力して記入

問 55 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳ですか。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. ~14 歳 | 6. 35~39 歳 | 11. 60~64 歳 |
| 2. 15~19 歳 | 7. 40~44 歳 | 12. 65~69 歳 |
| 3. 20~24 歳 | 8. 45~49 歳 | 13. 70~74 歳 |
| 4. 25~29 歳 | 9. 50~54 歳 | 14. 75 歳以上 |
| 5. 30~34 歳 | 10. 55~59 歳 | |

問 56 患者さんご本人の性別を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 男 2. 女

問 57 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

(_____) 都・道・府・県 (_____) 市・町・村

調査にご協力いただきありがとうございました。

返信用封筒に入れて密封の上、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

✂切：令和3年11月12日（金）【当日消印有効】

ならのがんに関する患者意識調査
報告書

2022年3月
奈良県福祉医療部医療政策局
疾病対策課 がん対策係

〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 (0742) 27-8928
URL <https://www3.pref.nara.jp/gannet/>
